滋賀県男女共同参画センターでは、さまざまな女性のチャレンジ支援事業を行っています。

「女性のチャレンジ支援講座」は、起業、キャリアアップなど一歩を踏み出したい女性に対する講座。また、「チャレンジショップ」は、ショップを持つ前に接客など実際の起業に必要な実践を学ぶ場を提供しています。事業開始以来、どちらも多くのチャレンジャーを送り出してきました。

続くあなたへのエールをこめて、現在活躍中のみなさんを紹介します。

働きたい！

1．木村　洋子さん（社会福祉法人さざなみ会グループホームさざなみ苑　主任）
2．望主　明日香さん（湖南広域行政組合消防本部・南消防署勤務）
3．村山　春奈さん（クラブハリエ日牟禮カフェ勤務　バリスタ）

キャリアアップ・学習したい！

1．増子　英理さん(増子鈑金工業所)
2．林　かずみさん(生活協同組合コープしが商品検査センター　センター長)
3．真多　美恵さん（女性起業プロデューサー・ファイナンシャルプランナー）

起業したい！

1．吉坂　孝さん（有限会社くのいち本舗　代表取締役社長）
2．西島　かおるさん（アロマテラピーのお店「おれんじぴーる」　代表）
3．寺本　哲子さん(有限会社でじまむワーカーズ　代表取締役)
4．那須　信子さん(（株）農環　代表取締役)

5．村上　瞳さん(ママカル主宰、カラー&イメージコンサルタント他)
6．森　友美子さん(作業所のお菓子を紹介するRAINBOW LIGHT SWEETS SHOP運営)
7．松野　なおこさん（自宅アロマトリートメントルーム　aromaarancia！～アロマアランチャ～経営）
8．川原　あけみさん（華師　華屋はぴねすBuquette（幸せの花束）経営）
9．森本　友子さん（ランチ・グランマ経営）
10．廣瀬　香織さん（MOM企画代表・フリーマガジン「ピースマム」　編集長）
11．松田　禎子さん（フラワーデザイナー、フラワーデザイン教室「Favorite Flower」主宰、チャレンジショップ「Favorite Flower」　店主）
12．堀　裕子さん（堀裕子行政書士事務所）
13．新井　久美子さん（ぱん工房　る・くぷる）
14．田中　香織さん（整体院・花香グループ代表、東洋式リンパ療法研究所所長、療術メディケア学院校長）
15．井原　米子さん（コミュニティカフェ「MAMA・き・MAMA」　店主）
16．奥村　ひとみさん（「ドリームアイランド　汀の精」　店主）
17．藤岡　いづみさん（野菜ソムリエ）
18．山崎　泉さん（Root×coworking space　マネージャー）
19．増山　いづみさん（フラワーライフスタイリスト「花のある暮らしのアトリエRose＋」　主宰）
20．岡田　友美さん（「佐々木文具店」　店主）
21．提中　知子さん（「薬膳さろんつむぎ」　主宰）
22．北野　麻紀子さん（アイシングクッキーとお菓子のおうちサロン「Salon de Petit Four」　主宰）

地域で活躍したい！

1．平松　成美さん（NPO法人「絵本による街づくりの会」　理事長）
2．福井　久美子さん（NPO法人「NPOぽぽハウス」　施設長）
3．鹿田　由香さん（滋賀子育てネットワーク　代表）
4．中野　栄美子さん（環境しがの風）
5．福井　美知子さん（まちづくり仕掛人）
6．仲谷　由美子さん（NPO法人日本理美容福祉協会　滋賀米原センター代表）
7．三浦　美香さん（一般社団法人比良里山クラブ　代表理事）
8．徳田　直美さん（ピアニスト）
9．小見山　康子さん（株式会社水郷のさと　まるやま　代表取締役）

農業分野で活躍したい！

１．古株　明子さん（有限会社古株牧場　取締役）
２．三峰　教代さん、佐々木　由珠さん（fm craic（エフエム　クライック））
３．辻　喜代子さん（辻喜農園　代表）
４．片山　恵美さん（農業）

子育て・介護の支援を知りたい！

１．伊藤　幸枝さん（NPO 法人「子育てサポートおうみはちまんすくすく」　代表理事）
２．林　淳子さん（NPO 法人「宅老所はな」　代表）
３．田島　麻佐子さん（特定非営利活動法人保育サービスドリーム　代表）
４．他谷　恵津子さん（NPO 法人子育てネットワーク志賀「うりぼう」　代表）
５．高橋　美栄さん（株式会社ほっとはーと　ほっとはーとデイサービス　管理者）

働きたい！

１．「子育て、介護、闘病後 40 代で仕事デビュー。資格取得でチャンスをつかみ、介護のプロに。」

木村　洋子さん（社会福祉法人さざなみ会グループホームさざなみ苑　主任）

【プロフィール】

スーパーでパート社員として働きながら、ヘルパー２級の資格を取得。ボランティアをしていた老人保健施設で訪問介護事業の立ち上げに携わり、訪問介護員として働く。2001 年に現在の職場の新設を知り応募。正職員として採用され、主任を務める。

【DATA】

■発足：2001 年８月　■スタッフ：５名

【事業内容】

認知症高齢者向けグループホームにおける生活ケア

【連絡先】

〒525-0068　彦根市城町二丁目 13 番３号

Tel：0749-27-1411　Fax：0749-27-1429　Mail：sazanami@atlas.plala.or.jp

○資格取得に励み、チャンスを待つ日々

仕事がしたいと思い始めたのは、子育てが一段落し、自分ひとりの時間がもてるようになった頃からです。それまでは、20 歳で結婚してから３人の子どもを育て、仕事は内職程度で主婦業に専念してきました。

就労経験がほとんどなかったので、まずは何か特技を身につけようと、広報に載っていた資格取得のためのセミナーを複数受講しました。その一方で、求人情報に目をこらしながら、就職の機会をうかがっていたんです。でも、姑の介護や自分の病気などで忙しく過ごしているうちに月日が経ってしまい、気がつけば 40 歳を目前にしていました。

正社員での就業を望んでいたけれど、なかなか見つからず、パートの仕事に就いてチャンスを待つことにしたんです。

○介護職を目指してステップアップ

介護の仕事は、ずっとしたいと思っていたんです。私自身、認知症の母の介護を約７年間経験しましたが、その時に周りの人たちに随分助けられ、お世話になったので、今度は私がお世話をする立場になって、恩返しができればと思ったんです。でも、どうやってそういう仕事に就いたらいいのか方法が分からなくて…。そんな時に、介護保険制度が導入されることになって、ヘルパー３級研修の公募があったので、すぐに申込みました。

パートを続けながら受講して資格を取得し、そこで出会った仲間と一緒に、老人保健施設でボランティア活動も始めました。その後、ヘルパー２級の資格も取得することができました。パートを辞めて、本格的に介護の仕事をするようになったのは、ボランティアをしていた施設で新しく訪問介護事業を立ち上げることになり、そのスタッフとして働くようになってからですね。そこでは、訪問介護員として１年半ほど働きました。

○よりよい介護ケアを提供するために

現場で経験を積むと、いろんなことが見えてきます。介護は、その人の生活環境や性格、好みなど、すべてを理解していなければ、満足いくケアは提供できません。私も経験しましたが、認知症には、一緒に暮らす家族でさえも受け入れられない場面があるんです。だから、24 時間、生活を共にできる場所で、介護の仕事をしたいと思うようになりました。

そんな新たな目標が見え始めた頃、社会福祉法人運営のグループホームが新設されることを知って、すぐに応募しました。

実は、募集条件の年齢を超えていたんですが、熱意を伝え、経験を売り込んで、運よく正職員、主任として採用していただけました。今までの努力が報われた気がして、うれしかったですね（笑）。

○チャレンジのための出費は、自分への投資

就労経験がほとんどなかったから、怖いもの知らずで、45 歳になっていたにもかかわらず、「聞くは一時の恥」、「百聞は一見にしかず」を実践できたんだと思います。いまは、職員の意見を取り入れていただける恵まれた職場で、好きな仕事ができて感謝しています。

より質の高いケアを提供するためには、やはり資格が必要なんです。介護にもコツがありますから。覚えることはまだまだたくさんあります。正しい知識を得ることの大切さを実感していますね。ヘルパー１級と介護福祉士は取得できたので、今はケアマネージャーを目指して勉強中なんです。資格取得のための費用は、主婦には負担が大きいけれど、すべて自分のための投資だと思っています。

○「好き」が原動力

「好き」が原動力この仕事を続けている理由は、ただ「好き」だからです。入所者の方々は、人生の先輩として、さまざまなことを教えてくださいます。経験豊富で、学ぶことの多い高齢者の皆さんと一緒に、笑顔で年を重ねていけたらいいですね。

そして、いつか、志を同じくする仲間とともに、自分達でグループホームの運営ができればと夢見ています。

生きていく中で、いろんな矛盾を感じたり、思い悩む時期はあると思いますが、「今できること」を「今しておく」と、必ずチャンスはめぐってきます。そのチャンスが、自分に合ったものかどうかは、とりあえずチャレンジしてから決めても遅くないと思いますよ。（2006 年冬取材）

２．「一番最初に現場で対応するのは救急隊員なのだと思い、消防隊員を志した」

望主(もちぬし)　明日香さん（湖南広域行政組合消防本部・南消防署勤務）

【プロフィール】

高校卒業後半年間の消防学校での訓練を終えて、湖南広域行政組合消防本部・南消防署に配属。１年間消防救助係として勤務。2008 年 10 月から市民防災係として、栗東市の自治会などの訓練指導や住宅用火災警報機の普及などにあたっている。消防士としての出動のための訓練も欠かせない。勤続２年。

【DATA】

湖南広域行政組合消防本部

■スタッフ：南消防署（栗東市）：55 名、北消防署（守山市）：54 名

【連絡先】

〒520-3024　滋賀県栗東市小柿 3-1-1

Tel：077-552-0119（南消防署）　Mail：konan-f.d-kikaku@konan-lakebiwa.or.jp

HP：http://www.konan-kouiki.jp/

○子どもの頃から人の役に立つ仕事をしたいと思っていた

小学校高学年くらいから人の役に立つ仕事をしたいと思っていました。漠然と消防士とか警察官が人の役に立つのではないかなと思っていましたが、高校の頃、身体の弱い友人との関わりを通じて、一番最初に現場で対応するのは消防隊員である救急救命士だなと思って、消防士を目指しました。

○厳しい初任教育も人と自分の命を守るため

滋賀県で消防士になるためには、どの職種につく者も全員、能登川にある消防学校で半年間、県内８本部から初任者が集まって同じ初任教育と訓練を受けます。

入校した当初はその厳しさに驚きましたが、教官の方々の真摯な姿から、真剣にしなければ命を落としかねない仕事につくための訓練なのだから、ということを痛感しました。

○女性として県内初の現場対応隊員となる

南消防署に配属になり、１年間消防救助係の仕事につきました。当初は日勤での内勤業務というお話でしたが､24 時間勤務の現場対応の隊員として勤務できることになり、

滋賀県では私が初めての現場対応の女性隊員となりました。現在では県内で７名の女性隊員が活動しています。（日勤者を含めて県内 25 名中）

2008 年には県の救助大会に選ばれて出場でき、感動しました。2009 年も出場できる予定ですので、６月の大会を目指して訓練しています。体力的にはどうしても男性に負けてしまいますが、県内の女性としては初めてであり、男性隊員でも全員が出場できるものではないので、代表としてしっかり頑張らなければと思っています。

○日々の訓練をかかさず、現場でしっかり対応したい

就署内での勤務者は全て担当に関わらず、残って作業する必要のある部署の者以外いつでも出動できる体勢を取っています。そのためには毎日３時間ほどの訓練も重要となります。私は主にタンク車という消防車に乗って出動しています。

また、普通救急車の乗務員は３名で対応しているのですが、心肺停止状態の方だと対応が大変ということで４名乗ることがあります。そういう場合は４人目として出動させてもらうこともあり、将来救急救命士も目指したいので勉強になります。

○体力の違いを、自分の力でカバーしていけるようになりたい

現場への出動時はどうしても男性隊員に比べて体力が落ちるので、引け目に感じてしまうことがあります。訓練や日々の鍛錬を続けることにより、自分の力でカバーしていけるようになりたいと思っています。

事故などでパニックに陥っている女性の方などが、私を見て「女性だと安心する」と言っていただけると、良かったなぁと思います。

南消防署の場合、庶務管理係、防災指導係、安全救急係、消防救助係という４つの係があり、全て勉強しようとしたら長期間かかることだろうと思います。今はまだまだ未熟ですが、何にでもマルチに対応できるようになれるよう、また後に続く女性隊員のためにも、一人前の消防職員を目指して頑張りたいと思っています。（2009 年１月取材）

■湖南地域で活躍する女性隊員の紹介■

＜質問内容＞

A：所属

B：勤続(2009 年１月取材時)

C：この職業を志したきっかけなど

D：女性としての特性が活かせたこと、仕事を通して感動したことなど

串田　景子さん

A：北消防署　防災指導係（守山市担当）

B：勤続８年

C：出産を通して命の大切さを痛感した。命が一番大切ということを伝えたい。

D：指導の際、接する住民の方々が、火災等が原因で命をなくすようなことが絶対無いようにと強く思う。

中村　美紀さん

A：南消防署 安全救急係（救急救命士）

B：勤続１年

C：高校の時アメリカのテロ(９.11)の報道を見て、救急活動に携わりたいと希望。国家資格の救急救命士の資格を、大阪の専門学校で３年間勉強して取得。その後就職。

D：心肺停止などの状態であった方々が社会に復帰されると嬉しい。現場で女性の救助にあたる時、女性であることで安心されること。

二見　嘉世さん

A：消防局　防災指導課(安全指導・危険物保安業務など)

B：勤続６年

C：父が消防団に所属していた関係で興味を持った。

D：2008 年６月に消防の意見発表で、滋賀県の代表として火災警報機の普及について全国大会で発表したこと。指導に伺った時、高齢の方々にもリラックスしてお話を聞いていただけること。

堀井　香奈さん

A：南消防署　防災指導係

B：勤続４年

C：母が看護師なので、医療現場へのあこがれがあった。救命士になるためには消防士にならなくてはと思った。

D：保育園等を訪問したとき、小さい子どもさんが前年行った時のことを覚えていてくれたこと。広報の際、消防署というと堅いイメージがあるが、男性よりは女性だと当たりが柔らかいと思う。一人暮らしのお年寄りのお宅などに伺う際、親しみやすいイメージを受けていただけるようにしたい。

奥村　友希さん

A：北消防署　消防救助係（現場対応）

B：勤続１年

C：高３の時に高卒で消防士になれると知ったので、受けてみたいと思った。他の人と違うことをしたいと思っていたので。

D：覚えることが多くて大変だけれど、しんどいのは当たり前だと思う。幸いにも、北消防署ではまだ出動が無いので、現場での体験はない。消防学校では基本を教えてもらうので、実際の現場になると初めてのことばかりで、全てが夢中の状態。

３．「世界に羽ばたくバリスタへ」

村山　春奈さん（クラブハリエ日牟禮カフェ勤務　バリスタ）

【プロフィール】

2005年アルバイトを経てサービススタッフとして株式会社クラブハリエに就職。2006年バリスタに転向。2010年６月、ラテアートの世界大会(SCAEワールド・ラテアート・チャンピオンシップ2010)で優勝。日本女性初の快挙として一躍有名に。東近江市在住。

【連絡先】

滋賀県近江八幡市宮内町日牟禮ヴィレッジ　株式会社クラブハリエ　日牟禮カフェ

Tel：0748-33-9994　HP：clubharie.jp

○バリスタという職業との出会い

近江八幡市は八幡山の麓、日牟禮（ひむれ）八幡宮の境内にクラブハリエ日牟禮カフェはあります。わたしはそこで、バリスタとしてお客様にコーヒーをお出ししています。2004年サービススタッフとしてアルバイトを始めたわたしは、翌年そのまま株式会社クラブハリエに入社、2006年バリスタに転向しました。バリスタは「ラテアートを作る人」というイメージがあるのですが、実際はもっと幅広く、知識や技術、サービス、トークなどさまざまな要素を必要とされるコーヒーの専門家です。

ラテアートとは、エスプレッソにフォームドミルクと呼ばれる細かく泡立てた牛乳を注ぎながら作り出す絵柄のことです。その出来の良し悪しは、見ればすぐにわかります。すぐに結果が出る、努力はうらぎらない、そんなラテアートの世界にわたしは魅了されました。また、絵柄を作っていく細やかな作業は、感性を活かせる仕事のひとつであるとも思います。

バリスタの世界にも技量を競う大会があります。2008年からは国内の大会に出場、まだ新しい分野である「ラテアート」の世界は、チャレンジ意欲を掻き立てるものがありました。通常の業務が終わってからも練習を重ねました。その練習も、やるときはとことんやる。でも、気の乗らないときはあっさりやめてしまうことも。その切り替えの早さもわたしの持ち味だと思います。先輩からは「村山さんはアスリートタイプだね。」と言われるんですよ（笑）。

○SCAE ワールドラテアートチャンピオンシップ 2010 での優勝

2010 年６月、ロンドンで「SCAE ワールド・ラテアート・チャンピオンシップ 2010」が開催されました。世界 33 か国から代表が終結、８分間で道具の使い方から３種類のラテアートの出来、味を競います。その年の国内大会で優勝し日本代表となったわたしは、大事な道具であるピッチャーと、大会に照準を合わせて用意したコーヒー豆を携え一路ロンドンへ。プレッシャーとの戦いの中、それまでのすべてを出し切った８分間でした。

結果は思いもかけず優勝。日本人初の快挙でした名前を呼ばれた瞬間はそれまでのプレッシャーはどこへやら、驚きと喜びが一緒になってなんとも言えない気持ちでした。

また、大会で出会った世界のトップバリスタたちとの交流は何物にも代えられない経験になりました。世界は広く、まだまだ知らないことがたくさんある。それを実感した大会となりました。

○また一歩先を目指して

わたしがこんな大きな大会で優勝できたのは、本当にたくさんの人たちのおかげです。これまでご指導いただいた方々、励まし続けてくれた上司や同僚、支えてくれた家族には感謝してもしきれません。そして、お客様からいただく「おいしかったよ」の言葉と笑顔が、わたしには何よりの励みです。

優勝して変わったのは、自分の性格でしょうか。優勝したことが自信につながり、すべてに積極的になりました。人とのおしゃべりもあまり得意ではありませんでしたが、テレビや雑誌などたくさんの取材を受けたことも良い経験になったと思います。今年の目標は「何でもチャレンジ！」です。

これからは、わたしも人を指導する立場になります。これまで自分のやってきたことを、感覚ではなく言葉で伝えることは難しいですね。正しく伝えるためにも、もう一度基本からきちんと勉強しなければいけないと思いました。

バリスタという資格はありません。バリスタと言ってしまえば誰でもなれるものです。だからこそ、わたしはどんなバリスタでありたいのか、今後も勉強を続け自分を磨いていきたいと思います。（2011 年１月取材）

キャリアアップ・学習したい！

１．「結婚を機に出会った板金業で技術を磨き、女性では県下初の建築板金１級技能士に。」

増子　英理さん（増子鈑金工業所）

【プロフィール】

1996 年に板金職人の夫と結婚し、仕事を手伝うようになる。家事、育児をしながら県板金工業組合の訓練所に通い、建築板金２級技能士を取得後、2004 年、女性として県内で初めて１級に合格。夫とともに増子鈑金工業所を営む。2006 年５月第３子を出産予定。

【DATA】

■設立：1971 年４月　■スタッフ：３名

【事業内容】

建築板金全般

【連絡先】

〒529-1404　東近江市宮荘町 773

Tel：0748-48-2899　FAX：0748-48-3899　Mail：m773-m@cameo.plala.or.jp

○結婚を機に出会った「板金」で家族をサポート

増子鈑金工業所は、義父が 1971 年に開業し、現在は長男である夫と、夫の弟、私の３人で仕事をしています。結婚前から現場に遊びに行き、屋根に上ったりしていたんですが、見ているだけでは満足できず私も手伝うようになって…。子どもの頃から高い所が好きで、好奇心旺盛ですから、面白かったんです。

結婚してからは、毎日現場についていくようになりました。みんなで働くのは楽しかったんですが、やっぱり現場の作業は厳しいです。高所の作業なので危険ですし、屋根の上で滑ったり、転んだり、頭をぶつけたりと青あざも絶えなくて、「気をぬくな！」と夫に叱られることも多かったですね。

私が怪我をすると、周りに迷惑をかけることになるし、「やっぱり女性には」と思われたくないので、常に気を張っていました。でも、夏は暑さで頭がボーッとするし、冬は寒さで手足が思うように動かない。中途半端な気持ちでできる仕事ではないということが、体験を通してわかったように思います。

○義父の突然の他界で、１級へのチャレンジを決意

滋賀県板金工業組合で副理事を務めていた義父の勧めもあって、滋賀県板金高等技術専門校で２年間、訓練を受けることにしました。家業を手伝うようになって１年ほど経った頃、長男を妊娠したため、雑用程度の手伝いをしていました。１年目の終わりに長男を出産してからは、義母や周囲の人たちに協力してもらいながらの勉強で、忙しい毎日でしたね。でも、週１回の通学は、自分の息抜きにもなっていたような気がします(笑)。ところが、結婚から３年が経った 1999 年、義父が作業中の事故で他界してしまいました。突然のことで、何もわからないまま夫が後を引き継ぐことになったんです。

義父は１級技能士の資格を持っていたんですが、この資格は事業を営む上で必要なものでした。残念ながら夫も弟も仕事が忙しく、検定試験を受ける機会を逃していたんです。忙しくしている２人には、それぞれの家族の生活がかかっているし、受験勉強の時間を設けるのは難しい。それに、もし将来、２人の息子が仕事を手伝うとすれば、なおさら増子鈑金工業所に１級技能士が必要になる。それなら「自分が挑戦すれば！」と思ったんです。

○悪戦苦闘の末に手にした「合格通知」

義父の突然の死、次男の出産を経て少し落ち着いた頃、私は、まず２級技能士検定を目指し、その２年後、１級技能士検定に挑戦しました。

現場では機械化が進んでいますが、検定試験の課題は、製図から板金まで、すべて手作業なんです。道具の使い方もわからない私にとって、かなりの難関でしたね。家事、育児に追われて勉強は思うように進まない。課題づくりの練習をしても、思うように仕上げられない。そこへ、子ども達の夏休みが重なり、イライラして家族にあたってしまう毎日。受験をキャンセルしようかと思うほど、精神的にも追い詰められていました。

そんな私を見兼ねた夫や弟が、仕事を終えてから夜遅くまで練習につき合ってくれたり、子ども達は、「ママ、試験がんばりや！」と励ましてくれ、実家や義母も協力してくれて、ほんとに、たくさんの励ましと協力を得て試験に挑みました。「これで落ちたら大変！」と、余計にプレッシャーはありましたけど（笑)。

検定当日は、ただでさえ緊張しているのに、新聞やテレビの取材があって困惑しました。手が震えて思うように製図ができず、もう必死で、あっという間でした。そして、合格通知を手にした時は、すごくうれしかったと同時に、肩の荷がおりましたね。

○自分のできることで支えていきたい

私は結婚をきっかけにこの仕事と出会い、手伝うことで夫の仕事の大変さを理解でき、喜びも苦しみも分かち合えるようになりました。現場では女性ということで苦労もありますが、特別なことをしているとは思ってないんです。ただ置かれた状況の中で、自分のできることをやってきただけですから。

思い返せば、結婚するまでの私は、まさか自分が板金の仕事をすることになろうとは思ってもいませんでした。このような仕事が自分にできるなんて、想像もできないことでした。運命のめぐり合わせとはいえ、その時、その時の状況から逃げ出さずに挑戦した結果、今日の自分があると思います。人間って、その気になれば自分でも思いがけない力が出るものです。これからも、はじめから無理とあきらめずに、新しいことにチャレンジしていきたいと思っています。(2006年冬取材)

２．「組織の成長過程で与えられた課題に挑戦し続け、キャリアを積んで役職者に。」

林　かずみさん（生活協同組合コープしが　社会的責任経営（CSR）推進室　品質保証フロア　フロアマネージャー）

【プロフィール】

金融機関に勤務後、旧大津生協の経理担当として転職し、総務、情報システムの構築、教育、組合員活動などの業務を歴任し、キャリアを重ねて現職に就任。環境監査員の資格を持ち、ISO の内部監査委員としても活躍。

【DATA】

■スタッフ：６名

【事業内容】

商品検査センター業務、食の安全に関わる品質管理（取扱商品の検査、研修会の企画、組合員の学習会支援、他）

【連絡先】

〒520-2351　野洲市冨波甲 972 番地

Tel：077-586-4855　Fax：077-518-1177　HP：http://www.pak2.com/

○「コープしが」の立ち上げに参加

ここで仕事をするようになったのは、1974 年、まだ旧大津生協が発足して２年の頃、経理事務担当者が退職されて後任を探しておられ、声をかけていただいたのがきっかけです。当時は 10 名ほどの組織で、私は総務・経理分野を担当していました。

そのうちに、共同購入商品注文書のコンピューター化をはじめ、業務の効率化を図るために情報システムの導入に携わりました。コンピューターの知識はなかったけれど、わからないでは何も進まないので、一生懸命、勉強しながら覚えましたね。

そして 1993 年県内４生協の合併によって、職員の数も組合員の数も急激に増えて、大きな組織になりました。総務を担当していた私は、準備の一つとして職員の賃金体系等の一本化を図りましたが、なかでも新たな考え方や基準の提案など、400 人以上の定時職員に合意を得ていくのには苦労をしました。

以降、食品部門のバイイング（店舗）や組合員活動を経て、現在の品質管理の仕事に就き、現在はセンター長を務めています。

○プライドをもって、与えられた課題にチャレンジ！

組織は常に新しい展開が必要です。その中で、直接、または間接的に事業と関わる中で、任された分野での課題解決の達成感がありました。それが、自信にもつながっています。

共同購入商品受注の仕組みや、出資金管理のコンピューター化以降、順次、基幹業務の OA 化を進めていく中では、他生協の方々からノウハウを教えていただくなど、先進事例の入手や開発段階での支援を受けられたことは、通常の企業間なら難しいことで生協ならではの取り組みだったと思います。

私は特に「上」を目指してきたわけではなく、組織自体のチャレンジに、その場その場で仕事を任されて、与えられた課題をこなしてきただけです。ただ、任された以上はプライドもあり、「自分がしっかりしなければ、組織が前進しない」と思い、難問にぶつかっては、「やるしかない」と思いながら、進んできました。仕事は工夫次第で効率よくでき、自分のスタイルを見つける面白さもあります。

重要なことは、どんな仕事も全力で取り組む姿勢と、自分の課題をこなすことで組織の期待に応えること。期待以上の結果を出せば、次には、また新しい課題が任されます。そうして次第に自分のキャリアも積むことができ、大きく成長していけると思います。

○課題の克服が次の仕事につながり、自分の成長になる

今まで、さまざまな業務の中で新たな分野での開発・開拓的な課題は、日本生協連や他生協、行政などからの情報をもらったり、研修などからノウハウをいただくこともできました。また、内部では、これらに基づく提案について相談したり、協力を得たりしながら進めてきました。

大きな仕事は、一人ではできません。役割分担をして、それぞれが任された課題をクリアにすることで完成させることができます。私自身も、わからないことや、困ったことがあったら、人に聞いて迅速に解決するように努めています。

組織の中で円滑に仕事をしていくためには、協力体制を作っていくことが必要です。それには、一人ひとりが自信と信念を持ち、まず自分がしっかりしなければ協力も得られないということを実感してきました。

〇私の使命は、得てきた知識や経験を伝え、置いていくこと

今、管理職の一人として部下を指導育成する立場にありますが、難しいですね。今の時代はコンピューターをはじめ業務処理の環境が整い、わからないことを克服するのも簡単になっています。言われたことだけをやっていては成長もありません。誇りを持って取り組んでいれば、必ず人は見ていてくれます。受け身では前に進めない。若い人たちには、自分なりの仕事のやり方を工夫したり、考える力をもっともっとつけてほしいと思っています。

じっとしていても何も始まりません。仕事に必要な情報を得るためなら、積極的にいろんな場所に出て行き、世間を見るように心がけています。自分の足で目で情報を得ていくことが大事だということを伝えていきたいですね。

これからは、今まで経験してきたこと、自分の中に詰め込んできたことを、組織や周りの人たちに伝えていこうと考えています。　（2006 年冬取材）

３．「証券会社退職後出産、フリーのファイナンシャルプランナーに」

真多　美恵さん（女性起業プロデューサー・ファイナンシャルプランナー）

【プロフィール】

10 年間の証券会社在職中に日本ＦＰ協会ＡＦＰ資格を取得。出産後、フリーのファイナンシャルプランナー（ＦＰ）となる。大阪に事務所を構え、滋賀と大阪を中心に活躍。2006 年、地元滋賀在住の女性起業家を中心に、女性たちの研鑽・情報交換の場となる勉強会組織として『滋賀女磨き塾』を設立、主催。2007 年度の滋賀県こなんベンチャーシティ実現戦略検討会議委員に就任。　夫と小学一年生の娘との３人家族。大津市在住。

【DATA】

■設立：2006 年

【事業内容】

海外投資情報提供業・海外資産運用相談全般（オフショア）・資産運用設計情報提供・資産運用設計情報提供・広報事業・ファイナンシャルプランニング業・講師業・セミナー企画・M&A 支援・キャリアコンサルティング・事業再生・個人再生支援等

【連絡先】

〒600-8310　京都市下京区夷之町 716 番地 NJ 小山ビル　2F

Tel：050-3735-4406　Mail：webmaster@fp-mata.com

○育児期間が重要だった

札幌での学生時代は社会科の教師を目指していましたが、社会の動きに興味を持つようになり、社会にはお金の動きが密接に繋がっていることから、経済を勉強したいと思うようになりました。そこで証券会社に入社するため、３ヶ月の短期集中で勉強をして、希望の証券会社に入社することができました。

結婚がきっかけで滋賀に移り住み、同じ会社で契約形態を変えて５年仕事を続け、その後、出産後は会社を一旦やめて育児に追われる毎日を過ごしました。しかしそれまで仕事と家庭を両立することに努力し、忙しい日常を過ごしていた私は、子どもの出産がきっかけで完全に家庭に一度入ってからは「社会からの取り残され感」を強く感じていました。

子どもを生み育てることの喜びはかけがえのないものだけれど、同じ業界の同世代の方がキャリアアップしていくことへの焦り、社会と切断されるという不安など、私にとって子どもへの愛情と社会とのかかわりのバランスをどう取るかというのは難しい問題でした。

そんな中、何らかの形で社会と繋がりたいという思いから、その手段としてインターネットを使って検索をしていました。偶然のヒットから東京のＦＰの女性の活躍を知ることとなり、こういう活動方法もあるのだと知りました。一方、他にも素晴らしいキャリアを持つ女性たちが、出産・育児により職場から離れていることが多いことを知って、なんてもったいないことなんだと驚き、私が社長なら放っておかないのにと憤慨もしていました。

また、地元滋賀で検索した産業支援プラザの講座や、滋賀県立男女共同参画センターのセミナーを１年間受けて勉強するなど、子どもが小さくてもできる活動を模索する状況が続いていました。

娘が小学校に入学して学童保育所にも入れた今、フリースタイルが良いという会社もあって、仕事をもらえることができ、活動を広げています。育児期間中の３年、４年を、育児だけにあてていたらこういう立場を得ることができなかっただろうと思い、動いてみて良かったと振り返ることができます。

○ファイナンシャルプランナーは人間関係から

準備期間中、Web に興味があったので、HTML などを勉強していましたが、自分が知りたいこととは少し違うなという思いがありました。でも、現在ホームページやブログを使っていく上で役に立つことも多く、基礎知識として勉強しておいて良かったと思っています。

インターネットで活動するのも有意義なことだと思う一方、ファイナンシャルプランナーの仕事はまず人と会って、人間関係を作ってからだと痛感し、地元に目を向けることにしました。

（画像は 2008 年 11 月、FP フェア 2008・東京国際フォーラムでのプレゼン風景より）

○滋賀女磨き塾を立ち上げ

2006 年、女性起業家の方たちとの出会いや、(財)滋賀県産業支援プラザが企画したビズネスカフェあきんどひろば」をきっかけに、地元滋賀県の起業・創業支援の組織と協働で起業、自己研鑽に関心のある向上心旺盛な女性向け異業種交流のための『滋賀女磨き塾』を立ち上げました。内面からも外面からも、女磨きをしようということで、様々な講座を企画してきました

女性経営者、自営業者、企業の女性管理職、起業志望者の女性など、様々な立場の方たちが多数参加してくださり、有益な情報交換もできるようになり現在は、地元の有能な女性人材の発掘の場としても注目されています。

10 名のメンバーも、様々な分野で活躍している女性たちなので忙しくて大変ですが、メーリングリストで連絡を取り合いながら、出来る限りバックアップしてくれています。これからも年に数回は講座の開催を続けていきたいと思っています。

滋賀女磨き塾　http://onnamigakijyuku.shiga-saku.net/

○必要な情報を必要なところへ届けたい

事業としては、これからは金融の専門分野に特化していかなくては、と思っています。女性起業家や女性経営者などに、女性ならではの視点で支援をしていきたいですし、様々な問題を抱えている方に、初診医のような問診をして問題点を見つけ出し、必要なら今まで広げた人脈の中からプロフェッショナルを選び出し、その繋ぎ役としてご紹介することで、問題解決をしていただいております。

大阪のオフィスでも活動しつつ、メインの活動は滋賀で、「こういう専門家が居るよ」という発信をし続けていきたいですね。　これからもマネーに関する様々なお手伝いをしていき、女性の皆さんが気軽に相談できる窓口になりたいと思っています。（2008 年 11 月取材）

1.「商工会女性部から独立し、有志で会社設立。産品づくりを通じて地域活性に貢献。」

吉坂　孝さん（有限会社くのいち本舗 代表取締役社長）

【プロフィール】

1999 年、甲賀市（旧甲南町）商工会女性部の活動として特産品づくりに参加し、2001 年に有志で「おこわグループ」結成。2004 年、女性部から独立し、有限会社を設立。設立当時から代表を務める。家業は地元商店街で衣料品店を経営。

【DATA】

■設立：2005 年５月　■スタッフ：14 名　■資本金：330 万円

■年間売上額：350 万円

【事業内容】

甲賀市の特産品の製造･販売。拠点としている古民家での喫茶、食事スペースの提供、イベント企画・参加、イベント用ケータリングサービス 等

【連絡先】

〒520-3321　甲賀市甲南町竜法師 1120

Tel：090-1481-9506（くのいち本舗）　Mail：ku-no-i-chi.honpo@docomo.ne.jp

○商売を営む女性たちが、特産品づくりに挑戦

家業で商売をしている関係で、商工会の女性部に所属していたんですが、1999 年に滋賀県商工会連合会の「マエストロ事業」に参加したことで、特産品の開発の必要性を強く認識しました。そこで、翌年に地元の古代黒米を使った「黒影おこわ」を開発し、全国物産展で販売したのをきっかけに、町内外のイベントでも販売するようになりました。ただ作って販売するだけでなく、テレビ出演や観光ＰＲも行いましたよ。甲賀市は甲賀流忍者発祥の地なので、忍者の格好をしたりして（笑）。

こうした経験は、ニーズの把握、新商品開発や商品の改善、販路拡大に役立つので、積極的に参加しています。

○法人化を決意し、不安と期待の中で一念発起

当初は商工会の中の女性部の活動だったんですが、だんだん収益が出て、参加する部員が固定化されてきたんです。そこで、有志による活動に方向転換して、「おこわグループ」を結成、2004 年には女性部から独立し、任意グループとして活動を始めました。

ところが、任意のグループでは活動が制約されることが多く、事業の継続発展に限界も感じていたので、新商品「黒米シフォンケーキ」の営業許可を取るために法人化し、自分達の加工所を設けることにしました。

法人の設立前には、みんなで何度も会議をして意見を出し合い、清水の舞台から飛び降りる思いで「起業する」という結論を出したんです。商工会員やその家族、会員外の人たち 24 名が出資し有限会社を設立しました。法人化するということは、和気あいあいと楽しんでいるだけではいけない、販売目標を達成する必要性が出てきますからプレッシャーもありました。

結果的には、事業所としてグループ活動の制約を受けずに、自由に営業活動ができるようになって良かったと思っています。家族の協力と、地域の方の理解に感謝していますね。

○築 120 年の古民家を改修してスタート

活動の拠点は、地元で８年以上空き家になっていた築 120 年の古民家です。タイミングよく見つかったので、即行動に移りました。

古い家屋の改修は大変でしたよ。しかし、幸い私たちは商売人の集まりなので、水道、ガス、電気、大工仕事、それぞれが得意分野を請け負い、活動場所が完成しました。自分達の居場所ができたことが、何よりうれしかったですね。

最初は、加工所としてのみ利用しようと思っていたんですが、オープンの日に、「ぜんざい」と「黒影おこわ」を皆さんにふるまったら好評だったことから、週末だけでも喫茶をすることになりました。

商売をはじめると色々なことがわかってきます。なんといっても売れる商品を開発することは難しいですね。商品づくりの材料に使っている黒米は古代米で、もち米なんです。色素が強く、食物繊維が豊富です。これを使って何をつくろうかと考えていた当初は、失敗作も多く、なかなか商品として形にならず、試行錯誤の繰り返しでした。やっていくうちに売れるものがようやく作れるようになりましたけれど。

商品の中でもケーキが好評なので、2006 年春からは黒米シフォンケーキとコーヒーのセットを提供するカフェを始めたいと思っています。ほっと落ち着ける空間なので、観光客や地元の人たちが集まれる場所になればいいですね。

○同じ思いの人が３人集まったら、チャレンジしてみましょう

この活動では家庭とは違う自分の居場所を持ち、仲間を得ていつのまにか人前に出る自信もつきました。家族の協力があってこそ出来ることですが、息抜きとなる自分の時間も必要ですよね。「加工所へ来て、エプロンをつけたら、こっちのもの！」という感じです（笑）。

一つの目的を共有すると、仲間が一丸となれます。メンバーは 40～60 歳代ですが、これまで揉め事もなく、仲良くやってこられました。チャレンジには仲間も必要ですね。同じ思いの人が３人集まったら、やってみるべきだと思います。私も、「好きだからやる、やりたいからやる」、「何とかなるさ」と思ってやってきたから、できたと思うんです。楽しくなければ続きません。何より、みんなの顔が輝いていることがいちばんですね。（2006 年冬取材）

２．「窮地に立たされて学び始めたアロマテラピーで資格を取得し、講師活動を経て念願のお店をオープン。」

西島　かおるさん（アロマテラピーのお店「おれんじぴーる」代表）

【プロフィール】

内科医の夫が、開業していた診療所を閉じたため、経済的な事情から一念発起し、アロマテラピーの勉強を始める。資格取得後に講師活動を経て、2004 年に現在の店舗をオープン。経営のかたわら、AEAJ 認定インストラクターとして県内外で活躍。

【DATA】

■設立：2004 年５月　■スタッフ：２名

【事業内容】

アロマテラピー商品の販売、各種教室、スクール開催、講師活動、各種店舗、病院診療所内のアロマ環境プロデュースなど

【連絡先】

〒526-0059　長浜市元浜町 22-9

Tel/Fax：0749-63-0877　Mail：info@orpl.jp　HP：http://www.orpl.jp/

○夫の病と出産、窮地に立たされて一念発起

夫は内科医師で、診療所を開業していたんですが、体調を崩してしまって休業を余儀なくされました。私も、医療事務をしていましたが、ちょうど子どもの出産が重なって、経済的にもなんとかしなければと、気持ちが焦るばかりでした。

アロマテラピーは、自然の植物から抽出した精油を使う芳香療法で、医学的にも裏づけられる民間療法の一つですが、その頃、アロマテラピーが静かなブームになっていたこともあって、勉強を始めました。「いつの日か、心のケアの出来る診療所を夫と一緒に再開できたら、そのときにはアロマテラピーが役に立つのでは」という願いがあったんです。

最初は、「何とか仕事として確立したい」という一心で始めた勉強でしたが、毎日の生活に役立つことを知り、また、香りによって心が晴れていくことを身をもって知りました。そうすると、だんだんと肩の力が抜けて、「私が楽しくて、元気になれば、家族も生活もなんとかなるのではないか」と思えるようになってきたんです。当初の目的はしばらく横に置いて、「とりあえず今は私が楽しい毎日を過ごそう。そして、たくさんの人にこの事実を知ってもらおう」と方針を変更しました。

○インストラクターとして第一歩を踏み出す

ちょうどその頃、日本アロマテラピー協会（現AEAJ・社団法人日本アロマ環境協会）が資格制度を始めたところだったので、1999 年にインストラクターの資格を県内初で取得し、講師活動を始めました。

協会認定の名のもとで教室を開くことができたので、自信にもつながりました。教室の名称は、「かおるの香りの教室」です。偶然にも私の名前は“かおる”で、この仕事が自分に与えられた天職のように感じます。人に言われるまで、気づかなかったんですけれど(笑)。

講師の仕事は、この地にアロマテラピーを普及させるための種まきだと思って、５年間続けてきました。その中で、「材料が欲しいときに、いつでも買いに行ける場所があれば、もっと楽しんでもらえるのに」という思いが強くなり、診療所だった建物を改装し、お店を開くことにしました。

○ビジネスの難しさを実感

必要な資金は、夫の親戚がスポンサーになってくれたおかげで起業できましたが、アロマテラピーに関してはプロでも、経営は素人で、会計資料の読み方一つ分からない。まったく足元の見えない事業主で、当初から産業支援プラザに足を運んでは、起業相談や経営相談の支援を受け、各種ビジネスセミナーにも参加しながら、今も勉強中です。

起業した以上は、利益を考えて経営しなければなりません。自分の値段をつけるのは、難しいですね。自分の給料になる「講師料」の設定や、オリジナル商品の価格設定など、まだまだ事業をやっていく上での基本的な考え方が身についていないというか、そこがいちばん苦労しているところです。

○やさしさの輪を広げたい

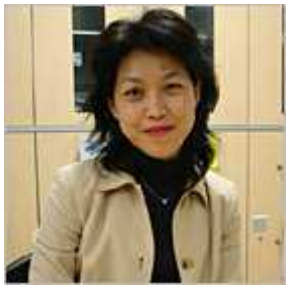
アロマテラピーには、植物の香りを使って、自分をいたわり、人にもやさしくなれる力がついていく奥深さがあるんです。さまざまな悩みを抱えた人が、香りによって心も体も元気になっていかれる姿を見ると、本当にこの仕事を選んで良かったと思いますね。幸せになっていただくお手伝いをさせてもらっている、そして自分も幸せになれる仕事だと、誇りを持っています。

起業によって、母親としての時間も少なくなってしまいましたが、2人の子ども達は、お客様やスタッフとのかかわりの中で、お手本となる素敵な大人の姿を目にし、いい環境の中で育っていると思います。

アロマテラピーが浸透してきた最近では、地元の農業高校の先生が「何か一緒にできないか」とか、バイオ大学の学生が訪れてくれたり、看護師さんの声から、病院の緩和ケアとして取り入れられたりと、うれしい動きも出てきました。

「私が幸せになれれば、隣の人も幸せになれる」。アロマテラピーの勉強を始めた頃の思いは、今も変わりません。まず、自分自身を磨き、自信をもって生きていれば、必ずいいことがあります。この仕事は、人の生き方に関わる幅の広い仕事です。「香り」を通じて、やさしさの輪を社会全体に広げる役割ができればと思います。（2006年冬取材）

３．「育児休業中にホームページ制作を覚え、プログラマーのキャリアを活かして会社を設立。」



寺本　哲子さん（有限会社でじまむワーカーズ 代表取締役）

【プロフィール】

育児休業を機に、プログラマーのキャリアを活かして会社を設立。事業の傍ら、地域活動や異業種交流などにも積極的に参加。関西のＩＴ系企業 60 社で構成する「関西デジタルコンテンツ事業協同組合」理事も務める。

【DATA】

■設立：1999 年 10 月　■スタッフ：８名　■資本金：300 万円

■年間売上額：4200 万円

【事業内容】

WEB データベース開発、サイト構築、うちのこ紋事業、366 日の花個紋ライセンス事業

【連絡先】

〒525-0032　草津市大路２丁目３-11　辻第２ビル３階

Tel：077-566-8007　Fax：077-566-8018

Mail：inform@digimomw.com　HP：http://www.digimomw.com/

○子育て中に出会ったインターネットで社会参加

もともとプログラマーとして会社に勤めていたのですが、インターネット元年といわれた 1995 年が、ちょうど育児休業中で、その時にインターネットと出会ったんです。職場復帰への準備としてホームページ制作を勉強し、友達づくりも兼ねて、「子育て中もインターネットで社会参加」を合言葉に、インターネット上のママサークルを立ち上げました。

そこで出会った人たちは、みんな独身時代、バリバリ働いていた人ばかり。結婚して子どもが出来たとたん、「昼間は家で子どもと二人きりの生活」という人が多かったですね。

○会社を辞めて、起業を決意

育児休業を終えて、「いざ職場復帰を」と思ったけれど、いろんな事情があって退職を余儀なくされたんです。「それなら自分でやるぞ！」と決意し、自らホームページを開いていた人たちに、「一緒に何かやりましょう」と声をかけ、インターネット上のママサークル「でじまむ」を立ち上げました。

最初はデータ入力をはじめ、インターネット教室やメーリングリストの運営、ホームページの運営などの業務を引き受けて行っていましたが、1999 年、最終的に意気投合した 3 名が役員として 100 万円ずつ出資し、ホームページ制作などの事業を行う部分を法人化。以降、WEB データベース開発、サイト構築を受託する事業を行うほか、新規事業として、家紋ではなく個人のための「個紋」を制作する「うちのこ紋」事業も始めました。

発足当初は、それぞれの自宅で子育てをしながら仕事をしていましたが、2003 年４月から滋賀県産業支援プラザによる「草津 SOHO ビジネスオフィス」に入居し、毎日出勤するようになったのは大きな転機でしたね。３年間の入居期限を終えて、2006 年２月に自分たちのオフィスを構えました。

○夢は、いい仲間と、いい仕事をすること

いま実感するのは、「やっててよかったな」ということ。少しずつでも毎年進歩があって、あの時、始めてよかったなと思います。初めのうちは、収入や自分のやった仕事が形になることでやりがいを感じていましたが、最近は人が育っていくことがやりがいですね。

元気の秘訣は、自分が自分らしく生きること。私の場合の「自分らしさ」とは、「あくまでもポジティブ。みんなが反対してもやってしまうところ」でしょうか（笑）。

○女性の起業は、女磨き。輝かないと意味がない

女性の起業は、女磨きだと思うんです。だから、厳しいようだけれど、自分磨きにならない起業はやめたほうがいい。必ず成功するわけではないし、駄目になると顔つきまで変わってしまいますから。私は生き残っているだけ恵まれていると思います。何事もやってみないとわからない。気負わず、好きなことをやったほうがいいと思います。

○子育て期間は、大切な助走期間

これは、私が育児休業中に、先輩の女性起業家から言われた言葉です。「止まってしまったら動き出すのがしんどいけれど、少しでも助走していれば、また走り出せるから」と励まされました。だから、５年後、10 年後のために、小さなことでも始めて、やり続けることが大切だと思います。

かつて、男性と張り合うように働いていた先輩女性は、苦労も多かったと思います。でも、その実績があるからこそ、いま私たちの世代が、のびのびと仕事ができると思うんです。気負わず、自然体で、仕事も家庭も、地域に貢献することも、全部やっていけるような生き方をしていきたいですね。（2006 年冬取材）

４．「障害のある人も子育て中の人も、ともに働ける場を作る。」

那須　信子さん（(株）農環　代表取締役）

【プロフィール】

勤めていた会社を結婚を機に退社。４ヵ月後に夫が事故死、その後息子を出産。2001 年、滋賀県社会就労事業振興センターに就職。施設コーディネーターになる。センターで働きつつ（株）農環　代表取締役に。

【DATA】

■発足：2004 年５月　■スタッフ：６名

【事業内容】

古紙回収やペットボトルキャップリサイクル、安心・安全のこだわり野菜宅配（「露地屋」事業部）事業など。障害を持つ人や子育て中の人の働く場を作り出している。

【連絡先】

〒520-3004 栗東市上砥山 851-6 番地

Tel：077-558-1796　FAX：077-558-1797　Mail：selp7@fukusi-shiga.net

○経営の経験もないままに会社をスタート

現在、社会就労事業振興センターで事務をしながら、(株)農環の経営者として二足のワラジをはいている状態です。会社を立ち上げるきっかけは、夫と死別し幼い子どもを抱えて働く場がなく苦労したことです。突然母子家庭になってみて初めていろんな制度の不備を実感しました。会社を設立したのは、それから３年後で、赤ちゃんだった子どもも歩きだしましたし「泣いてはいられない、何か自分にできないか」 とやっと思えるようになったのです。もともと会社経営などの知識も経験もありませんでした。でも、社会就労事業振興センターで障害のある人の就労支援に関わる中で、いい事業があっても非営利の社団法人では手を出せないことを知り、とても歯がゆく、会社としてやってみたいと思っていたところに、資本金１円から起業できる最低資本規制特例制度（※）を知り、決意しました。 民間の発想と福祉事業を融合させる会社として、社会就労事業振興センターも応援してくださり、協力しながら事業を進めることができました。そこのスタッフの方と話しているうちに事業のアイディアが生まれたり、人を紹介していただいたりしています。ネットワークが本当に大切だと感じています。

※最低資本金規制特例制度　従来、会社設立の際に必要だった最低資本金（株式会社は1000万円、有限会社は300万円以上）を、設立から５年間に限って免除する制度。2003年、中小企業挑戦支援法によって施行。

○自分が必要を感じたら、事業化のチャンス

（株）農環の事業は、単なる営利目的ではありません。障害を持つ人も子育て中の人も、いろんな立場の人がともに働ける場を作ることが目的のひとつです。古紙回収とペットボトルキャップリサイクルについては軌道に乗っている事業です。滋賀県中小企業家同友会に加盟している企業の方ともおつきあいが始まり、これからシステム作りをするところです。安心・安全のこだわり野菜の宅配事業は、女性２人に任せています。前例のない事業をやろうとしているので、お手本がなく、手探りで進まなければならないのが苦労と言えば苦労です。でも、すべてが成長するための踏み台だと思い、マイナスととらえず、楽しむようにしています。また今、計画中なのは、ペット事業。そしてもうひとつは子育て事業です。地域に住む障害を持つ人や高齢の人の力を取り込めるような事業に、と考えています。子どもが今年から小学生になるので、放課後問題に自分が直面しており、子育てしながら働き続けられる環境を自分で整えていかざるを得ません。学童保育という選択肢もありますが、現在の学童保育は保護者の大きな負担の上で成り立っています。母子家庭では保護者が果たさなければならないことに対応できないのです。そこで保護者の負担を減らしたい、と地域のNPOと情報交換を行っています。これは自分だけの問題ではなく、やはり一人で子どもを育てている（株）農環の従業員にとっても、将来必ず直面する問題ですから、早く軌道に乗せたいと思っています。

○障害を持つ人と関わる仕事をすることが 、子どもにもよい環境となる

会社を立ち上げ、いろんな事業を企画し軌道にのせるパワーの源ですか？それはやっぱり子どもですね。子どもに働いている自分の姿を見てもらうことが、親のできることだと思います。経済的な収入と快適な食住の保証の両方を今の私は一人で背負っています。仕事の現場に子どもを連れて行って、いろんな人に面倒を見ていただきました。そこで障害を持つ人や高齢者の方たちと自然にふれあえる場が生まれ、子どもにとって、とてもいい環境を作れたな、と思っています。 子どもといっしょに過ごす時間が一番大事です。それが自分のモチベーションをあげる時間でもあります。実を言うと「やるしかない」んです。もう後には引けません。（笑）（2006年冬取材）

５．「自分を好きになることで、周りの人に優しくなれる。」

村上　瞳さん(ママカル主宰、カラー&イメージコンサルタント他)

【プロフィール】

大学卒業後化粧品メーカーに就職。結婚、妊娠を機に退職。第１子出産後、仏教大学英文科編入・卒業。中高英語教員免許を取得するが、自分には合わないと感じてフィニッシングスクールに通う。自分自身が変われたことで周りも変わり、ウォーキングなどを教え始め、「ママカル」設立。中学１年生になる娘と小学４年生になる息子の母、８人家族の主婦もこなしている。

【DATA】

■ママカル設立：2000 年

【事業内容】

■ママカル：「お母さんが主役」の託児付きカルチャー教室

■講師：行政、学校、企業などでのコミュニケーション研修、マナー研修、新入社員研修、ウォーキング指導・美しい身のこなし指導　・カラーコーディネート・センスアップ講座など

【連絡先】

Mail：meilihtm@yahoo.co.jp

○子育て期間中は向上するチャンス

二人目妊娠直前に夫の家族（両親・祖母・弟）との同居が始まり、子育てのストレスもあって夫や子供に八つ当たりしたりという状態でした。そんな頃３歳の娘が「ママの顔はこんな顔」といって眉間にしわを寄せ、口角を下げてみせたのです。このとき「私が変わらなきゃ」と強く思いました。周囲の状況や人を変えることはできないけど、自分や未来は変えることができる。その頃の私はコンプレックスの塊でしたので、まずは自分の長所を知ることで自分を好きになろうと思い、カラーコーディネートや身のこなしを学ぶことにしました。

勉強するための学費は近所の飲食店で深夜アルバイトをして貯めたものでした。半ば意地で頑張れたのですが、子育て期間中は自分のための時間を作り出すことのできるチャンスだとも言えると思います。子どもを遊ばせながら本を読んだりとか、ちょっとした時間に勉強できる期間でした。子育て中は何もできないという方は、できない理由を探してしまうのだと思います。私は「どうしたら時間ができるか」ということしか考えていませんでした。

○周りを変えようとしたらいけない、自分の気持ちの持ち方を変えることが大切

ウォーキングについては本でも覚えようとしましたが、もっときちんと習いたいと思い、尼崎の先生の所まで通いました。カラーは東京までと、どんどんと知識欲が出てきて少しずつ自分自身も変わっていくのを感じました。

そうすると自分に自信が持てるようになり、自分自身が好きになれるのです。心にゆとりを持てるようになると、家族にも優しくなれるのだと知りました。心と体は一つ。外見が変われば心も変わるのだと言うことを実感しました。

○自分の良さを知って、よい循環を作ってほしい

私が短期間に着こなしもメイクも、身のこなしも、そして体型も変わったのを見ていた友人が、自分にもウォーキングを教えてほしいと頼まれ、自宅で教えたのが始まりでした。段々と人数が増えて会場を借りるようになり、子育て中のお母さんたちにも自分の良さを知って、よい循環を作ってほしいという思いから、託児つきの教室を開催したいと「ママカル」を立ち上げました。

シッターも子育て中のお母さんたちが子連れでするという「ママの」「ママによる」「ママのための」カルチャー教室です。この「ママカル」では特にメンバー登録などはしないで１回ごとの申込みで、受けたい時に受けてもらうというスタイルを取っています。現在は主に守山と瀬田で開催しています。

個人の講師としては、滋賀・京都・大阪など関西を中心に企業や学校など公的機関からの依頼を受けて、カラーコーディネート、コミュニケーション、マナー、ウォーキング、立ち居振る舞いなどの研修を多くしています。

講座を通して皆さんに喜んでいただけるのが、やはり一番嬉しいですね。ウォーキングなどは目に見えて変わっていくことを実感できますから、私も嬉しいです。

また、色々と悩みを抱えた方も参加して下さいますが、自分に自信を持てるようになることによって、表情も明るくなり、コミュニケーション力もついていくのを見るのは何よりの喜びです。

○自分の中の引き出しを多く持ち、熱い思いを伝えていきたい

これからは、生徒さんにできるだけ良いものを提供していきたいですし、自分の中の引き出しをもっと持つためにも、特にウォーキング、ファッション、メイクといったビ

ジュアルコミュニケーション分野をもっと深く勉強していきたいと思っています。また、それに関わる心理学的な もの、東洋医学的なものも勉強していって、常にベストなものを伝えていけたらと思います。

講座の内容とは直接関係ないのですが、自分のことだけを考えるのではなく「平和で生きやすい 100 年先の未来を子どもたちに残すには、大人は今何をすべきか」という思いを、少しずつでも皆さんに伝えていけたら嬉しいですね。（2008 年 1 月取材）

６．「作業所で作られた美味しいお菓子を通して、心を伝えたい」

森　友美子さん（作業所のお菓子を紹介する RAINBOW LIGHT SWEETS SHOP 運営）

【プロフィール】

PLANET 株式会社　取締役・グラフィックデザイナー・RAINBOW LIGHT（市民活動グループ）・詩人・ソウルセラピスト・フラワーセラピスト・大津市ボランティア連絡協議会 広報担当・社会福祉法人大津市社会福祉協議会 評議委員・大津市市民活動センター 評価委員会 委員

夫と娘の３人家族。大津市在住。

【DATA】

■登録：(PLANET 株式会社登録) 2007 年７月　■スタッフ：２名

【事業内容】

滋賀県内の作業所で作られるお菓子を販売する Web ショップ運営・グラフィックデザインの企画・制作・編集・ 絵画制作・販売、冊子・書籍の企画・制作・出版・ 人材育成のための教育・研修の企画および運営

【連絡先】

〒520-0822　滋賀県大津市秋葉台 35-55

Tel：077-575-5333　Fax：077-575-5296　Mail：info@planet-rainbow.net

HP：http://www.rainbowlight.info/

○足元を見つめ直して

画家である夫が、ボランティアで絵を教えていた社会福祉施設でお手伝いをしていた時、通所されている方々の笑顔や温かい心に触れることができました。また、そこで作られていたお菓子がとても美味しくて、心に残りました。

それまでは神奈川県にある研修事業の会社で取締役をしておりました関係もあり、滋賀に住んで居ながら、ここに気持ちが無いという状態でした。会社を辞めてからは、ここに住まわせてもらっているのだからこれからは足元を見つめ直してやっていかなくては、と思ったのでした。

新たな仕事について考えていた時でもあったので、３年ほど前に、大阪の NPO の関係で知り合った方が施設を立ち上げ、すごく美味しいお菓子を作っていらっしゃったので、「そんなに美味しいお菓子だったら、インターネットで販売できたらいいね」という話をしたことを思い出して、インターネットでなら自分自身も無理なくできるのではと思えました。

まず自分が好きだから長くできるということと、仕事にも関係していて自分にもできるということからと、インターネットというツールを使うことにしました。

○手探りの立ち上げ

思い立ったものの、どう動いたら良いのか分からず、手探り状態で始めました。まず作業所の一覧表を探して「これこれこういうことをしたいので、お菓子を作っていらっしゃればアンケートを返して下さい」というお手紙を 200 通ほど送らせていただきました。しかし、何のバックもない個人からの手紙では、やはり信用性に欠けたのだと思います。お返事をいただけたのは２件ほどでした。

その内の１件が、長浜市の社会福祉法人湖北会「さぼてん本舗」さんでした。色々やり取りをしながらお話をさせていただいて、2008 年１月に立ち上げた WebShop で、初めて紹介させていただくことができました。

私のポリシーとして、打ち合わせには車ではなく、その地域を身体で感じながら電車やバスなどで伺うようにしています。駅から遠い作業所には駅までお迎えに来ていただいたり、１時間くらい歩いたりと色々と有りましたが、滋賀の素晴らしさを体感できた、良い思い出となっています。

○気持ちを伝えていきたい

現在は、Web 内で滋賀県内の作業所 10 カ所の焼き菓子を紹介させていただいております。開始当時はメディアでも紹介されたりして、売上も月 20～30 件ほど有りましたが、現在は月１件程度になってしまっています。収益が出るようになったら、ブランドを作って身近なお店でもご購入いただける様にしたいという夢があるのですが、なかなか難しいようです。

お客さまの立場になって考えると、色々な作業所のお菓子を食べてみたいのではないかと思うので、詰め合わせできるよう、各作業所から一旦事務所へ送ってもらい、そこで詰め合わせるという作業をしています。作業所からの送料は当方持ちということにしているため、ほとんど収益が残らないという状態なのですが、お客さまに喜んでいただくためにはこのまま続けたいと思っています。

売る事を目的とするのではなく、それを通して気持ちを伝えていきたいという願いで続けています。初めて伺った作業所ではなかなか馴染んでもらえませんが、二度三度と伺うにつれて慣れてくださって、声をかけてくださるようになるのも嬉しいことですね。指導されている職員の方々の献身的な姿にも心を打たれます。
（画像は社会就労福祉センターこだま「パン太郎」のお菓子班の皆さん）

○心を伝える活動

活動の広報のためにも、月に一度、大津の明日都前で開かれるフリーマーケットでも、作業所の実態などを含め、お菓子の紹介をさせていただいています。同時に、夫が主催している「RAINBOW LIGHT」という６名で活動しているボランティアグループでは、子どもさんを対象に、紙を貼ったペットボトルに絵を描いてもらい、それに花を生けるという活動もしています。

また、子どもさんたちにとって私たち大人が負のものばかり置いてきてしまっているこの時代、何を伝えて行けるかと思った時、その一つとして本を通してメッセージを伝えたいという思いで、夫と共同で絵本を出しています。夫の絵に私が文章をつけ、装丁も私がしています。

参考 URL：http://malu.jp/?mode=cate&cbid=13820&csid=14

長い NPO 活動の中で、メンバーや外部の繋ぎ役のような役割をしていて感じたことも多かったので、この活動については夫に HP 関係を手伝ってもらうほかは、このお菓子の販売に関しては、自分一人で続けていきたいと思っています。社会システムを変えられる訳ではないけれど、「どこか間違っているのではないか」ということに一人ひとりが気付いていかないと、何も変わっていかないと思っています。
このような思いを、活動を通して伝えていけるよう続けていきたいですね。(2008 年 11 月取材)

７．「アロマをブームで終わらせないで日常生活への提案をしていきたい」

【2007 年度女性のチャレンジ支援講座受講生】

松野　なおこさん(自宅アロマトリートメントルーム aromaarancia!～アロマアランチャ～経営)

【プロフィール】

職場の同僚からすすめられたアロマテラピーの教室参加をきっかけにアロマセラピスト、インストラクターの仕事へ。2008 年５月自宅サロンを開業。(社)日本アロマ環境協会認定アロマセラピスト、同アロマテラピーインストラクター。また手作り石鹸 SOPER としても活動中。近江八幡市在住。

【DATA】

設立：2008 年５月

【事業内容】

女性専用アロマテラピートリートメントサロン、講師活動、手作り石鹸体験教室開催や販売

【連絡先】

滋賀県近江八幡市中小森町(自宅サロンにつき場所・詳細は予約時に確認)

TEL:090-3351-7830

手作り石鹸と布小物のお店　aromaarancia!

E-mail：aroma_arancia@mail.goo.ne.jp

○アロマとの出会い

アロマテラピーは「芳香療法」といわれます。植物から抽出した精油の香りとその成分によって自分自身の本来持っている美や健康をとりもどすための自然療法です。

2002 年、職場の同僚に誘われてアロマテラピーの教室に通い、アロマテラピー検定１級の資格を取りました。習い事のひとつといった感覚で、楽しかったのを覚えています。その後再びアロマとの出会いがあり、もっと学んでみたいという気持ちが大きくなりました。そこで、2006 年に会社を退職し、大阪で半年サロンなどでアロマトリートメントを行うアロマセラピストの勉強をしました。アロマのよさを、トリートメント(精油を使ったマッサージのようなもの)というかたちでたくさんの人に知ってもらいたいと思ったからです。

○本当に自分のしたいことがみつかる

2007 年は新しいことにチャレンジした年でした。2006 年 11 月、枚方のレンタルサロンを借りて週一回アロマサロンをはじめており、平日は、自宅近くのクイックマッサージのお店で実地訓練を受けながら技術を習得するという毎日を送りました。

そんな時、県立男女共同参画センターで「女性のチャレンジ支援講座」が開講されることを知ります。講師は黄瀬紀美子さん(有限会社アイ・キャリアサポート代表)です。漠然とアロマセラピストを仕事として考えていましたが、起業を含め「未来の自分」について考えてみるよい機会になるのではと思い受講しました。

このチャレンジ支援講座はわたしに大きな転機を与えてくれました。この講座がきっかけで、今仕事の大きな部分を占めている「アロマテラピーインストラクター」をやろうと決意したからです。それまで、講師という仕事にはまったく興味がありませんでしたが、講座の仲間から講師の依頼を受けたことで、一歩を踏み出すことになりました。

講師をやってみてわかったことは、インストラクターとして人に教えることも、アロマのよさをたくさんの人に伝えられる方法だということです。その後、講師の依頼がふえたため、あらためてアロマテラピーインストラクターの資格を取りました。チャレンジ支援講座を受けることで、将来自分はどうしたいのかはっきりと自覚することができたのです。

県立男女共同参画センターで開催されるチャレンジショップにも出店しました。ハンドトリートメント体験、精油を使った手作り化粧水やルームスプレー作りのできるアロマクラフトコーナーを設置、手作り石鹸も販売しました。アロマテラピーのサロンって、興味があってもちょっと敷居が高いですよね。チャレンジショップならどんなことをやっているのかもわかるし、通りがかりに気軽に体験してもらえます。アロマを知っていただくよい機会となり、私自身、接客を通して集客の方法や、広告・宣伝の大切さを学ぶことができました。その後も、センター主催の講座では講師をさせていただいたりと、いろいろな経験を積むことで自分自身のスキルアップをすることができました。

○アロマのよさをたくさんの人に

石けんなど 2008 年５月には、自宅２階の一室でサロンをはじめました。お店の名前「aroma arancia!～アロマアランチャ～」の「アランチャ」は、イタリア語でオレンジです。スイートオレンジの香りがすきなことと、ビタミンカラーで元気がでるのでこの名前にしました。”！”は、勢いがあるかなぁ…と(笑)

講座で化粧水を作った方のなかには、その後も作って使い続けている方がたくさんいらっしゃいます。精油はほんとうにいろいろな利用法があるし、意外とお金もかからないものです。

夢は、アロマをブームで終わらせないで日常生活へ簡単に取り入れられる提案をしていきたい、ということです。そのためには、教室やサロン、精油など材料もそろうようなアロマ全般に関するお店を開くこと、そして手作り石けんの教室もいっしょに続けていきたいです。アロマは特別なものではありません。それを一つの手段として「健康と美容」の手助けができればと、わたしは考えています。(2010年 11 月取材)

８．「花に心をこめて届けるお手伝いをしたい」

【2008 年度女性のチャレンジ支援講座受講生】

川原　あけみさん(華師　華屋はぴねす Buquette(幸せの花束)経営)

【プロフィール】

営業職から一転、花を扱う仕事へ。滋賀の自然の中で、人と動物と自然の共存をめざす空間を作りたい。フラワーデザイナー＆コーディネーター、(社)A.F.T １級色彩コーディネーター、スキンセラピスト。日野町在住。

【事業内容】

フラワーコーディネート、パーソナルカラー診断、スキンセラピスト

【連絡先】

滋賀県蒲生郡日野町

Tel：090-1442-7114

○花とわたし

私の仕事は「華師(はなし)」です。人の心を癒したり、「華」やかにする、そんな花との出会いをお客様に提供したくてこの名前をつけました。花にストーリー性をもたせ、カラーコーディネートの知識を活かして色が持つ効果をアレンジに取り入れた、オリジナルの作品作りをめざしています。今は週２回近所の花屋で働きながら、自宅を拠点に華師や講師の活動をしています。

今の仕事を始めるまでは営業の現場で働いていましたが、家庭と仕事の両立がうまくいかず退職。ふとしたきっかけで「花」の仕事に出会います。結婚式場での仕事、まちの花屋さん勤め、マンションの一室を借りての花屋と、ずっと花と過ごしてきましたが、多くの挫折や悩みも経験しました。家族とうまくいかなくなったこともあります。それでも、いつもわたしを支えてくれた家族には本当に感謝しています。

わたしの思い出の花は、クレオパトラも愛したといわれる「イヴピアッチェ」というバラです。コロンとしたピンクのつぼみが、花が開くにつれ紫色を帯びていきます。その様子がまるで少女から大人の女性へと成長していくかのようです。初めてこの花を見たとき、花も生きている、と実感しました。それまでの、ただ見栄えばかり考えていた花の扱いを改め、花の命、花の気持ちを大切に仕事をしていこうと決心した瞬間でした。

○G-NET しが(滋賀県立男女共同参画センター)との出会いの中で

G-NET しがのみなさんには本当にお世話になり、親身になってわたしの一歩を応援してくださっています。2008 年の「チャレンジ支援講座」の受講や、2009 年 11 月チャレンジショップへの出店、G-NET フェスタでは実行委員長を引き受け、不安もありましたがよい経験をさせていただきました。

G-NET しがのよいところは、世代を超えた出会いがあることです。ここでたくさんの仲間ができました。G-NET しがとの出会いがなかったら、今のわたしはなかったと感謝しています。

もっとたくさんの人に G-NET しがの存在を知ってもらって、活用してほしいと思っています。知らないとちょっと敷居が高いと感じるかも知れませんが、実際はそんなことはありません。チャレンジショップをのぞいてみたり、講座に参加したりと、きっかけはいろいろあります。ぜひ、足を運んでみてくださいね。

滋賀県立男女共同参画センターホームページ:http://www.pref.shiga.lg.jp/c/g-net/

○夢実現へまた一歩

もうひとつ、「ドリプラ(ドリームプラン・プレゼンテーション)」との出会いが、わたしの新たな一歩を踏み出すきっかけとなりました。自分の夢を多くの人に聞いてもらい支援の仲間を募る。そのために自分の思いを発表できる場です。そこで、「思いを行動へ」つなげていくことの大切さ、独りではなくみんなで夢を語り、つながる楽しさを知りました。

自分の夢にきちんと向き合ってカタチにしていく作業の中で、多くの仲間ができました。今まで苦手意識をもっていてできなかったホームページやブログも、助けてもらいながらチャレンジしています。

多賀の自然の中で生まれ育ったわたしは、自然、とりわけ現在自分の住んでいる日野町の素晴らしさを改めて実感しています。わたしの夢は、そんな自然の豊かなところで、人が人としてありのままいられる、そんな空間を作ることです。自然と人と動物とが共存する癒しの場です。今あるものを活用し、田舎と町をつなぎ、地域がうるおう仕掛けを作りたいと考えています。

2011 年３月には、花の個展を開きたいと考えています。有言実行の気持ちで頑張ります。（2010 年 12 月取材）

９.「再就職できなかったことをバネに、起業することにチャレンジできました」

森本　友子さん（ランチ・グランマ経営）

【プロフィール】

20 年の営業職勤務後、再就職を試みたが年齢制限ですべて落ち、作業所の賄い勤務で「食べて喜んでもらえる」ことの充実感を実感。チャレンジ講座受講中に宅配弁当「ランチ・グランマ」を 2009 年起業。10 月には能登川病院の食堂でも「ランチ・グランマ」として開業。彦根市在住。自営業の夫との二人暮らし。

【DATA】

■登録：宅配弁当 2009 年３月、能登川病院食堂 2009 年 10 月

■スタッフ：１名（宅配弁当）

【事業内容】

デイサービス施設への宅配弁当事業（週一回・完全予約）、能登川病院内での食堂で、モーニングタイムとランチタイムの営業。

【連絡先】

〒521-1136　彦根市新海浜２丁目８－６

Tel：090-9884-7876　Fax：0749-43-5386

○営業職からの転換期

思うところがあり、20 年勤め続けた営業職を辞して、今まで培ったものを活かせる仕事で再就職をしたいといくつも面接を受けましたが、年齢制限もあり、全ての面接を落ちてしまい、将来への不安を感じていました。

そんな時（２年ほど前）、友人が東近江作業所のグループホームで食事を作る人を募集していることを知らせてくれました。早速応募したところ採用していただき、思わぬことで全く畑違いの仕事に就くこととなりました。障がいをもつ方たちとの触れあいは今まで経験もなくて不安もあったのですが、始めてみたら皆さん素直で可愛い若者ばかりで、今でも楽しみに働かせていただいています。

○自宅ショップで宅配弁当を起業

暗中模索の状態は続いていたのですが、たまたま目にした東近江市のチャレンジ講座のチラシを手に取ったところ、「チャレンジ」という言葉にインスピレーションを受けました。「何か掴めるかも」と強く感じて応募したところ、倍率は高かったのですが、2008 年７月から 11 月の講座に受講生 30 名とともに参加することができました。講師

の小川泰江さんの、実践的でとても参考になる講義で刺激を受けて起業への意欲と具体性が増しました。食堂の厨房内で（森本さん）

講座の期間中に、『地元の野菜をたっぷり使った手作りのお弁当を宅配で食べていただこう』というコンセプトで起業することにしました。自宅のキッチンをいかに安く改造できるかかなり研究して、短期間で安価に改造もできました。2008 年 12 月に保健所へ登録でき、2009 年３月にはオープンしていました。週に１度、完全予約制でデイサービス施設へ 20 食ほどの宅配をしており、手づくりシフォンケーキの販売もしています。この事業はスタッフ１名にも手伝ってもらっています。

○チャレンジ精神で食堂を始める

宅配弁当『ランチ・グランマ』をスタートして間もない８月、能登川病院さんから施設内にあるレストランで開業しないかというお話をいただきました。何ごともチャレンジとお受けし、契約や準備に入って 2009 年 10 月にオープンすることができました。ただ営利目的のお弁当屋さんを開業したのではなく、デイサービス施設へ納めたり、作業所でも食事を作っているという実績を評価していただけたのだと、嬉しく思っています。設備は前任者が残したものをそのままリースで使えたので、初期費用が少なくて済むのも決心できた理由の一つでした。

能登川病院のレストランも、『ランチ・グランマ』という店名でオープンしました。一人で賄える範囲での作業となりますので、一日 20 食ほど（一食 500 円～）でも手一杯の状態です。病院は市街地から少し離れているので、病院勤務の皆さんやお見舞いの方々などが主なお客さまです。

平日は毎日朝８時半から入ってモーニングとランチの仕込みをします。10 時から開店して 11 時からランチの販売。その後自慢のシフォンケーキと飲み物をセットして楽しんでいただきながら閉店準備、３時頃閉店します。まだ始めたばかりですので、どのようにしたら一人でも効率的に働けるか、色々と考えながら営業している状態です。ちゃんと減価償却を考えて，メニュー作りをしなくてはと思いつつ、お客さまに喜んでもらえるのが嬉しくて、ついつい採算を忘れてしまうのが、我ながら困ったものです。

週に３日は夕方からグループホームへ食事を作り行っています。施設の若者たちとの楽しいお喋りが癒しになっています。週末は宅配のお弁当もあるので、なかなか休むことはできませんが、楽しく働くことができているので、充実した毎日を送っています。

○地元に還元しながら発展したい

今、地元の新鮮で美味しい食材を取り入れながら、お世話になっている能登川の名物となるようなメニューが出来ないかと考えています。アイディアは出るのですが、それが一人で数をこなせるようなノウハウもとなると難しく、なかなか実現には至っていないので、ぜひ完成しなくてはと思っています。

利益が上がらなかったら働いている意味がないと思うし、一人で対応してもお客さまをお待たせしないで喜んでいただける、しかも採算の取れるメニュー作りをしていかなければといつも考えながら働いています

将来的には、幸い自宅の庭が広く琵琶湖にも近いので、自宅でレストランを開きたいと考えています。

お客さまの「美味しい」という一言に励まされ、日々頑張っています。（2009 年 12 月取材）

10.「「子どもがいてもできる仕事はないかな」という思いからスタートし、「完璧なママじゃなくてもいいやん」という思いを伝えたいと、フリーペーパーの編集長に」

廣瀬　香織さん（MOM 企画代表・フリーマガジン「ピースマム」編集長）

【プロフィール】

兵庫県出身。大阪で販促企画・営業職として勤務する関係で、撮影などに携わる。フードコーディネーターの資格も取得。結婚後滋賀県に住み、子育て中からフードライターとして様々な活動を始める。2008 年よりフリーマガジン「ピースマム」の編集長として執筆、撮影、デザイン、編集に活躍。様々なイベントやセミナーを企画実施している。夫と小学生低学年の娘・保育園に通う息子の４人家族。守山市在住。

【DATA】

■発足：2008 年　■スタッフ：７名(WEST 在籍者含)

■パートナーシップ：有限会社 WEST

【事業内容】

滋賀の子育て中の主婦向けの情報誌「ピースマム」を企画、編集。ピースマムに関する親子イベント、手作りえほんのワークショップなど企画開催。撮影、取材、原稿ライター業務

【連絡先】

MOM 企画

〒523-0893　滋賀県近江八幡市桜宮町 289　フジビル５F

Tel：0748-36-6689　Fax：0748-31-2334　HP：http://www.peace-mom.net/index.html

○前職のキャリアを活かして、子育て中でも就職活動を

結婚前、大阪でレストランのパンフレット作成やディスプレイをする会社で営業職をしていました。そこでレストランの販売促進に興味を持ち、フードコーディネーターの資格を取りました。その後別会社に就職し、レストランオープンの総合的なプロデュースに関われせてもらいました。

その後京都勤務の夫と結婚して退職、滋賀に住むことになりました。マタニティーライフはのんびりエンジョイしましたが、長女の出産後、子どもが居てもできる仕事ができる方法はないかと考えるようになっていました。そんな時、情報誌にフードライターの求人が掲載されているのを見つけ、ライターなら仕事も家に持ち帰ってできるのではと応募しました。その時の社長さんが女性で、「子どもが小さいけれど、連れてきても良いよ」、と言ってくださる理解のある方でしたので幸運でした。その「やってみたら」と言ってくれた言葉が働く支えとなりました。

当時から守山市在住でしたが、一時保育というシステムが有って、子育てに良いところだなと思いました。週３回くらい、だいたい４時間ほどスケジュールをまとめて働き、取材の時だけ長女を預かってもらっていました。この頃は本当に時間のやり繰りが上手だったと思います(笑)。子どもが寝てから記事を書くという日々でした。

二人目を妊娠・出産中でもフリーライターという立場だったので、少しずつ原稿を書きながら、のんびりと職場復帰できたのは良かったと思います。二人目の長男は手が掛かって大変で、長女の時は子育てが楽だったのだと痛感しました。出生順が逆だったらこうして仕事をしていなかったのではと思うほどです。

○自分目線の原稿を書きたいという欲求から、子育て情報誌のフリーペーパーを企画

「もっと自分目線の原稿を書きたい」という強い思いもあり、この地域で子育て情報誌を作ってみたいという発想に繋がっていました。子育て時期の私の思いに共感してくれるママたちがいるのではと感じていたのです。

ちょうどフリーペーパーの発刊を考えていた方との出会いがあり、「ちびまま」というフリーペーパーを立ち上げました。正社員という立場で編集・発刊に携わっていましたが、経営者の都合でいきなり半年で中止という事態に陥ってしまいました。この時の体験から、雇われている状態では自分の思いを遂げるのは難しいということを痛感しました。

フリーの時からお仕事で繋がりのあったWESTさんから新しいフリーペーパーのお話をいただいた時もその気持ちが強く、個人でやりたいと思っていましたので、個人事業主として「MOM（マム）企画」を立ち上げ、WESTさんとはピースマムプロジェクトという共同企画で発信することになりました。

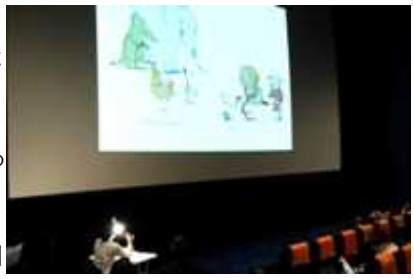
○『ピースマム』発刊

試行錯誤をしながらも準備を進めて、2008年12月に創刊号を発刊することができました。１年に４回発行の季刊という形での発行をすることになりました。2009年末に発刊したものは第５号となり、16000部発行しました。

この創刊時期に合わせたように草津にオープンするイオンに併設される「ワーナー・マイカル・シネマズ草津」さんと出会いがあり「イベントを共催できないか」というお話をいただきました。地元の子育て世代のお母さん達にアピールするイベントを企画したいというお考えだということで、喜んでお受けしました。

そこで思いついたのが、絵本を大きなスクリーンで映し出し、プロの読み手に読み聞かせしてもらうというアイディアでした。子育て時期には映画館などなかなか出掛けられないお母さんたちに子どもさんたちとゆっくり気兼ねなく、大きなスクリーンで絵本

を鑑賞してもらえたらと思ったのです。「シネマ de おはなしえほん」というタイトルで、毎回 100 組の親子さんに楽しんでいただいています。



初めのうちは「絵本はお母さんがお子さんに読んであげるべきものだから…。」と上映許可を断られた出版社からも、今では「こんな新刊が出ましたのでどうですか」というご案内をいただくほど、認知度が高まって来ました。2010 年は滋賀県以外のワーナーマイカルさんでも実施されることになりそうです。

○『ピースマム』を通して、様々な活動を広げていきたい

運営も協力して今、他にも、お母さんたちにも文字やストーリーを考えることにより、絵本をより身近に感じてもらえることを願って始めた「手づくりえほん教室」や、「ママの新しい働き方提案するお仕事セミナー」・「親子 de クッキング」など、様々なイベントやセミナーを開催し、働くお母さんも自分自身のため、子どもたちに楽しんだり学んだりしていただける企画をしています。

また、時にはイベント自体の運営や企画に関わってもらう機会をつくることにより、参加されるお母さんたちからリーダーシップを取れる人を育て、その活躍できる舞台を作りたいと考えています。何かを探している方やきっかけを待っている方の魅力を引き出したい、そしてそのお手伝いができればと考えています。

各イベントの参加には「ぴーまむ CLUB」への登録が必要なのですが、あえて携帯端末からのみの登録としています。現在 1000 人以上の方に登録会員していただいています。主に私と同じ 30 代後半の女性が多いですね。

○家族に支えられていることに感謝して、仕事に励みたい

私は元々営業だったので、広告取りなどの営業は苦ではないですし、様々な立場の方々とお話しできるの多くのご家族とともに…で、取材も楽しみです。記事もアシスタントの女性が２人いますが、殆ど自分で書いています。デザインはパートナーシップの会社が手伝ってくれています。写真撮影も多少はプロのカメラマンに依頼し

ますが、殆ど自分で撮影しています。以前から撮影はしていましたが、自分の子どもを持ってみて色々と工夫するうち、アングルや声かけなど母親目線で対応できることから、子どもさんの画像を撮るのが巧くなったと自負しています(笑)

スタッフの支えにも勿論感謝ですが、こうして仕事に頑張れるのは家族の支えがあるからこそと、とても感謝しています。(2010 年 1 月取材)

11.「花を通して、安らげる時間や場所を提供したい」

【2011 年度チャレンジショップ出店】

松田　禎子(さちこ)さん(フラワーデザイナー、フラワーデザイン教室「Favorite Flower」主宰、チャレンジショップ「Favorite Flower」店主)

【プロフィール】

自分の活けた花で家族が癒され喜ばれた経験から、フラワーデザインの勉強を始める。資格取得、大きな賞の獲得など着実に力をつけていくが、家庭との両立に悩んだことも。大津へ引っ越しを機に G-NET しがのチャレンジショップへ出店。本格的に自分の夢に向かって歩み始める。

【DATA】

〈資格〉

１級フラワー装飾技能士、職業訓練指導員免許(以上　厚生労働省資格)、NFD 講師、１級フラワーデザイナー、資格試験審査員(以上　公益社団法人日本フラワーデザイナー協会資格)

〈主な受賞歴〉

日本フラワーデザイン大賞　2009 年　ジュエリーボックス部門第１位
　　2001 年　ブライダルブーケ部門第１位

ハウステンボスブライダルブーケコンテスト　1999 年　プロフェショナル部門入賞

※日本フラワーデザイン大賞 2011 では、指名作家部門で出展

【連絡先】

大津市唐橋町

E-mail：favorite-flower@gaia.eonet.ne.jp

HP：http://www.eonet.ne.jp/~favorite-flower/

ブログ：http://favorite-3.seesaa.net/　(2012 年２月現在)

○フラワーデザインの道へ

この道に入ったきっかけは、本当にちょっとしたことでした。かれこれ 20 年も前になります。フワラーアレンジメントの講座に通っていたわたしは、家でも時々花を活けることがあり、当時体調を崩していた父が、それをとても喜んで楽しみにしてくれている、ということを知りました。花は好きでしたが、「花に癒される」という実感を持った最初です。とてもうれしい気持ちになったことを覚えています。本格的に花について

学びたいと考えたわたしは、花屋さんで働きながら勉強しました。今の資格も 11、２年かかって取得したものです。

日々の花を提供する「花屋」の仕事とは別に、デザイナーとしてフラワーデザインのコンテストにも挑戦してきました。学べば学ぶほど、花の魅力に引き込まれていきます。コンテストの会場で、わたしの活けた花で喜んでくださるお客様がいらっしゃったことが本当にうれしかったです。ひとつの世界を共有できる、そんな気持ちになります。

長い間には、結婚や引っ越しなど自分自身の生活にも大きな変化がありました。そんな中、2001 年４月、日本フラワーデザイン展ブライダルブーケ部門第１位という大きな賞をいただきました。そして、その後１人目の子どもを授かりました。賞を取ったことでまわりからは大きな期待をかけていただきましたが、当然、勉強や制作には時間をさけなくなりました。それでもこの時は、今はしっかりと子育てをしようと決めました。もちろん「フラワーデザインの仕事をしていきたい」と、子育てに追われる中でも勉強だけは続けていました。しかし、一緒に勉強してきた人たちがどんどん先に進んでいく様に、実はあせりにも似た気持ちもあったのです。

〇チャレンジ相談と出会う

福岡、大阪と引っ越しを重ね、2011 年春、ようやく大津に腰を落ち着けることになりました。子どもが二人とも小学生となり、これまで思い描いていた夢に向かって歩きだせるチャンスだと、すぐに行動を起こしました。インターネットで調べると、滋賀県立男女共同参画センターに、女性のためのチャレンジ相談室があることがわかりました。すぐに予約を取り、７月にセンターを訪問。「フラワーデザインを生かしてなにかやりたい」と最初はまだ漠然とした内容でしたが、話をすることで少しずつ形になってくのを実感しました。

「チャレンジショップにお店を出してみない？」といわれたのはそんな時です。「チャレンジショップ」とは、滋賀県立男女共同参画センターの一角に設けられたスペースに、期間限定で出店することです。厨房やカフェスペースがあるので、飲食店のチャレンジもできます。お店を出したときに必要な、企画、仕入れ、接客、販売などを経験し力をつけることができるのです。これまでたくさんの人がここでチャレンジをし、実際に自分の店舗開店につなげていると聞いていました。その頃はまだ、不安な気持ちの方が大きかったですね。それでも相談員の方の励ましを受けつつ、なんとか 10 月からお店を出してみることにしました。

お店を開くことは、コンテストに出す作品作りとは大きくちがい、しなければいけな

いことが多岐に渡ります。接客にたいして苦手意識のあったわたしには、実は大変なストレスでした。それでも、お客様の喜んでくださる顔に徐々に自信がもてるようになりました。花の持つ癒しの力をお客様に届けたいと、引き続き、2012 年１月からのチャレンジショップに参加中。「日常に花のある暮らし」をお手伝いしたい、そんな気持ちでお店を開いています。

○新しいチャレンジに向けて

わたしがチャレンジを続けていける大きな原動力のひとつは、家族の理解と協力です。現在小学４年生と１年生の子どもがいます。わたしがチャレンジを再開したことで、家の中はたいへん。家族にも大きな負担をかけてしまうことに引け目を感じ、自己嫌悪に陥ったこともありました。しかし成長していく子どもたちを見るにつけ、自分の頑張っている姿を見せることもわたしにできることだ、と考え始めました。夫からも「元気だね。」といわれるんですよ。

チャレンジ相談に始まったわたしのチャレンジ。現在は、自宅マンションの集会室で月１回フラワーデザインの教室を開くようになりました。また、イベントで体験教室を開いたり、受注作品の制作販売をしています。将来は自分のアトリエを持ち、制作の幅、活動の幅を広げていきたいと思います。目下の悩みは、自分の仕事と家族の予定の調整、時間の使い方ですね。

2011 年 10 月チャレンジショップの開店日、思いがけず開店祝いのケーキを買ってきてくれた夫。2012 年２月の「ファザーリング全国大会 in しが」に出店の日、「おかあさん頑張って！」の手紙をくれた子どもたち(その手紙はお守りのようにいつも持ち歩いています)。家事手伝いにも頑張ってくれる家族に、背中を押されてここまできました。先日、４年生の娘が学校で描いた「フラワーデザイナーになりたい」という将来の夢。どれほど嬉しかったことでしょう。自分の夢に一歩でも近づきたい、そんな気持ちで毎日奮闘中です。(2012 年２月取材)

12.「起業支援を通して地域の活性化に繋げたい」

堀　裕子さん（堀裕子行政書士事務所）

【プロフィール】

草津市生まれ。京都産業大学経済学部経済学科卒業後、大阪市にある大手流通業社に就職。勤務を続けるかたわら行政書士の資格を取得したが、子どもが小学校に入学したことでフルタイム勤務に限界を感じ退職。

2005 年 10 月行政書士として登録。2006 年４月草津 SOHO オフィスで事務所を開く。2007 年 11 月同オフィスから独立。新たに事業を展開するべく奮闘中。

【DATA】

■登録：2005 年 10 月行政書士、2007 年１月海事代理士（日本海事代理士会会員）

■起業：2006 年４月

【事業内容】

会社設立、記帳代行、契約書、建設業許可、特殊車両通行許可、遺言・相続

【連絡先】

〒525-0059　滋賀県草津市野路８丁目３番４号

Tel：077-562-8707　Fax：077-562-0561　Mail：yuko@horys.net

HP：http://y.horys.net/

○出産・離婚で生活スタイルが変わった

結婚してわずか２年で夫の家業が倒産し、娘がまだ１歳のとき離婚せざるを得なくなりました。実家に戻り両親に娘を預けて、結婚前から勤務していた会社に通勤していました。

勤務先は福利厚生もしっかりしていたのでできたら働き続けたいところでしたが、娘が小学校に入学する頃、両親が悲鳴をあげました。保育園までは短縮勤務があったのに小学校入学からフルタイムに戻らねばならず、 小学１年から小学３年生まで学童保育があるとは言え勤務先の大阪から戻ってくるには間に合いません。 次の日の準備や宿題もみてやらなくてはならないなど、仕事を続けるのが難しくなりました。

この辺りがクリアできていたら働き続けていたと思いますし、夫が居ても同じだったのではと思います。多くの働く女性にとって重要な課題ですね。

○退職を決意して行政書士事務所を開設

離婚をきっかけに法律を知った方が良いかなと思って法律の勉強を始めました。勤務先の福利厚生で自己啓発プログラムがあり、お金をかけずに勉強することができたのも助かりました。

行政書士試験は一発合格できたのですが、司法試験はさすがに難しく時間がかかりすぎ、断念することにしました。（当初から５年の期限を設けていました）

親の意向はパートに出ることだったようですが、パートでは将来が無い、何も残らないと思いました。親のバックアップがある内に自分の足で立てるようにするにはどうしたらいいかと考えたら、行政書士しかないという結論に達しました。

○相談を受けたらどこかに繋げられる、人間関係が累乗的に増えていくのが面白い

京都・滋賀を中心に活動しています。主に建設業許可の仕事が多いですね。契約書等、こまごまと便利に使っていただけたらと思っています。記帳代行は現在５～６社、自分で入力しています。申告は税理士さんを紹介したり、ＨＰ作成の依頼があれば友人とコラボレートして対応します。

色々相談していただけることで人間関係が広がっていくところが面白いですね。本来の行政書士の業務はスポット的な仕事になってしまうので、いかに長くお付き合いできるかがポイントだと思います。

2007 年 11 月に草津 SOHO オフィスから独立して現在は移行期間です。当初思っていたよりも行政書士の仕事は地域密着型なので、また新しく覚えていただけるように、再度一からの出発だと思って頑張ります。

SOHO オフィスの入居は最長３年という決まりがあるため、そういう意味では期間が限られている場所から始めたのはちょっと甘かったかなという面もありますが、多くの起業家の方々と出会えたのはとてもプラスになったと思っています。

○地域の活性化に少しでも繋がれば嬉しい

営業活動は本当に難しいものですが、紹介を貰うのはとても嬉しいものです。人と人との繋がりを大事にして、これからもより以上に地域密着で仕事を続けていきたいと思っています。

起業家が増えることが滋賀の活性化に繋がったら嬉しいですね。そのためにもこれからも法改正などの勉強は続けなければと思います。（2008 年１月取材）

13.「自分の食べたいパンを追い求めて」

【2009 年度女性のチャレンジ支援講座受講生】

新井　久美子さん（ぱん工房　る・くぷる）

【プロフィール】

家族の病気から食の大切さに目覚め、自分の食べたい、食べてもらいたいパンを焼くようになる。地産地消にこだわり、地元の保育園や作業所、直売所での販売に力を注ぐ。東近江市在住。

【事業内容】

パン製造販売(完全予約)。製菓衛生士、食育インストラクター

【連絡先】

滋賀県東近江市宮川町 651-93

Tel/Fax：0748-55-3997(2011 年 1 月現在)

○パン屋をやりたい！

わたしは、毎日パンを焼いています。パンを焼くことが本当に好きです。しかし若い頃は、「パンを焼く」ことを仕事とするとは思っていませんでした。製菓学校で学び、卒業後はパン屋さんに就職しましたが、結婚してすぐに辞めてしまいました。その後 10 年間はいろいろな職を経験しました。

再び「パンを焼く」きっかけとなったのは家族の病気でした。食の大切さをいやというほど実感したわたしは、自分で食べたいと思うパンがない、という思いから自分で焼くことを思い立ちます。1995 年、天然酵母を使い地元の食材でおいしいパンを作る、そんな思いを抱いて本格的に勉強を始めました。東京のパン屋さんが開催していた教室に通うために、仕事の合間を縫って夜行バスに乗り込む日々もありました。「自分が食べたいと思うパンをみんなにも食べてもらいたい」そんな気持ちから、天然酵母パンを焼く「ぱん工房　る・くぷる」は生まれました。

パンの材料には、できるだけ地元の食材を使っています。生地には、北海道産の小麦粉に米粉を混ぜているのですが、地元の農家さんから直接仕入れた米を玄米のまま自家製粉し使います。その他の食材も、かぼちゃやほうれん草、トマトなど季節の野菜をはじめ、黒豆や小豆など、できるだけ東近江市で採れるものを利用しています。

○ビジネスとしてのパン屋を考える

最初は、ぼちぼち内職程度にパンを焼いておりましたが到底仕事にはなりませんでした。そんな時、友人に誘われて、G-NET しが(県立男女共同参画センター)主催の「女性のチャレンジ支援講座」を受講することになりました。2010 年 7 月から 12 月にかけて行われた講座を受ける中で、自分は何をしたいのかということをつきつめて考える機会を得ました。ビジネスとしてきちんとやっていけるパン屋であること、それをはっきり自覚した講座でした。

講座を受講中、講師であった小川泰江さん(NPO 法人びぃめ～る企画室元代表)から、カフェに卸すパンを焼かないかと誘われました。びぃめ～る企画室が当時栗東で経営していた”コミュニティ・カフェ　Be-cafe”では、「ワンデイ・パティシエ制」を導入していました。将来お店を持ちたい人たちが日替わりで、ケーキやパンを実際に店頭で販売、腕をみがいてもらう場を提供するというものです。

このチャンスをいかしたい、と二つ返事で引き受け、10 月から早速パンを納めることになりました。最初はそんな種類と数を焼けるのだろうかと不安もありました。しかし、直接お客様の反応が返ってくることが本当にうれしく、「おいしい！」と言って下さるお客様の声に励まされ、無我夢中でパンを焼きました。

○振り返らず前へ

今では、以前より焼く数が増え、びっくりするほど手際よくたくさんのパンを焼けるようになりました。毎日のように、近所の保育園や小学校、近隣の企業やカフェ、JA のお店にパンを卸す日々です。最初にお世話になった Be-cafe は、栗東から野洲に移転し、定期的にパンを卸すことはなくなりましたが、イベントの時などには声を掛けてもらっています。頑張った分だけ自分に返ってくる、努力はうそをつかない、ということを実感する毎日です。

よりおいしい、満足できるパンを作るため、常にアンテナを張り巡らせています。最近、九州に米粉を使ったおいしいパンを見つけました。そこでは教室も開いておられるということで、早速勉強に行ってきます。今年も前へ前へと進んでいく、そんなわたしでありたいと思います。(2011 年 1 月取材)

14.「80 歳まで現役を目標。健康の発信基地をめざして」

田中　香織さん(整体院・花香グループ代表、東洋式リンパ療法研究所所長、療術メディケア学院校長)

【プロフィール】

看護師の夢に挫折するも、自立の道を模索。自分の腰痛経験から整体師を志す。その腕と人柄が評判を呼び、現在は整体とリンパマッサージのお店を経営。５店舗を構えるグループの代表を務める。整体師、東洋式リンパ療法師の学校を立ち上げ育成も手掛ける。専門をいかした社会福祉活動も積極的に行っている。

【DATA】

〈資格〉歯科衛生士、整体師、リンパ療法師、健康体操指導員、姿勢矯正指導員

【主な連絡先】

東洋式リンパ療法研究所/(整体院・花香(本店)長浜市神照町 735-8(2013 年６月移転)

Tel：0749-62-3906 ※全店要予約、連絡先・定休日等は HP で確認

ブログ：http://blog.livedoor.jp/hanakaori_group/

○わたしが整体師をめざしたわけ

みなさんは「整体院」というとどんなところをイメージしますか。

『整体院 花香－hanakaori－』はまるで美容院のようなつくり。女性にもっとリラックスして施術を受けてほしいとの思いをもって整体師を志したわたしは、お店づくりにもとてもこだわっています。現在は JR 米原駅前の『整体院 花香－hanakaori－』を中心に、伽香・びわ桜など５軒の治療院を経営。スタッフともども、みなさんの健康づくりのお手伝いをさせていただいています。

「整体」との出会いは、学生時代に痛めた腰が立ち仕事で悪化したことです。治療のため整体院を渡り歩きましたが、出会うのは男性の整体師ばかり。年頃のわたしには、男性の施術に抵抗がありました。女性にもたくさんの患者さまがいるのに、整体師はまず男性。女性も入りやすいサロンのような整体院で、もっと気軽に治療を受けられたらいいなと思いました。その後「整体セミナー」を受ける機会に恵まれ、整体師を志しました。そのセミナーでも女性の指導者はほとんどいなかったのです。

１年の勉強ののち、すぐに開業しました。まだまだ腕はありませんでしたが、実践しながら学ぶ、学んでまた実践するの繰り返しの中、今のわたしは患者さまに育てていた

だいたようなものです。結果がついてくればまた新たな患者さまがきてくださいます。８割は女性の患者さまですが、男性やスポーツをされる子どもさんを診せていただくことも増えました。自分でやってみてわかったことは、この仕事は今後まだまだ需要があるということ。そして女性にとってやりがいのある職業の一つだということです。

○挫折の中で

こんなわたしにも、紆余曲折の時代があります。小学６年生のわたしの夢は、看護師になることでした。高校の看護科は失敗しましたが、高３で再度チャレンジしました。今度こそと頑張っていたわたしは、ここで大きな挫折を経験します。なんと、看護学校を 30 校受験したにもかかわらずどこも通らなかったのです。そこで一旦夢を保留、歯科衛生士の仕事をはじめました。それは長く続かず、畑違いの「ブティック店長」の仕事もしました。この時の接客と経営の経験が今ではたいへん役に立っています。この挫折の経験があったからこそ、今の自分がある。夢をあきらめなくてよかった、と心から思います。

その後結婚、すぐに妊娠しました。ふつうならここで子育てに専念、一段落してから再チャレンジと考えるでしょう。しかし「自立したい」「自分でなにかやりたい」との気持ちが強いわたしはむしろ、今がチャンスだと思いました。パートナーにも「起業する」夢を語っていました。看護師にはなれませんでしたが、「起業」し「人の役に立ちたい」という夢は、「整体師」というかたちで実現しました。

わたしは整体だけでなくオリジナルの「東洋式リンパ療法」も行っています。癌患者さんとの出会いからリンパの重要性を知り、術後の浮腫の軽減や免疫向上のために独学でその研究をしました。リンパというと美容面を取り上げがちですが、治療に役立てたいとの思いが強く「東洋式リンパ療法研究所」も立ち上げました。日々の施術では、患者さんに何が必要かを見極め、整体や東洋式リンパ療法を組み合わせています。

○夢は現役 80 歳！

おかげさまで公私ともに充実した毎日を送っています。女性は、同時にいろいろなことを考えたりしたりできるという特性があるように思います。わたしはそれをいかし、経営者、母、妻、自分自身を切り替えています。何か一つだけに絞ってしまうほうがかえってストレスになるようにも感じているのは、その特性のせいかもしれませんね。

仕事を活かしての社会福祉活動も行っています。今一番気にかけている事は、過疎化地域でのお年寄りのケア。４年前「元気なお年寄りになろう!!プロジェクト」を立ち上げました。年をとっても寝たきりにならず、健康に過ごしてもらうための活動です。整体やリンパ療法を使って免疫力をあげ、体操指導で転倒予防をするなど、さまざまなお手伝いをしています。また、新たな試みとして巡回型整体「花ちゃん」を始めました。まだまだ種蒔きの時期ですが、いつか大きく育つことを願っています。重度障碍者支援やデイサービス、病院で「東洋式リンパ療法」を使ったケアを行うこともあります。ご家庭でもできるようにと、簡単なケア方法も指導しています。

家族とゆっくり過ごせるのは月に数日ですが、子どもには、働いて頑張っている姿を見せることも社会に貢献している姿を見せることもとても大事なことだと思っています。2013 年は花香グループ本店を長浜に移転予定です。新たな健康の発信場所として、皆様の健康管理をさせていただきたいと思っています。まだまだやりたい事がいっぱいで、ワクワクしています。今の夢は、80 歳まで現役でいること。手が震えても患者さんを診せていただきますよ(笑)（2012 年 12 月取材）

15.「カフェから地域へ広がる活動の輪」

【2010 年度女性のチャレンジ支援講座受講生】

井原　米子さん(コミュニティ・カフェ「MAMA・き・MAMA」店主)

【プロフィール】

滋賀県立男女共同参画センター主催の女性のチャレンジ支援講座受講後、自宅でコミュニティ・カフェを開業。手作り作家の作品販売やワークショップも行う。介護施設で働いた経験や地元との関わりから、新たな地域貢献を考えている。

【DATA】

〈資格〉デコクレイクラフト講師　〈お店〉営業日：月火金土　10:00～16:00

【連絡先】

甲賀市甲南町希望ヶ丘本町５丁目 2660-38

電話：0748-86-5966　携帯：090-2062-2157(2013 年１月現在)

○「MAMA・き・MAMA」にいらっしゃい

「こんにちは～」「いらっしゃい！」お友だちの家を訪問するような気軽さで来てもらって、ゆっくりできるカフェを作りたかったんです。ここは大きな団地の一角、外からはカフェがあるなんてほとんどわかりません。玄関右手を入ると小さなウッドデッキがあり、そこには手作りの看板が置いてあります。「コミュニテイカフェ　MAMA・き・MAMA」は、自宅１階を改造したお店です。

元々手作りが大好きです。料理も大好き。手作りはいろいろしていますが、とくにデコクレイクラフトは講師の資格を持っています。それをいかして、自宅２階で粘土教室を開いていました。そこで生徒さんにコーヒーを出しはじめたのが、カフェを開きたくなったそもそものきっかけです。

○カフェ、始動！

ちょうどその頃、滋賀県立男女共同参画センターで「女性のチャレンジ支援講座」が開講されることを知ります。「コミュニティカフェにチャレンジ！」と銘打った講座はわたしにぴったりで、すぐに申し込みました。 講師は、NPO 法人びぃめ～る企画室前代表の小川泰江さん。当時栗東でコミュニティカフェを運営されていました(現在びぃ

め～る企画は野洲に移転)。そこで学んだことで、開業のためのより具体的な計画を立てることができました。講座で出会った人たちとも意気投合し、その年の 12 月から３か月は、同じくセンターが開催する「チャレンジショップ」にも一緒に出店しました。カフェを開くために食器もそろえていましたので、それを持ち込んでの営業でした。実践さながらの３か月はたいへん勉強になりました。実はその当時、近所の介護施設に勤めていましたが、チャレンジショップを始めるときには退職。すぐにでもカフェを開きたいと準備を進めます。それで、2011 年６月にははやくもカフェをオープンしました。

子どもたちは巣立ち、パートナーと二人きりになった自宅の１階リビング、和室を改造。リビングの掃出し窓から出入りできるようにウッドデッキをつけました。実は、改装もほとんど自分ひとりで手がけました。とにかく何でも作る事が好き、そして予算内でとなるとこれはやるしかない、と。結局は水回りにお金がかかったくらいで、あとはほとんど手作りです。備品も、もともとあったものを塗り替えたりして再利用しています。

オープンのときには、団地中にちらしをまきました。最初の１か月はお友だちが来てくれて忙しく過ぎましたが、２か月目からはまったくお客様のない日も。１年くらいはランチの出し方や営業日なども試行錯誤でした。作家さんの商品の販売や、ワークショップなども行い、徐々にお客様も定着してきました。

○地域に開かれたカフェとして

希望ヶ丘本町は 2500 軒もある大きな団地です。最初は小さな子どもたちが多かったこの団地も年齢層が上がってきました。利用してくださる方々も、幅広いです。近所のおばあちゃまがきてくださったり。ランチのメニューにリクエストもいただくことがありますので、できる限りご要望にもお応えしています。以前介護施設に勤めていた関係もあって、施設の人たちが利用してくださることもあります。うれしいです。施設のみなさんをお呼びして、ケーキバイキングをカフェでしてみたこともあります。ゼリーやシフォンケーキなど食べやすさにも考慮したメニューにしました。この冬は寒いので、施設に出張してまた開く予定です。みなさんに、楽しんでもらえればいいなと思っています。食べることは楽しみのひとつです。食事をしながら話をすると、お互い交流しやすいと感じています。

この２年近くで、固定のお客さまも増えてきました。ひとりでやるには限界がありますが、自分の手や目の届く範囲で、丁寧に仕事をしていきたいと思っています。その一方で、パートナーと二人の生活になって、地域との関わりを強く感じるようになりました。二人とも人とのおつきあいが好きで、彼も地域のことをいろいろやってきました。自宅を改造してのカフェをはじめられたのも、パートナーの理解と協力があったからです。

出張カフェなど、わたしのやっていることが地域の役に立つ、そんなご相談もくるようになりました。ひとりでは難しいことも、地域のみなさんとコラボすればできるかなと考えると夢は広がります。今後は、カフェをベースに、地域貢献も含めた活動をしていきたいです。（2013 年１月取材）

16.「原点沖島から、モノづくりを発信中」

【2011 年度チャレンジショップ出店】

奥村　ひとみさん(「ドリームアイランド　汀(みず)の精」店主)

【プロフィール】

沖島生まれ。服飾専門学校と立体裁断パターン教室で学び洋装店で腕をみがく。体調不良や事故の体験から、故郷の恵まれた自然に開眼。麻やシルクなど天然素材を使ったモノづくりをはじめる。沖島の魅力を知ってもらおうと、野草料理教室なども開催。2014 年夏、「カフェ＋ギャラリー」オープン

【連絡先】

滋賀県近江八幡市沖島町 346-25

Tel：0748 - 47 - 8848　Fax：0748-37-3161

Mail：dreamiland-mizunosei@ezweb.ne.jp

HP：http://mizunosei.kagennotuki.com/(2014 年８月現在)

〇ふるさと沖島

みなさんは、「沖島」を訪れたことがありますか。近江八幡市の沖に浮かぶこの島は、対岸から見ると仏様の寝姿のように見えます。びわ湖フローティングスクール「うみのこ」でもおなじみの島です。この島はわたしの故郷。高校を卒業後、大阪の服飾専門学校 ESMOD JAPON で学び、東近江市内の洋装店に勤めましたが、今はこの地に戻り工房を開きました。やはりここが、わたしの原点だという思いを強くもったからです。工房の名前は「汀(みず)の精」。沖島小学校の近く、琵琶湖のみずぎわに工房はあります。

沖島に戻り工房を開くきっかけとなったのは、洋装店に勤めていたときに交通事故にあったことです。思わぬことから療養のため島に帰ったわたしは、それまで気がつかなかった自然の豊かさ、魅力を見つけました。服飾学校時代、ストレスや不摂生な食生活が重なり、皮膚炎をおこしたことがあります。かかった病院は自然療法を行うところで、食生活を見直すことでよくなっていく自分を実感しました。自然食を学ぶなど、生活そのものを見直すことができたのは、そんな経験があったからでした。事故後、あらためて健康のありがたさをかみしめ、自然とともに暮らす沖島のよさを痛感しています。

○麻に魅せられて

滋賀県は野草の育ちやすい環境にあるそうです。天然素材の、綿、麻、シルクも古くからの産地があります。中でも東近江は麻の産地として有名で、幅広く利用されていました。戦後大麻の規制から麻の原料は輸入品となりましたが、その丈夫さ、紫外線カット力、消臭力などすばらしい魅力があります。沖島に戻り、環境や人によいものを作りたいという思いを持ったわたしは、その魅力にひかれ、天然繊維、特に麻を使ったモノづくりをしようと決めたのです。

2010 年８月、工房をオープン。本格的にモノづくりをはじめました。麻は紫外線カットの効果が高いので、日傘やアームカバーなど生地の特徴をいかしてかたちにしていきます。農業をする方用に作った帽子は、「汗をかいてもすぐかわいて、ほんとにいいわ。」と喜んでいただきました。生地を染めるにも妥協しません。植物に詳しい染のプロである友人の力を借りて、植物はもちろん、炭で染めたり琵琶湖の藻で染めてみたりしています。多彩な色との出会いがあり驚くばかりです。小物から、オーダーメイドのドレスまで幅広く作っています。現在は、衣にとどまらず、食住に活動の幅を広げていこうと活動中です。沖島の野草を使ったお茶や塩を作ったり、野草の料理教室を開いたりしています。

○島の窓口になりたい

2010 年秋、G-NET（滋賀県男女共同参画センター）のイベントに友人の紹介で出店させていただくことがありました。そこからご縁ができ、翌年１月から３月まで、チャレンジショップにも出店しました。天然素材のよさを広く知ってもらえるきっかけとなり、また人とのつながりもでき大きな収穫でした。不定期ですが、展示会などを行っています。拠点はあくまでも沖島、です。

沖島に戻って、体調がいいんです。過疎が進んで、今は約 350 人が暮らすこの島は、水、空気、食べ物、すべて体が喜ぶ環境にあると感じています。ほんとうに小さい島で、車もありません。水鳥の羽音が聞こえるほど静かで、動植物が自然そのままの姿を見せてくれる様子は何ものにも代えがたいものです。こんな沖島の魅力を発信できるようなイベントができるといいなと考えています。島の窓口になりたいですね。みなさんぜひ

沖島に足を運んでください。その節は、工房にもお立ち寄りください。琵琶湖のほとりで、お待ちしています。（2013 年 1 月取材）

17.「野菜大好き！滋賀から元気の素を届けたい」

【2012 年度チャレンジ支援講座受講生】

藤岡　いづみさん(野菜ソムリエ)

【プロフィール】

子育てを通じて食の大切さを実感し「野菜ソムリエ」をはじめいくつもの資格を取得。生まれ育った野洲の地で自身が野菜を作りながら、マルシェへの出店、食育イベント、料理教室の開催など、その知識と腕をいかした活動を展開中。

【DATA】

資格：野菜ソムリエ、Jr.アスリートフードマイスター、Jr.食育マイスター、野菜ソムリエ協会認定料理教室講師(以上日本野菜ソムリエ協会)、ハーブコーディネーター(日本園芸協会)

【連絡先】

滋賀県野洲市在住

ブログ「三姉妹ママの日記」：http://izumi.shiga-saku.net/

Mail：veggie@wisteriahills.com　Tel：090-5058-7695　　(2014 年 1 月現在)

○野菜ソムリエってどんな人？

どこまでも続く田畑、母なる琵琶湖、遠くには四季を感じる比良山系。わたしは、この風景が大好きです。兼業農家に育ったわたしは、家族の作るおいしいお米や野菜で大きくなりました。今その風景に抱かれながら、わたし自身が野菜を作り、そのよさをたくさんの人に伝える仕事をしています。

「野菜ソムリエ」は野菜・果物の栄養や品質、食べ方などについての専門家です。あるモデルの方がその資格で注目を浴びたこともあって、2009 年 12 月、わたしもジュニア野菜マイスターの資格を取りました。そのうちに、座学だけでなく生産の現場も学びたいという気持ちが芽生えてきました。幸い、うちには場所も先生も道具もすべてそろっています。これを使わない手はない。それまでの仕事をやめ、2010 年春からは、おばあちゃんをお師匠さんに本格的に野菜を作りはじめました。畑に Veggi 農場と名付け、夫や時に子どもたちも交えて畑仕事をします。と同時に、「野菜ソムリエ」としての仕事も開始しました。

○こんなことをやっています！

なんでもチャレンジしてみたいわたしは、「マルシェ出店」「食育イベント」「料理教室」などなど、思いついたことは即実行してきました。まずは「滋賀がいいもん市」や「やすまる広場」などに、自分で作った野菜を持って出店しました。対面でその野菜のよさや食べ方の提案をすることによって、直接お客様に伝えたいものがあるからです。また「食育イベント」では、食習慣の育成時期である子どもさんに、野菜に興味をもってほしいと思っています。

わたし自身、３人の娘の子育て中です。イベント参加など週末の仕事には、できるだけ一緒に連れて行きます。そうするうち「野菜ソムリエ」にも興味を持ったようで、「キッズ野菜ソムリエ」にも任命されました。これは、子どもたちが楽しみながら野菜・果物にふれ、野菜・果物の魅力を友達に伝えていくお仕事です。キッズセミナーを受講すればいただけるものですが、「キッズ野菜ソムリエ任命書」が付与され、キッズ野菜ソムリエエプロン・チーフ、名刺もあり本格的ですよ。野菜を使った「ベジ・パフェ」作りは、子どもさん向けの人気イベント。かぼちゃやさつまいも、パプリカなどいろいろな野菜を使ってパフェを作ります。野菜への新しい視点を提示しつつ、親子で楽しんでもらおうというものです。開催するときには、必ず娘たちの意見やアドバイスを参考にします。かわいいアシスタントたち、といったところでしょうか。

アシスタントといえば、夫の存在を忘れるわけにはいきません。食に対する興味や理解度は、わたしより深いのではと思うくらい。あるとき、野菜ソムリエの講座の余談で聞いた「料理教室で婚活」を家で話したところ、「面白そう、やろう！」と。現在 10 回目を数える婚活料理教室「コンパ　in the kitchen」は、2012 年３月こうして生まれました。わたしが料理の先生、夫は司会進行と盛り上げ役です。日頃無口な人も、共同作業となると話さざるをえません。みなさん楽しんでくださっているようで、カップルも誕生しました。二人三脚、今年もがんばります。どの活動でも共通しているのは、自分で作った野菜を使いたいということ。生産者としての顔もずっと持っていたいです。

○次のステップへ

また今年は、新たな活動をスタートしました。協会からの要請もあって、滋賀で「Jr.野菜ソムリエ」の資格取得できる地域校を開校したのです。「ファーマーズマーケットおうみんち(守山市)」で毎月開講するので、滋賀の方でも大変取得しやすくなりました。

農産物直売所ならではのよさを活かした講座にしていきたいと考えています。また、新しい分野「Jr.アスリートフードマイスター」としても始動します。

いろいろなことにチャレンジしていく中で役に立ったのは、2012年に受講した滋賀県立男女共同参画センター開催の「チャレンジ支援講座」。黄瀬紀美子先生((有)アイ・キャリアサポート代表)の下、自己分析からビジネスプラン作成まで、具体的な学びの場となりました。かけがえのない仲間たちとも出会うことができ、異業種コラボのイベントを開くなど、その後も交流が続いています。今できることを精いっぱいやる、それがまた次へつながっていく、そう考えていろいろなことに取り組んできました。その中で出会ったたくさんの人とのつながりを大切にしながら、また今年も、走り続けます！(2014年1月取材)

18.【2012 年度チャレンジ支援講座受講生】

山崎　泉さん(Root×coworking space　マネージャー)

【プロフィール】

「女性のチャレンジ支援講座」を受講し、専業主婦からの起業。県内でもめずらしい coworking(ともに、仕事をする場所)スペースを守山市に開業。守山市在住。

【DATA】

幼稚園教諭免許、 大阪大学社会人履修プログラム受講中(ワークショップデザイナー)

【連絡先】

事務所：Root×coworking space(ルートコワーキングスペース)

滋賀県守山市守山２丁目 15 番 25 夢コート２F

TEL/FAX 077-584-4741　Mail：info@root-coworking.jellybean.jp

HP：http://root-coworking.jellybean.jp/

〇わたし、会社をはじめました

「Coworking space(コワーキングスペース)」ってきいたことがありますか。スペースは共有しながら(co)、それぞれが独立して自分の仕事をする広い事務所(working space)のことです。これまでにも、フリーで働く人のためのレンタルスペースはありましたが、多くは小さく区切られたスペースでした。「Root×coworking space(ルートコワーキングスペース)」はちがいます。働く場所を共有し、人と出会い、時にお互い刺激しあう新しい働き方を提供できる、そんな場所です。滋賀県にはそれまでみかけなかったその場所を、2013 年８月、守山にオープンしました。さまざまな働き方を模索する人、場所を必要とする人に使ってほしいですね。キッズコーナーもありますよ。

わたしは、それまで専業主婦でした。現在も３人の子育て中です。そんな中で一歩を踏み出すきっかけとなったのは、滋賀県立男女共同参画センター主催「チャレンジ支援講座」を受講したことです。2012 年夏、「私が私としてどう生きるか」自問自答していたその手がかりをさがすスタートになりました。

○こんなことをやっています！

講師は黄瀬先生((有)アイ・キャリアサポート代表)。講座の目的は「単に知識を身につけるだけでなく、職業人としての自覚を高め、・・・これからの自分の行動計画を描くことにより、目標に向かって積極的に行動できる力を養成」するとあります。見ること、聞くことすべてが刺激になり、経験に裏付けされた先生の言葉が胸にひびきました同期で講座を受けたメンバーの多くは、自分の具体的なビジョンを持ち、すでにアロマサロンを開いたり、講師をしたり、起業している人もありました。みなさん多彩で、行動力もあり、魅力的な人たち。講座終了時点では、いったい自分に何があるのか、これからどうしていくのか、まだ漠然したところを残していました。

その後もメンバー同士の情報交換を続け、さまざま語りあいました。そんな中で芽生えた疑問「こんなにキラキラと夢を語り、行動を起こしている人たちがなぜもっと発展しないのか」。そこで気がついたのは、「場所がない」ということでした。例えばヨガの講座をするためにはスタジオが必要。なければ、公民館などの場所を毎月確保しなければならない。だったら、わたしがその場所を提供すればいいのでは、と考えたのです。ちょうどその頃「Coworking space」の情報も耳にしていました。

そこからの行動は早かったですね。いろいろな人が情報を持ってきてくれて、つながりを持つことができました。滋賀県産業支援プラザに相談、使える補助制度があることを知り利用しました。場所も、オーナーさんとの出会いから決まりました。起業にあたっては、夫が背中を押してくれたのも大きかったです。定款を作るなど、細かいこともサポートしてくれました。今も、事務所に来て手伝ってくれたりします。わたしたちがどうありたいのか、きちんと話をするよい機会でもあったと思います。

○まずはスタート地点に立つことから

わたしは、場所を提供しただけです。ここに来ている人たちに注目してほしいですね。いまはどこにいても仕事ができる時代。地方かどうかは関係ありません。県内にとどまらず、どんどん飛び出していってほしいです。そして、昨年に引き続き企画していることがあります。滋賀県代表女性社長(アンバサダー)として「mini J300 in 滋賀」

を、ここで開催することです。女性起業家を発掘し、企業とのつながりを橋渡しする「J300 in Tokyo」の地域版。滋賀県内だけでなく全国へつながるきっかけになればうれしいです。

女性の起業はある意味、スタートしやすいかもしれません。女性だから、子育て中だから、できないという思い込みを捨ててみませんか。自分たちが挑戦し続ければ、今の世の中、社会の流れを かえていけるかもしれない。開業してから、いろいろな人が見に来られました。開いてみてわかったこともあります。現在入居しているメンバーは、お金を出して、借りてまで仕事をする覚悟がある人だということです。リスクを取る覚悟があるかということですね。また、入居しなくても１日千円で利用することもできます。まずは外に出てみる、そんなきっかけにしていただければ。（2014 年２月）

19.「花をあなたの暮らしのそばに」

【2012 年度チャレンジ支援講座受講生】

増山　いづみさん(フラワーライフスタイリスト　「花のある暮らしのアトリエ　Rose＋」主宰)

【プロフィール】

花を身近に感じていただきたいとの思いから、アートフラワーで暮らしに寄り添う生活雑貨などを制作・販売。手作り市への出店、ワークショップ、教室なども開催。近江八幡市在住。

【連絡先】

アトリエ：滋賀県近江八幡市多賀町 743　お食事処　和でん２F

営業時間：11:00～16:00(不定休)

TEL：090-9989-8700　E-mail：info@rose-plus.com　HP：http://www.rose-plus.com

FB：http://www.facebook.com/roseplus.2014　(2014 年８月現在)

○わたしのアトリエへようこそ

近江八幡市の日牟礼神社の境内近く、古民家を改装して作ったお食事処があります。その２階にある「アトリエ　Rose+」。2014 年８月、わたしは、アートフラワーを通じて、もっと気軽にもっと身近に花を楽しんでもらえたらと、このアトリエを開きました。

今でこそ花に携わるお仕事をしているわたしですが、以前は趣味と言えばバスケットボール。花とはまったく無縁の生活を送っていました。それがたまたま、結婚する妹にブーケをプレゼントしたいとプリザーブドフラワーの教室に通ったことから、その楽しさにはまってしまいました。最初はプリザーブドフラワーを学び、そして生花の仕事もしました。花の素晴らしさを実感するにつけ、もっと気軽に手軽に楽しめないかと思うようになりました。そこで出会ったのがアートフラワーでした。

そんな頃、滋賀県立男女共同参画センターのチャレンジ支援講座に出会いました。友だちが受講すると聞いて、私も軽い気持ちで応募。花を一生の仕事にできたらと漠然と考えてはいましたが、具体的なことは何にも考えていませんでした。講座が始まり、他の受講生の意欲の高さにびっくり。最初のうち、ついていけるか不安でしたが、慣れるにつれ、受講生仲間との出会いが何より得難いものとなりました。講座終了と同時に、期間限定のチャレンジショップにも出店。お客様の「ここが終わったら、あなたの作品はどこで買えるの？」という言葉に、これは自分の店を持つしかないと決心しました。

くじけそうになるたび背中を押してくれたのは、受講生仲間の頑張っている姿と、自分がこれまでやってきたこの積み重ねによる「なんとかなる！」という気持ちでした。長年婦人服の販売に携わっていた経験があったこと、何の経験もなく飛び込んだ花屋での仕事も、アートフラワーの勉強費用を稼ぐためについた福祉の仕事も、どれをとっても今の仕事の助けになっています。

〇花と暮らしをつなげたい

開店してまだ半年あまりですが、おかげさまでお客様がお客様を呼んでくださっています。 この頃は、お店に置いてある作品もいいけれど、やはり自分で好きなものを作ってみたいと、教室に来てくださるお客様が増えてきました。「今は種をまく時期」と外へも精力的に出ています。手作り市への出店、子ども会やママサークル、学童保育などへの出張ワークショップ。まずは、わたしを知ってもらって、アトリエに来てもらうことだと思っています。

アトリエに来られたお客様が、わたしの自宅は花にあふれているんでしょうねとおっしゃるのですが、意外と殺風景なんですよ。作品が出来上がると、ともかくお客様にみてもらいたい！と思ってしまって、手元には残りませんから。自分の作品へのこだわりは、やはりお客様に向かい合ってこそ伝えられると感じています。そして、「いろいろなシーンでどんどん使ってくださいね」とお話します。たとえばコサージュなら、洋服だけでなく、帽子、かばんなどにもつけてみてはどうでしょう。窓辺に飾ってみるのもいいですよ。

「また来るね」「お友だちにすすめるね」といってくださるお客様のお声が何よりの支えです。始めるのは意外と簡単でも、続けていくことの大変さを実感する毎日です。だからこそ３年後には、一緒に働く仲間を増やし、もっと広いところでお客様にゆっくり手作りを楽しんでいただけるお店にしたい。さらなる目標に向かって日々奮闘中です。（2015 年３月）

20.「伊吹山の麓の古民家で、手紙のお店を開く」

岡田　友美さん(「佐々木文具店」店主)

【プロフィール】

神奈川県出身。大学卒業後、滋賀の文具メーカーに就職。結婚後退職、2014 年「佐々木文具店」を開店

【DATA】

設立： 2014 年 10 月

【事業内容】

便箋、封筒等の文具を販売する店舗経営。店内の一角にお茶と焼き菓子を出す喫茶コーナーを併設

【連絡先】

〒521-0314　米原市春照 469 番地

Tel/Fax：080-1506-1580　Mail：sasakibungu10@yahoo.co.jp

HP：http://sasakibungu10.wix.com/sasabun

○手紙のお店を開きたい

文具店を開きたいという強い思いをずっと持ち続けていたというわけではありません。「できることなら大好きな便箋と封筒のお店を開きたいなぁ」というふんわりとした思いは大学生の頃から持っていましたが、当時住んでいた都会で開店するなんてとても現実的ではないことでした。

想いを抱き続けながら大学を卒業、当時つきあっていた彼(シンガーソングライターの岡田健太郎さん)の故郷である滋賀県の文具メーカーに就職して、お店が開けるような建物はないかと古い物件探しを始め、ようやく出会えたのがこの場所でした。人通りも少ない片田舎で、決して“ビジネス”に最適な場所とは言えないけれど、元々数十年前まで理髪店さんだったという古い店舗の味わい深さに感動！ここでの開店を決めました。その後彼と結婚し、彼と一緒にこつこつと店舗を改装、オープンに向けて退職した直後に妊娠がわかりましたが、出産・育児と同時進行で準備して、昨年秋、ようやく開店することができました。

開店時にかかった費用のほとんどが、店舗の改装費でした。とはいっても、やるからにはできる限り自分でやる、また、木材を使うなどして将来改装するときに捨てにくいものは使わないように気を遣いました。こうしてかかった費用は百数十万円。理髪店当

時の面影を残した味わい深いお店が完成しました。

販売している商品は、以前にいたメーカーのもののほか、自分のお気に入りの製品の製造元に問い合わせて卸しているものもあります。また、自分で作った消しゴムハンコや、近隣のイラストレーターさんの描いた紙製品なども販売しています。

〇子育てしながらの店主業

２歳の娘の子育てもあるので、お店を開いているのは日曜と月曜の週２日だけ。これが今の私にはちょうどいいペースなのです。気候のよい時季にはマルシェなど地域のイベントに出店することも多いですが、できるだけ土曜などに出るようにして、この２日間は「とにかくお店のことをする！」と気持ちを切り替えてやっています。それ以外の日は、お店で販売する手作りの品を作ったりして過ごすことも多いのですが、やはり子育てがメイン。もしもお店を開かなかったら子育て一辺倒の日常になっていたと思います。お店を開くことで普段と違う世界や世代の人と接することができるようになりました。友達もここなら来やすいと、気楽に来てくれて会い易くなったことも利点です。

〇今後の見通し

現在の経営は、「赤字が出ない程度」でしょうか。今後、子どもの手が離れるにつれてお店の販売内容や規模を大きくしていくかもしれません。今は商品販売のほかに、店の一角に喫茶コーナーを設けて焼き菓子を提供しています。将来的には、奥の空きスペースを改装して広げ、お昼ごはんも出したいなあと画策中です。しかし基本は無理のない程度に、細く長く続けていければと思っています。

経営の何たるかを学んできたというわけではないし、これといった強い信念があるというのでもない。でも、お店を開いたことで多くの知り合いや繋がりができました。私のようにお店を出したいと考えている方にアドバイスするとすれば、機を逃さず、できるとき・やろうと思ったときに始めてみること。収益は二の次でも、無理のない程度に好きなことをやることで新しい世界がきっと見つかるはずですよ。（2015 年 11 月）

21.「薬膳で健康をつむぎたい」

提中(だいなか)　知子さん（「薬膳さろんつむぎ」主宰）

【プロフィール】

高島市生まれ・同在住。短大卒業後公務員に。やがて結婚し双子を授かる。2013 年頃から薬膳に関するサロンを開設、食生活の大切さを伝えている。

【DATA】

創業： 2012 年 10 月

【事業内容】

リクエストに応じて、身体の症状から体質にあった食材をアドバイスする体質診断、お茶を楽しみ効能を知る教室、６回連続の薬膳レッスン等の開催。

【連絡先】

〒520-1231　高島市安曇川町川島 630

Tel/Fax：0740-34-1620　Mail：sa.yakuzen-tsumugi@gaia.eonet.ne.jp

HP：http://ameblo.jp/s-ta-tsumugieonetjp/

○薬より食事が大事

学校を出たあと公務員として働いていましたが体調を崩して 30 歳の時に退職。漢方薬を飲んでいたとき「薬より食事でしょ」と言われたのを機に薬膳に興味を持ち、本を買って自分なりに食材に気を使うようになったのが、この道を目指したきっかけです。その後も自分の不妊、ようやく授かった子のアトピー、義母のガン、義父の介護などを経験、食生活でセルフケアすることの大切さをますます実感することとなり、６年前、本格的に薬膳を習おうと大阪の学校に通い始めました。

薬膳というのは、中医学（中国医学）の「医食同源」の考え方に基づく料理のことです。身体に出てきた症状を取り除くため、オーダーメイド的にどの食材を摂るのがいいのかを考え、料理やお茶として食します。薬膳の効果からか子どものアトピーは出なくなりました。また私自身も、「これからこんな不調が起こりそう」ということが事前にわかるようになり、それに合った食材を摂りいれることで、体調よく過ごせています。たとえば以前は何か腹の立つことがあると口内炎ができていたのですが、そういうときは予め薄荷(はっか)を摂りいれます、すると口内炎がおさまった気がします。

○サロンを開設

体調を改善できた私は、多くの人に薬膳のことを知ってもらいたいと思うようになり、起業を考えます。３年前、「漢方養生指導士」と「漢方スタイリスト」の資格を取得後、今津にある「働く女性の家」で開催された『手仕事マルシェ』というイベントに参加させていただいたのが、その第一歩となりました。その後自宅の空いたスペースを自宅サロンとして使うようになります。また、出張のサロンのご依頼も受けるようになりましたし、昨年からは今津の公民館で料理教室もやらせていただくなど、徐々に仕事が増えてきています。

現在、サロンのメニューは、体質診断、お茶の教室、薬膳レッスンの３種類です。体質診断は身体の症状とチェックシートから個々の体質にあった食材をアドバイスするというもの、お茶の教室（「お茶を味わい、違いを知って楽しむ教室」）は、お茶を味わいながらそれぞれの効能を知るというもの、そして薬膳レッスンは、薬膳に関する初歩的なお話を聞いていただいたり簡単な調理をしていただく６回連続講座です。

○本格的料理教室もやりたい

現在持っている資格は、まだまだ初歩的な資格です。実は現在、数か月後に薬膳の調理師資格の取得試験を控え、大阪の学校に通って勉強中です。費用はかかりますが、私もサロンの受講者さんたちからお金をいただいている身です。それに資格が取れたら、自分の自信に繋がり、一生の仕事として続けられますからね。合格を機に、現在主に湖西で開催しているサロンを県内全域に拡げ、本格的な料理教室もやっていきたいと考えています。

今の時代は、体調を崩すと即病院！ですが、中医学に基づく漢方や身近な食材で重症化しなくて済む可能性があるのです。身体に必要なものを補っていくのが漢方、いらないものを体外に出させるのが薬膳です。この中医学と現代医学を併せればよりよい効果が出てくるはず。私はそのことをできるだけ多くの人に知っていただくため、よりよい働き手になっていきたいです。（2016 年１月）

22.「パティシエの資格を生かして」

北野　麻紀子さん（アイシングクッキーとお菓子のおうちサロン「Salon de Petit Four」主宰）

【プロフィール】

大津市生れ・高島市在住。製菓の専門学校を卒業後京都の洋菓子店で働く。結婚出産を経て、昨年夏からアイシングクッキーのサロンを開設。２児の母。

【DATA】

創業：2015 年７月

【事業内容】

自宅でアイシングクッキーのサロンを開設。初めての人向け体験コース、３回でクッキーを作れる様になるコース、月替わりでデザインを楽しむ継続コースの３コース。

※アイシングクッキーとは、素焼きのクッキーに砂糖と卵白を使って作る「ロイヤルアイシング」と言われるクリームなどでデコレーションしたクッキー

【連絡先】

高島市新旭町熊野本１丁目 14－20

Tel：0740-20-1091　Mail：maccororin@gmail.com

HP：http://ameblo.jp/maccororin0819/

○お菓子作りを仕事にした

高校卒業後、専門学校で製菓を学び、パティシエとして京都の洋菓子店で働いていました。一時、別の仕事に就いたこともありましたが、結婚、出産を経て、「やっぱりお菓子を作りたい」と思うようになりました。“お菓子作家”として、「キャラデコ」や「ドールケーキ」と呼ばれるホールケーキのオーダーメイド販売をしていたこともあります

実はその頃、自宅にお菓子作りの工房を建てたいという希望もあったのですが、建築の規定にひっかかりできませんでした。かわりに市内のレンタル工房を借りたこともありました。しかし、自分の思い通りに使える施設ではありませんでした。

そんな折「手作り市に出店してみては？」とのお声掛けをいただき、アイシングクッキーを出したところ思いのほか反響がありました。次第に「安定した収入のためにはアイシングクッキーの教室を開こう」と思うようになり、本格的に学ぶため、水口の教室に通い始めたのです。

○サロンを開設

晴れて「アイシングクッキー講師」として仕事を始めたのは 2014 年のこと。最初は出かけて行ってワークショップなどを行う体験レッスンが主でしたが、昨年夏から自宅サロンも始めています。とはいえ、最初の月は友達が２人、次の月はさらにお友達が２人…と思う様に生徒さんが増えてくれませんでした。秋からはイベントレッスンが多忙となり、11 月から集客をがんばった結果、12 月には 50 名もの方にレッスンを受けていただけました。２月現在、さらに増えて 60 名ほどに。自宅には 12 名の生徒さんに来ていただいています。遠く大津や守山から通って下さる方もいらっしゃいます。

ようやく軌道に乗った感じですが、私は元々パティシエなので、他の教室と差別化を図ろうといろいろ戦略を練った結果です。例えばレッスンは当初、初めて体験する人向け「はじめてレッスン」と、月替わりのデザインを楽しむ「マンスリーレッスン」を開いていましたが、いずれも生徒さんはアイシングをするだけ。「クッキーを焼くところから学びたい」という要望に応えて「ベーシックレッスン」を新たに始めました。また、うちのサロンでは子連れでのレッスン参加を歓迎しています。これは、自分が実際に他の教室に行こうとしたときに、「子連れ不可」で母に預けるなど大変だった経験によるものです。

○起業の実際

講師になるべく私が学んだのは、女性の起業を支援して、洋菓子やクラフトなどのサロン講師を養成する協会の認定教室でした。自宅サロンを始めるにあたりかかった費用は、ほぼこの教室の受講料のみ。あとは細々とした備品を揃えた程度です。

講師をやるようになって大変なことは、週末に出張レッスンの依頼があること。子どもがまだ小さく、置いて出かけるのは忍びないので、週末土曜の出張は今のところ月 1 回だけにしています。一方自宅でのレッスンは、生徒さんと私のスケジュールを調整したうえで時間を決めているので、ある程度融通が利きます。まずは家族が私の仕事を快く認めてくれることが一番、そのうえで私も気持ちよく仕事をしていきたいです。

今後はやはり、集客に力を入れていきたいと考えています。どうしたらいいか、同じようにサロンを経営している先輩のアドバイスをもらうことも。いずれは、講師養成コースも開きたいですね。サロンを開いてまだ半年、えらそうなことは言えませんが、私の経験を伝えていけたらなと思っています。（2016 年２月）

地域で活躍したい！

１．「イベントで絵本作家の話に感銘。自宅に絵本専門店をオープンし、地域活動を開始。」

平松　成美さん（NPO 法人「絵本による街づくりの会」理事長）

【プロフィール】

地元で開催されたイベントでの出会いをきっかけに、2001 年、自宅で絵本専門店をオープン。おはなしボランティア活動の仲間で 2004 年 NPO 法人を設立し、絵本を通じて社会を良い方向に変えていければと幅広く活動中。

【DATA】

■発足：2004 年 10 月　■スタッフ：21 名

【事業内容】

会報「絵本の時間」発行、絵本を通じた地域交流活動（読書会、絵本原画展、絵本作家講演会、おはなしのデリバリー等）

【連絡先】

〒520-1835　高島市マキノ町石庭 229-１

Tel：0740-27-8156　Fax：0740-27-8157　Mail：ehoncity@ex.biwa.ne.jp

○偶然が重なって、自宅で絵本専門店をオープン

もともと絵本は好きだったけれど、子どもが小学生になり、じっくり見る機会も少なくなっていたんですが、2001 年 10 月に新旭町で開催されたイベント、「里山ジャンボリー今森光彦 VS 今江祥智・自然の絵本のまちづくり」が活動のきっかけでした。そこで再び絵本の魅力に出会ったんです。その時、今江さんのお話を聞いて感動し、いてもたってもいられず、すぐに手紙を書きました。すると、お返事が届いたんです。返事をいただけたことにも驚きましたが、そこには、絵本専門店を開きたいという私の夢の実現に向けたアドバイスや具体的な方法が書かれていました。ここまで親身になっていただいたからには、実現しなければと背中を押され、その年の 12 月に自宅で絵本専門店をオープンしました。

私は以前、大津に住んでいたのですが、ちょうどその頃、ウイークエンドハウスとし

て使っていたマキノ町の自宅に生活の拠点を移して間もないころで、家族７人が住むために自宅の改装に取り掛かっているところでした。そこで、急遽、店舗部分をつくるよう予定を変更しました。いろんな偶然が重なって、ラッキーでしたね。

○「おはなしの種まき隊」を中心にNPO法人を設立

絵本を販売するだけではなく、絵本を読む楽しさや、お話を聞く楽しさを伝えたいと思っていたので、お店で「おはなし会」を開催しました。そこから自然発生的に誕生したおはなしボランティアグループ「赤いエプロン」（おはなしの種まき隊）のメンバーが中心となって、2004年10月、NPO法人を設立しました。

その頃、少年の凶悪犯罪や、親による子どもへの虐待などが社会問題となり、心痛むニュースがあふれていました。そんな社会を傍観者としてただ嘆き悲しむのではなく、「一人ひとりにできることを行動に移すことが、社会を少しずつ良い方向に変える力となる」と信じて、「私たちにできること」、すなわち、「絵本と過ごす幸せな時間を親子で共有することの素晴らしさを実感できる場を提供し、伝えていくこと」を実現するために、活動を始めました。

○絵本は子どもが最初に出会う芸術。感動を伝えたい

設立時のメンバーは11名でしたが、2005年12月末には、101名（スタッフ21名、賛助会員80名）の会員数になりました。絵本の原画展や絵本作家の講演会、おはなしのデリバリー活動など、設立から１年を経て、やりたいと思ったことを一通り実施できました。今後は、参加した人に「来てよかった」と満足してもらえる事業を、一つずつ丁寧に実施していきたいと思っています。

県や市の教育委員会の後援を受けることで、事業のＰＲが円滑にでき、原画展の開催時には、場所や備品面で全面的に協力もしていただき、ありがたいと思っています。

将来は、活動の拠点として「絵本美術館」を開館したいですね。いつでも行ける場所をつくり、本物に出会う感動を伝えていきたいんです。絵本は子どもが最初に出会う芸術です。そして、大人も元気になり、気持ちが穏やかになる不思議な力がありますから。

○一人ではできないことも、仲間がいると実現できる

スタッフ全員が素人ながらも、経験や知恵を持ち寄ることで一つひとつの事業をやり遂げることができました。個人では実現できないことも、思いを共有できる仲間がいるからこそ成し得ることができると実感しています。

事業として成り立たせるには、参加費等の料金設定や活動場所の確保、活動を地元の人に認めてもらうことなど、いろんな課題がありますが、多くの人に共感してもらい、参加してもらえるよう運営していきたいと思います。

思いを形にするためには、躊躇せず、一歩を踏み出すことです。行動しなくては結果は何も生まれません。まっすぐな思いで一歩を踏み出せば、不思議といろんな出会いがあり、思いを共有できる仲間が増えていきます。一つひとつの出会いを大切にしながら、人の意見に素直に耳を傾け、あせらず、地道に夢をかなえていきたいですね。（2006 年冬取材）

２．「子どもから高齢者まで、だれもが「生きていてよかった」と思えるまちづくりに奔走。」

福井　久美子さん（NPO 法人「NPO ぽぽハウス」施設長）

【プロフィール】

介護保険制度導入時に制度について勉強してきた仲間と任意団体「NPO ぽぽハウス」を立ち上げ、居宅支援事業を開始。その一方で、子育て支援部を立ち上げ、「親子教室ぽぽクラブ」を開催。2006 年度より彦根市北老人福祉センター「ハピネスひこね」館長に就任。

【DATA】

■発足：1999 年　■スタッフ：45 名

【事業内容】

高齢者、障害者、子どもと保護者の支援事業（ヘルパーによる居宅サービス、居宅支援事業、親子教室、家庭教育推進事業、異世代交流・地域交流事業　他）。2007 年度より「ぽぽハウス」施設長就任。

【連絡先】

〒522-0043　彦根市小泉町 300-９

Tel：0749-27-9777　Fax：0749-27-9888　Mail：popohouse@nifty.com

○介護から子育て事業、地域交流事業に発展

活動のきっかけは、2000 年の介護保険制度導入に先駆けて、制度について勉強していた仲間との出会いでした。その時に集まった約 20 人が、「生きがいと幸せを実感できる環境を、自分たちの手でつくっていこう！」と 1999 年に非営利の任意団体を立ち上げることを決意したんです。キャッチフレーズは、「誰もが生きていてよかったと思える街をつくりたい」。任意団体では滋賀県下初で基準該当事業所として登録し、ヘルパーによる居宅サービス、居宅支援事業を始めました。

その一方で、幼児に関わる仕事をしていた私と、もう一人のメンバーで、子育て支援部を立ち上げ、「親子教室ぽぽクラブ」を始めました。これは、就園前の親子を対象に、その関係性に着目し、体験活動の場、遊びの場を提供するものです。また、市の教育委員会より家庭教育推進事業を受託し、「すくすく教室」「のびのび教室」を開催、あわせて、2004 年４月からは、「あったかファミリーステーション　ぽぽハウス」をスタートさせ、異世代交流・地域交流のためのコーディネーターを務めました。

○新たに力を発揮できる場を創出

2006 年度からは、彦根市北老人福祉センター「ハピネスひこね」の指定管理者として NPO ぽぽハウスが選定されたので、そこで館長を務めます。これまでの活動では、年齢、性別、障害の有無に関係なく、人との交流やいきいきとした活動ができる場所、心温まる場所の提供をしてきたつもりでした。でも、学ぶところの多い高齢者の知恵や力のある人たちが活躍する場、その人たちの能力を地域に還元できる場所の提供には不十分ではないかと感じていました。また、スキルアップを支援する活動もできればと思い、指定管理者を希望しました。

このセンターでは、「ふれあいスペース」が設けられていて、子どもから高齢者まで、誰でも自由に出入りできる世代間交流の場があります。こうした既存の取り組みの良さを活かしながら、高齢者の皆さんがいきいきと輝ける新たな事業を展開していきたいと思っています。

○活動を評価されることが、何よりうれしい

ぽぽハウスは、団体として、それぞれの会員が得意分野を発揮し、まさに文字通り、子どもから高齢者までの人々を対象にした活動を行っています。過度な支援・応援ではなく、自立に向けて手を差し伸べることを心がけていますが、それが理解されず、提供するサービスが悪いと思われることもあり、とても残念に思います。

私たちの活動や提供するサービスに関わり、参加したり、利用したりしてくださる方たちに、こちらの思いが届いたときは、「やったー！」と思いますね。また、活動を通じて、たくさんの賛同者や仲間を得られたことには感謝しています。

事業としてさまざまな活動に取り組むことで、各スタッフが力を発揮できる就労の場も増えます。サービスを利用していた側だったのが、提供する側になり、資格取得を目指してがんばっているスタッフも多いんですよ。

○たんぽぽのように種を飛ばして、仲間を広げたい

2001 年に NPO 法人格を取得し、それまでも約 7 年間活動を続けてきましたが、2003 年より、「淡海ネットワークセンター」や「おうみ NPO 活動基金」の委員の方々から、NPO 団体としての方向性を助言してもらい、見守っていただいています。

忙しい日々の中で、立ち止まり、将来を展望する余裕のないことが悩みですが、地域

の皆さんの期待に応えられるよう、事業の成果をあげていきたいですね。

NPO 法人での活動は、方向転換や軌道修正がしやすいところが利点です。どのようなことでも気がついたら、「自分たちでできないか」、「同じことを感じたり、思ったりする人が周りにいないか」と考え、強い願いを持ってアピールし、仲間を募ることが大事だと思います。

ぽぽハウスの「ぽぽ」は、たんぽぽのように種を飛ばして仲間を広げていこう、一歩一歩前進していこうという思いが込められているんです。自分たちの蒔いた種が、まちに広がることが、みんなの願いです。(2006 年冬取材)

３．「子育てサークルをネットワーク化し、育児環境の改善と社会全体の意識改革に貢献。」

鹿田　由香さん（滋賀子育てネットワーク 代表）

【プロフィール】

育児期間に味わったつらさをバネに、子育て環境をなんとか変えていきたいと育児サークルを立ち上げる。その一方で、県内の子育てグループが連携できる広域ネットワーク組織を発足。

【DATA】

■発足：1997 年３月　■スタッフ：13 名

【事業内容】

子育て中の親の声を社会に伝え、子育ての社会化をアピールする県域のネットワークを形成。親向けのフォーラムや学習会等の開催交流、支援者同士の交流と学習の場づくり等を実施。

【連絡先】

〒528-0031　滋賀県甲賀市水口町本町１－５-31

Mail：k-netstaff@yahoogroups.jp

○活動の原点は、子育て中の孤独感と不自由さ

きっかけは、第一子の出産でした。男女雇用機会均等法が施行され、女性が結婚を理由に退職する時代ではなくなっていたんですが、出産、子育てとなると仕事を続けることは無理だと思い、会社を辞めました。ところが、出産後は子どもの世話で自由に外出できない、新聞も好きなテレビも見られないという生活で、近所に友達も預ける人もなく、鳥かごの中に閉じ込められたような気分で毎日を過ごしていました。

ちょうどインターネットが普及し始めた頃で、もともと情報発信に興味があったし、仕事でも企画や文章を書いたりしていたので、友達づくりをかねて自分のホームページを立ち上げたんです。その中で同じ境遇の仲間と知り合い、メールのやりとりをするようになりました。悩みを相談し合ったりすることで、育児不安も解消され、心強かったですね。

○インターネットや情報誌を使って子育て支援を開始

インターネットを使って社会参加をしたい、何か子育て支援をしたい、お母さんを応援し、また自分達も情報交換できるものが欲しいと、やりたいことが具体的に見えてきたことから、仲間と一緒に活動を始めました。いろんなキャリアをもった人が集まるこ

とで、可能性も広がります。「滋賀に情報誌がないから、お母さんが一歩を踏み出せる情報誌を作ろう」と、自分たちで企画・編集・制作をしたり、ホームページを作成したり。自分の名刺を持って取材に出かけたりすると、「〇〇ちゃんのお母さん」という、今までの立場とは違う自分がいて、みんな生き返ったような感じでしたね。やりがいが見つかり、人が人を呼んで大きな輪になりました。

〇少子化問題と育児サークルの急増で、ネットワーク化が実現

少子化が社会問題になった頃、滋賀県では子育てサークルがブームのように増え始めました。そんな中で、96 年に県内の育児サークルのリーダーが、情報交換や交流のために集まる機会があり、これを機に、「滋賀子育てネットワーク」が発足しました。

それまでは、「子育て支援」といえば、働く人のための保育園での支援のみ。専業主婦は恵まれていて、何不自由なく子どもと一緒にいるんだろうという社会の認識しかなく、子育て支援という言葉さえもなかった時代でした。しかし、少子化問題を機に、滋賀県でも「淡海エンゼルプラン」や「次世代育児行動計画」ができ、助成を受けて活動ができるようになったことは大きな前進でしたね。

最初は、子育て中の親の支援が目的でしたが、行政や自治体の支援も進んできたので、私たちはそういった支援者の支援、つまり、子育て中の親の声を社会に伝えるという役割を担うようになってきました。ネットワーク組織を構成するのは、県内の育児サークルや子育て支援団体を中心に、母親や保育士、自治体の子育てセンターの職員の人たちなので、情報の共有や意見交換をすることで、よりよい子育て環境づくりができると考えたからです。

〇受け身でいても何も変わらない。一歩を踏み出せば道はつながっていく

何よりもまず子育てのしんどさをわかってもらいたい。悩み苦しみながら奮闘している母親の声を社会に届けたいんです。子育ての現状や支援の必要性は、ホームページや会報、フォーラムの開催などで、広く伝えられるようになったと思います。でも、一部の当事者だけの問題になりがちで、子育て支援の意識が広がりにくいのも実感しています。子どもと接する機会の少ない学生や独身の人にも、理解してもらえる活動ができ

ればと思っています。

個人的には、究極の子育て支援は、「働き方の多様化」だと思っています。子どもが学校から帰ったときに母親が家にいて、「おかえりなさい」と言える生活や、家族みんなで食卓を囲める生活など、個々にそれぞれが大切にしたいことを選べる働き方が可能な社会が理想です。

私の場合は、「これならできるから」と、自分のできる範囲で、やれることをやっていたら、いつのまにかこういうふうになっていたという感じです。

今のお母さんたちは、キャリアもパワーもあります。受け身でいても何も変わらないので、「どうせ私なんか」ではなく、やりたいこと、やれることに手をあげて欲しい。勇気を出して一歩を踏み出せば、道はつながっていくと思います。（2006 年冬取材）

４．「言葉を使う仕事とボランティア活動を通じて自然環境の大切さを伝える″広報係″として活躍」

中野　栄美子さん（環境しがの風）

【プロフィール】

トークショーやイベントの司会業、テレビやラジオのパーソナリティーとして仕事をする中で、滋賀の自然環境をより深く知りたいと滋賀県教育委員会主催の「淡海生涯カレッジ」第一期生として学習し、大津市環境サポーターに。以降、自主的に勉強やボランティア活動を行い、本業でもその経験と知識を活かして活躍中。

【DATA】

■発足：1996 年３月　■メンバー：15 名

【活動内容】

メンバーそれぞれが所属または関連する団体でフィールドワークを実施。２カ月に１回程度集まり、関連施設の見学や現地視察、学習会などを行っている。2006 年３月で発足 10 周年。

【連絡先】

環境しがの風事務局：滋賀大学内自然環境教育施設

代表：川嶋宗継（滋賀大学教育学部））

○滋賀県主催の淡海生涯カレッジ修了生、有志でスタート

「環境しがの風」は、1996 年に始まった滋賀県教育委員会主催の淡海生涯カレッジで、第一期生として学んだ仲間有志が集まったグループです。メンバーは、それぞれが所属団体で活動をしている人たちで、私よりも人生経験豊富な先輩ばかり。いろいろと勉強をさせてもらっています。

環境に興味をもったのは、レポーターの仕事で訪れることの多かった琵琶湖の風景がきっかけです。季節や時間帯によって移り変わる美しい風景が見られることに喜びを感じる反面、１年前にはその場所に咲いていた花が無くなっていたり、日照りが続いて琵琶湖の水位が下った時の、深刻な渇水を目の当たりにしたり。そうした状況を言葉で伝える仕事をしている私が、滋賀県の自然環境のことを何も知らないでは済まされないと思いました。もっと深く勉強したいと思っていたときに、ちょうど滋賀県教育委員会が主催する淡海生涯カレッジという講座がスタートすることを知り、時間をつくって学び始めました。

いま、滋賀県の自然環境がどういう状態なのか、どんなふうに変化してきているのか、何が問題なのか、それを解決するためには何をしなければならないのか、どんな方法が

あるのか。一口に「環境」といっても、その奥はとても深く、面白いと思いました。また、そこで出会った人々の話を聞く中で、県内にはとても多くの関連団体やボランティア団体があり、自然環境に関するさまざまな活動が行われていることを知りました。

○フィールドワークを通して、環境の偉大さ、問題の重大さを実感

淡海生涯カレッジを修了後、さらに興味が深まって、県立大学で環境学論や水質管理論などの講義も聴講しました。その一方で、メンバーと一緒に、焼却場や浄水場、環境に配慮した建築物の視察などにも出かけました。1年かけて県内の河川をテーマとしたビデオも自主制作し、私はナレーションを担当しました。山の中の源流から河口までをたどると、山から琵琶湖までの水の流れだけでなく、自然環境のしくみがよくわかり、とても貴重な体験ができました。毎年、夏には滋賀大学の水マップ制作にも関わっています。

こうした活動を通じて学んだことを、自分のフィールドワークにも活かしています。滋賀県で開催された第9回世界湖沼会議では、湖沼会議市民ネット事務局のボランティアメンバーとして、また、2003年の世界水フォーラムでは、こども水フォーラム滋賀県ボランティアスタッフとして現場で活動し、世界各国の問題を見聞きしたり、滋賀の案内をしたりすることができました。

また、森林ボランティアや、びわこフローティングスクールのサポーター（環境学習ボランティア）をしたり、小学校で絵本の読み聞かせボランティアを行った際には、環境に関連した絵本を読むなど、子どもたちと接することで、さらに使命感が増したような気がします。

○滋賀の自然環境を考えるきっかけづくりをしていきたい

知識を得て、経験をつむことで、とても視野が広がりました。以前と同じように、現場からレポートをする時も、環境関連のシンポジウムやトークショーの仕事をする時も、自信を持って話すことができ、正しい情報を伝えることができます。それに、気の利いたコメントや豆知識を披露することもできますし（笑）。

仕事柄、情報を伝える立場にいるので、滋賀の自然環境の現状や変化を周知する、広報の役割ができればと思います。まずは外に出て、滋賀県の自然の豊かさを経験して欲しい。自分の目で確かめると、真剣に考えなければならない理由が見えてきます。こういう活動は押し付けるものではなく、自分が守りたいと思う気持ちが大切です。だから、

魚が好きな人は川へ、鳥や植物が好きな人は山へ、水が好きな人は琵琶湖へ、好きなもの、気持ちのいいものから関心が深まっていくのではないでしょうか。私は、その背中を押すきっかけづくりをしたいと思います。

〇チャレンジは、気負わず、急がず、あきらめず。そして自分を大切に

活動を通じて、私はたくさんの人に出会い、多くの知識と楽しみを得られました。興味を持ったもの、好きなことに対しては、気負わず、急がず、あきらめずに取り組むこと、そして、何かをしたいと思ったとき、「時間がある時」ではなく、「時間を探して」取り組むことが大切だと思います。そのためには、まず自分を大切にすること。自分が健康で元気でいるからこそ、人を大切にできるし、好きなことにもチャレンジできると思います。いきいきした女性が滋賀県にたくさん増えるといいですね。（2006 年冬取材）

５．「人をいきいきさせる″ハレの場″。商店街とまちを元気にしたい。」

福井　美知子さん（まちづくり仕掛人）

【プロフィール】

本業はデザイナー。1998 年、大津市市制百周年記念市民提案イベント「大津絵あかり」を企画・運営。1999 年、大津市主催の「女性の目で見た町づくり調査研究」講座で１年間学ぶ。2000 年、「町のオアシス」を開設。「いまきいとき隊　ビデオプロジェクト」、「石坂線 21 駅の顔づくり」に取り組む。2007 年京阪石坂線を舞台に駅や電車のギャラリー、「石坂洋次郎青春賞」など実施

【DATA】（町のオアシス）

■発足：2000 年　■メンバー：10 名（この事業は 2007 年 7 月に終了しました）

【活動内容】

商店街の空き店舗を利用したギャラリーを高齢者向けサロンとして開放。予防介護の考え方を実践したもので高齢者自身がボランティアとして管理・運営に積極的に関わるしくみ。

○提案したイベント「大津絵あかり」で商店街との縁が生まれた

それまで、デザインの仕事一筋で市民活動とは縁のなかった私が地元と関わることになったきっかけは、1993 年関西のデザイナーグループで琵琶湖のヨシを使った「考える葦展」に参加したことです。そして 1998 年の大津市市制百周年記念イベントに、提案した「大津絵あかり」が選ばれ、商店街の皆さんとも関わるようになったのです。商店街を自分たちの手作りのあかりで明るくしたい。そのあかりを自然の素材「ヨシ紙」で作り、大津絵を描いたらどうだろうと考え市民参加で 500 灯の絵あかりを作ったイベントが成功し、商店街の皆さんと仲良くなり町づくりの活動に発展していきました。

また、その後大津市主催の「女性の目で見た町づくり調査研究」講座で１年間学びました。女性と高齢社会について勉強会をし、さまざまな現場に出かけて見学や調査をしました。その結果、ともに学び、問題意識を持って行動力のある女性たちとのネットワークが生まれました。この１年間に学んだことを元に、1999 年に商工会議所主催の「大津の魅力あるまちづくり」懸賞論文に応募し、参加型で、「いまあるものをいかさなければもったいない」という視点で、ソフト面重視の文化的な事業を提案しました。するとそれが特選に選ばれたのです。

○実践のために立ち上げた「町のオアシス」

提案はしたものの、「じゃあ誰がやるんだ」ってことになります。そこで、「やろうか！」と言えたのは、講座でいっしょに勉強してきた仲間たちがいたからです。おりしも大津市主催の介護関連講座の受講生の女性たちとも思いが一致して、いっしょにやってみることになりました。そのとき商店街の空き店舗を改造したギャラリーを「使うてくれへんか？」と持ちかけられ、「町のオアシス」となりました。介護保険のお世話にならないように「利用する高齢者が自分たちで運営や管理に参加する」という世代間交流サロンです。歩いていけるところにある、街なかの居場所ですね。「町のオアシス」では連続講座なども開催し、おすすめのお店など町の情報を新聞の形にして発信したり、ホームページを公開したり。資金は助成金などを利用しました。

このようなスペースは普通月に一日のところが多いのですが、私たちはがんばって週に４日（年間 210 日）開き、イベントなどのおかげもあり年間延べ 5000 人ほどの方の利用がありました。

○コミュニティの拠点としての駅を結び「点から線、線から面へ」

「町のオアシス」と平行して４年前から取り組んでいるのが、京阪電車を使った町づくり「石坂線 21 の顔づくりグループ」の活動です。１年目は石場駅に花壇を作りました。ほかの駅には、中学・高校などのギャラリースペースを作り最寄りの 14 校の生徒の作品を展示しています。そして、「14.1km の日本で一番細長い美術館」と名付けて各校の生徒たちの作品を展示した電車を走らせ、２年前からは生徒たちを乗せてお茶会をする交流も行っています。こうして、駅という「点」が石坂線という「線」になったのです。また 2006～2007 年には全国から 21 文字の青春メッセージを募集し受賞作品を電車のボディにプリントして走らせるという「石坂洋次郎青春賞」、同じ時代に電車に乗り合わせていた人が集まる「青春同窓会号」などの企画を行いました。これらは、大津市の「まちづくりパワーアップ夢実現事業」の助成を受け実現しました。

○継続し立ち止まり、また新しい目標にむかって走り出す

こういった活動は常に資金と人手不足が悩みです。活動資金は主に助成金ですが、助成金を受けるためには新しい事業を立ち上げなければならず、そのためには人手が必要で、そのためには資金が必要になる、という堂々めぐり。ただ、そのおかげで新しいテーマや企画を考えるエネルギーになっています。そして活動には「おもしろさ」があったから、みんなついてきてくれるんでしょうね。介護でも、使命感だけで続けていくと、息が詰まる時もありますよ。やはり、やってて楽しくないと広がりが生まれません。

「町のオアシス」の活動は７年が経過しました。施設の老朽化、利用者の高齢化も進み、一度立ち止まって方向を考える時期にさしかかっているのを実感しています。これまでの活動を本にまとめて振り返るのも意義があるかな、と考えています。（2006 年冬取材）

※この事業は 2007 年７月に終了しました

６．「出張理美容サービスを行うことで、「きれいさっぱり」だけでなく、気持ちも朗らかになっていただきたい！！」

仲谷　由美子さん（ＮＰＯ法人日本理美容福祉協会　滋賀米原センター代表）

【プロフィール】

夫の父の入院をきっかけに初めて老人介護や福祉理美容について深く考え、資格を取得してＮＰＯ法人日本理美容福祉協会に参加。施設や在宅でのサービスを滞りなくするため、メンバーのコーディネイトなどで県内を忙しく駆け巡る毎日。

【DATA】

■発足（登録）：2005 年　■スタッフ：９名

【活動内容】

介護を要する高齢者および障がい者、認知症等で本人自ら理美容に出向く事ができない方などに対し、出張訪問をして理美容サービスを提供。また、各施設などで理美容を通してボランティア活動にも積極的に参加。

【連絡先】

〒521-0325　滋賀県米原市藤川 1351

Tel：090-6908-4330　Fax：0749-58-1566　Mail：npo-siga-yumi@zb.ztv.ne.jp

HP：http://www.f-npo.org/shigamaibara/

○きっかけは夫の父の入院から…

結婚して三人の子ども（現在中３・小６・小３の三姉妹）を育てながら、美容に興味を持っていたので、夫の母の協力を得て美容師と着付けの免許を取得しました。

８年ほど前に夫の父が脳梗塞に倒れ、病院や施設にお見舞いに行った時、あまりにも髪の手入れが行き届いていないことを見て、「何とかしなければ」と思い、介護には全く無知でしたので、まずホームヘルパー２級の資格を取りました。その後、福祉理美容士の資格も取得しました。

○「ＮＰＯ法人日本理美容福祉協会」との出会い

個人で施設などへアプローチをしたのですが、信用も実績もない個人ではどこでも門前払いでした。何か打開策は無いかとインターネットでいろいろ検索をした結果、「Ｎ

ＰＯ法人日本理美容福祉協会」の存在を知りました。
単身名古屋センターに出向き、説明を受けて会員になることを決めました。幸い私の周りには同じ思いを持つ理美容師の仲間たちが居てくれたので、その仲間たちと共に、2005 年に滋賀米原センターとしてのスタートを切りました。

○米原近辺の施設を中心に活動

マスコミなどで紹介されて登録メンバーも９名に増えて、彦根市、米原市、長浜市など滋賀県湖北地域を中心に活動地域も広がっています。
平日の午前中は各施設、午後は在宅の方々への訪問をしています。お休みは日曜日です。
「きれいさっぱり」だけでなく、気持ちも朗らかになるように、カットやシャンプー、カラー、パーマなどを行う際、サロンでサービスを受けている気分を味わえるように工夫しています。ハンドマッサージも喜ばれるメニューです。
きれいになることにより人前に出る意欲が湧いて、気持ちも前向きになると、心のリハビリも可能になるのではないかと考えています。
訪問してサービスを行う際にも、医療の基礎を学んだ福祉理美容士であれば、車いすへの移乗などの誘導などもでき、利用者に安心していただけると同時に、その介護者の負担も楽になります。
また、お喋りを楽しみながらサービスを行いますので、ご自宅にこもりがちな高齢者・介護者の良き話し相手・相談者となることで孤独感解消に繋がり、地域福祉の向上にも寄与できるのではと思っています。
深刻な課題となっている老老介護についても、私たちが伺うことで介護者の気持ちが少しでも明るくなればよいと思います

○さらに活動範囲を広げて、メンバーも増やしたい

現状維持に留まらず、活動地域を拡大していきたいと思っています。それに伴って福祉理美容士のメンバーも増やしていきたいので、様々なメディアを通して紹介していただき、私たちの活動を皆さまに知っててただけたらと思います。
障がい者のご家族からの依頼も今は少ないですが、この活動を知っていただいて、ご遠慮無くお

問い合わせしていただけたらと思います。

「誰もがいつまでもきれいでいるために」出張理美容サービスは必要不可欠なものであることが理解される世の中になるよう、少しでも貢献していけたらと思います。(2007年12月取材)

７．「里山の美しい景観が変わっていくのを目の当たりにして、今自分に何ができるのかと考えて活動を始めました」

三浦　美香さん(一般社団法人　比良里山クラブ　代表理事)

【プロフィール】

大学卒業後コピーライターの現場に入る。のちに編集の仕事にも携わり、京都・滋賀を拠点にフリーランスとして活躍。故郷、比良の豊かな里山の風景を、子どもたちの世代に残しつつ、全国に発信することを目的とし、2003 年任意団体を立ち上げる。以来、メンバーとともに様々な活動やイベントを展開し、６年後、非営利の一般社団法人「比良里山クラブ」を設立し、代表理事に就任。大津市横木在住。夫と息子二人との４人家族。

【DATA】

■発足：2003 年　■法人化：2009 年　■活動メンバー約 20 名、理事　4 人

【活動内容】

比良地域の自然環境分野を中心に、湖西（旧志賀町）の地域社会の健全な発展を目的とする。 主な事業として、赤シソの栽培とシソジュースの商品化、里山付き貸し農園、森林資源の活用がある。

【連絡先】

〒520-0063　滋賀県大津市横木２-25-12

Tel/Fax：077-527-2833　Mail：info@hira-satoyama.net

HP：http://hira-satoyama.net/

○生まれた場所にココロが向くのも回帰本能かもしれないと感じた

子どもの頃、山の中を流れる川は、白砂が堆積して川床も浅く、いろんな生きものが棲んでいました。石の下に見つけた、遡上するビワマスの鮮やかな紅色が、今も心に焼きついています。その川も今ではコンクリートの三面張りと化し、流れの速い川になりました。雑木林が削られ、廃棄物処理場ができ、施設が建ち、景観も随分様変わりしました。

きれいな水が流れていた谷には、不法投棄ゴミが何年も放置され、谷の一部が埋め尽くされるほどでした。数十年手入れがされないヒノキ林は、日が差し込まなくなり薄暗い状態です。マツクイムシで枯れてしまったたくさんのアカマツが、林床に横たわっています。野生動物が里におりてきて、農作物を荒らし、山際の農地が活気を失って来ています。

こうして里山の原風景が変貌していくのを目の当たりにし、「自分に何ができるのか」と考えました。そこで県内外の里山活動に参加し、他の団体がどんなことをしているのか見て回る事から始めました。その時の人の出会いが、今も私を支えてくれています。いろいろな事例を参考にしながら、多くの方に助けて頂きながら任意団体を６年間運営してきました。そして 2009 年 10 月、非営利の一般社団法人「比良里山クラブ」として新たなスタートに踏み切りました。

〇紫蘇ジュースで、人も地元も元気に

「Hira Perilla」とは、この夏に販売する赤シソジュースの名前です。どこにでもあるシソジュースとはひと味違います。比良の山際の農地で無農薬有機肥料にこだわって作られた赤シソを原材料に、数年間研究し続けたレシピで製造したジュースです。安心安全、美味しい、キレイ、そしてカラダにもいい夏のドリンク。アルコールや乳製品とも相性がいいのでいろいろな飲み方のバリエーションが楽しめます。

そもそも、なぜ里山保全グループがジュースの製造販売なのかといいますと、発端は比良地域の獣害問題にありました。防御することから被害に遭わない作物を作るという発想の転換をし、たどり着いたのが赤シソ。京都・大原のシソ農家さんから種を譲り受けて、比良の地で更新した純正の種です。「せっかく育てたものは、使わなきゃ。」そんなノリでジュースにしてみました。そしてレシピの研究を重ねた結果、どこよりも美味しい味に仕上がりました。ホントに飲み比べれば、間違いなく実感していただけると確信しています。

2008 年１月に「比良の元気なシソを作る会」を発足し、30 人近い会員さんと共に、有機肥料と無農薬を原則とし、休耕田で赤シソを栽培。翌夏には 1000 平米の農地で 300 キロもの収穫がありました。滋賀県の「環境こだわり農産物」の認証も受けました。生の葉を小売りしてみたところ、おかげさまで多くの方々にご好評を得て、すぐに品切れ状態になるという嬉しい結果となりました。今後も地域の皆さんと一緒に「Hira Perilla」を地域ブランドとして確立し、地域の力を全国に発信して行きたいと思っています。

お客さまから「一年中飲みたい」「早く商品化して」という声が年々強くなり、いよいよ 2010 年夏に市場デビューの運びとなりました。早くも「どこで売っているの？」というお問い合わせを頂いています。

○家族で楽しめる里山に

里山付き貸し農園「L-farm 比良」が 2010 年３月にオープンします。年間 2,000 円からご利用頂けます。いろいろなお楽しみも付けていきます。里山に隣接している立地条件から、里山の体験がオプションとして組み込まれています。一例を挙げますと、春は山菜採り＋天ぷら料理、夏はシソジュース作り。秋は有機米の収穫、冬は野鳥観察会やしいたけの原木栽培などなど、豊富なメニューを用意しています。(L-farm のＬはレディスのＬですが、ご家族の参加も可)

あるお問い合わせで、「子どもと一緒に観察会に参加したいけれど、私は虫がダメなんです。土いじりは好きなんですが…」とおっしゃるので、「では、L-farm はいかがですか」という提案をさせていただきましたら、喜んでお申し込みいただいたことがありました。お子様は里山いきもの観察会。お母さんは畑で作業。ご家族でいらして、それぞれの時間の過ごし方を楽しんでいただけるというわけです。

女性の時間の使い方、作り方という部分でこんな提案もしていけたらうれしいですね。これからの時代、自分の時間を作るということは、未婚既婚、年齢に関係なく大切なことだと思います。そういう意味でも職場に女性がたくさんおられる企業さんとも、福利厚生やレクレーションなど様々な形でタイアップしていきたいと考えています。お一人でも多くの方に比良の自然を知っていただき、触れていただくことを期待しています。

畑で収穫したものを持ち帰ることはもちろん、その場で料理したり加工することも可能です。クラブハウスのデッキで、琵琶湖を眺めながらとれたてのハーブでお茶を楽しんでいただくこともできます。お菓子づくりも楽しみの一つになりそうですね。風に吹かれながらハンモックでひと息ついたり…ここでは時間がゆっくりと流れて行きます。

○里山コーディネーターという位置づけ

子どもたちの環境学習や自然体験を目的とした団体の受け入れや、地域の子ども会から企業研修までの、里山の会場提供からプロデュースまで、対象は幼児から中高年まで幅広いメニューできめ細やかに実施しています。

例えば当会のいきもの観察会は、名称の教授にポイントを置いた内容のものではなく、五感に訴える、カラダで感じることをコンセプトに進行していきます。つまり樹や虫の名前を覚えることよりも、感触や香り、味や音、形、色などを実感することこそ重要なことと考えます。特に子どもは、まず興味のあるものの特徴を捉えてから名前を教えると、インプットの仕方が違うからです。

大人になったときに、樹や虫を見て、ふと思い出す場面がある。その一瞬のために数時間の観察会があってもいい。私たちはそんな思いで取り組んでいます。

また、比良の里山の象徴として「シシ垣」があります。これは、山からおりて来るシカやイノシシの侵入を防ぐための石積みです。江戸時代末期のもので、今は機能していませんが、先人たちの手の跡として、山の重要文化財くらいの価値があると思います。自然倒壊したり人為的に分断されたりしている昨今。この文化財をどう保全していくかという課題もありますが、地域の方達と共に守り残していくことを考えています。

そして、山の手入れから出る間伐材を利活用できる仕組みづくりを模索中です。例えば，順調に増え続けている薪ストーブのユーザーさんを対象としたビジネスモデルや、地域材住宅の展示場構想など、地元の山主さんや生産森林組合とのタイアップを図りながら面白いことができそうな予感がしています。

不動産関係から建築、林業、行政いろんな分野の方のアイデアや知識を集結し、比良里山クラブがコーディネイトしていくことを計画中です。

滋賀県の大津流域森林づくり委員を経て、2010 年から滋賀県森林審議会委員として委員会に参加させていただくことになりました。学識者を含む十数名の委員で構成される中、里山活動家として、そして法人の代表として忌憚のない意見を述べていきたいと思っています。滋賀県の独自性をもっともっと中央に提案していけるような委員会になることを願っています。（2009 年 12 月取材）

８．「楽しい手作りコンサートを企画して、皆さんに届けたい！」

【2008 年度女性のチャレンジ支援講座受講生】

徳田　直美さん（ピアニスト）

【プロフィール】

野洲市在住。ミルフィーユカルテット、ミルフィーユデュオのメンバーとして、滋賀県内を中心に活動。コンサート、ブライダル、パーティ、学校、子ども会、敬老会などで演奏活動。

夫と高校生と小学生の子ども、夫の父母との６人家族。

○受講をきっかけに、ビジョンがより明確に…

昨年（2008 年度）の G-NET しが「女性のチャレンジ支援講座」を受講し、夢を実現するために必要な具体的な方法をとても丁寧に教えていただきました。始めはぼんやりとしていたビジョンも講座中頃になると、明確になってきて、かねてからやりたかった自主企画のコンサートに向けて動き出しました。

これまでも、依頼を受けてのコンサート活動は続けてきたのですが、自主企画は初めてでした。子育て中は「子どもを連れてゆったりとした気持ちで楽しめるコンサートがあったらどんなにいいだろう」と思ったものでした。そこで、親友でフルーティストの磯部裕子さんと一緒に、手作りコンサートの企画を練り始めました。

○子育ての経験を活かしながら企画。コンサートの実現へ…

“会場は、大ホールより、気楽に足を運べるロビーがいいね。明るい雰囲気は第一条件。チラシも、子どもたちが思わず手に取ってくれるようなデザインを”などいろいろと工夫しました。さあ、プログラム。子どもが飽きずに聞けてよく耳にする曲をたくさん取り入れながら、“クラッシックの曲もぜひ聞いてもらいたい。フルートとピアノの音色を充分味わってもらったら、子どもたちに一番身近な楽器リコーダーの二重奏もかわいいね。絵本をはさむと気分転換になるよ”。私達の子どもが幼い頃の経験を生かしながらアイデアを出し合いました。

いよいよ当日。大人も子どもも赤ちゃんも、70人程のお客様と一緒に楽しい時間を過ごすことが

できました。大ホールのような華やかな演出はありませんが、手作りコンサートならではの楽しさを私たちも感じることができました。コンサートに来てくださった方から演奏の依頼をいただいて、少しずつ活動が広がっています。12 月には、Ｘ’ｍａｓコンサートも開くことができました。

この経験を生かし、これからも楽しいコンサートの企画を続けていきたいと思っています。また、今、以前から興味のある「絵本」の世界を、音楽を効果的に入れながら広げていきたいという夢もふくらんできています。

９．「「近江八幡の水郷」を守り伝えたい」

小見山　康子さん(株式会社水郷のさと　まるやま　代表取締役)

【プロフィール】

生まれ育った水郷のさとの風景を残しつなげていきたいという思いから、田舟での水郷めぐりの会社を共同経営する。「近江八幡の水郷」のよさを国内外に発信したい。近江八幡市在住。

【連絡先】

滋賀県近江八幡市円山町 1467-３

Tel：0748-32-2333　Mail：tekogi.maruyama@za.ztv.ne.jp

HP：http://www.za.ztv.ne.jp/tekogi.maruyama/

FB：https://www.facebook.com/yasuko.komiyama.9(個人)

○大切にしたい風景がある

近江八幡の水郷めぐりをしたことがありますか豊かな田園風景、ヨシを吹き渡る風、子どもたちをつれた水鳥・・日本人の郷愁を呼び起こす風景の中を、船頭さんのあやつる田舟でゆっくりと周ります。わたしは、近江八幡にいくつかある観光船の会社の一つ、「水郷のさと　まるやま」の代表取締役です。

長年、父が共同経営をしていた水郷めぐりの会社がありました。2007 年父が亡くなったことから、私が代わりとして経営に加わることに。それまで私は銀行勤めやパートなどの経験くらいしかなく、会社の経営はもちろん初めてです。ほどなく経営方針の違いから一緒にやっていくのが難しくなり、解散するしかないところまで追い込まれました。

でも、この場所での水郷めぐりを絶やしたくない、この風景をつないでいきたいという思いが強くありました。そこで、以前から一緒にやっていた方と、他に新たに２人に協力をお願いして、2011 年５月新会社を立ち上げました。解散から２年、一度なくしてしまったものにお客様は戻ってくださるのか、それよりもまず船頭さんたちは戻ってきてくれるのか不安でした。でも地道に歩き回って準備をし、なんとか開業にこぎつけたのです。幸い、私の不安は当たりませんでした。

「近江八幡の水郷」は、国が定める重要文化的景観の第 1 号に認定されています。自然に人の手が加わることで保たれてきたものであり、水郷に関わる全ての人が守り伝えてきたものなのです。わたしたちには、この風景を次につなげていく使命があります。

○「近江八幡の水郷」を世界へ

わたしは、県内外を問わずできるだけ外にもでていくようにしています。観光業はまだまだ男性がほとんどを占める分野ですが、女性の感性を活かせるすばらしい仕事だと実感しています。名前を覚えてもらうことで、自分のところだけでなく「近江八幡の水郷めぐり」をより多くの人に知ってもらえます。

出会った方から、海外へ目を向けるようアドバイスを受けたことがありました。英語のできるスタッフがいたおかげで、さっそく HP に英語のページを加え、チラシも作りました。また、他にも数種類の言語のチラシを作ったりしています。ご利用いただいたお客様が投稿された動画をみた台湾のお客さんがいらっしゃったこともありました。今着実に海外のお客様が増えていると感じています。

うちはリピーターさんが多いのも自慢です。気に入って、何度も通ってくださる方、お友だちを連れてきてくださる方。たとえ一度の出会いであっても、お話で広めてくださる方もあるでしょう。一期一会の出会いを人に喜んでいただく、その気持ちを大切にしています。

「近江八幡の水郷めぐり」への褒め言葉は、水郷に関わるみんなのもの。マイナス評価は自分たちへのものと受けとめるようにしています。そこには次に生かすヒントがあると思うからです。いいと思ったことはまずやってみる。うまくいかないこともありますが(笑)。うちは高齢者にやさしい職場ですよ。人生の第二のスタートとして船頭さんになった人もいます。平均年齢 70 才、まだまだ皆元気です。

地元の人も意外に水郷めぐり体験がないんです。一度体験してその良さを実感してもらいたい。そして、誇りに思ってもらいたい。それだけの価値のあるところです。6 月のよしちまき作り体験のときは、地元の女性にお手伝いをお願いします。地域の人をもっと巻き込みたいですね。

まだまだ小さな会社です。乗り越えなければならない壁はいくつもありますし、自分の不甲斐なさに情けなる事も多いです。でも経験も何もなかった私だからこそ気付けることや出来ることもあると思っています。（2015 年３月）

農業分野で活躍したい！

１．「結婚を機に酪農業を学び、乳製品加工で事業を拡大。観光と交流の拠点として牧場の一角にお店を開業。」

古株　明子さん（有限会社 古株牧場 取締役）

【プロフィール】

結婚を機に家業の酪農を手伝う。作業の機械化が進み、子育ても一段落したため、1997 年、乳製品製造を始め、事業を拡大し、2004 年に法人化。2005 年８月、牧場敷地内の一角に、加工・販売＆喫茶スペース「湖華舞（こかぶ）」を開業。

【DATA】

■設立：1997 年 10 月　■スタッフ：４名　■資本金：300 万円

■年間売上額：3500 万円

【事業内容】

乳製品製造・販売、有機米生産・販売、飲食業

【連絡先】

〒520-2552　蒲生郡竜王町小口不動前 1183-１

Tel：0748-58-2040　Fax：0748-58-0004　Mail：kokabu-ice@ex.biwa.ne.jp

HP：http://www.kokabu.co.jp

○しぼりたての生乳のおいしさを届けたい

結婚してから家業の酪農を手伝い始めましたが、特に抵抗もなく、嫌いでもなかったので素人ながら楽しくやっていました。しぼりたての牛乳はとてもおいしくて、次第に、消費者の皆さんにも牧場に来てもらいたいと思うようになったんです。

事業として立ち上げるきっかけになったのは、生乳の生産調整等の問題でした。売価も期待できない状況だったので、何か付加価値をつけて販売する方法を考えなければならない状況だったんです。ちょうど、その頃は搾乳機等の機械導入で酪農作業も楽になっていましたし、子どもにも手がかからなくなっていたので、時間はありました。「何かするなら今しかない！」と思って、すぐに行動にうつしました。

1997 年に、乳製品製造業の許可を取得してソフトクリームの加工を開始し、町内の農業体験公園で販売を始めました。これが好評で、翌年には持ち帰り用のアイスクリー

ムの製造販売もするようになりました。地元のイベントや観光事業に出向くと大人気で、たちまち品切れになって、驚きとうれしさを感じたのを覚えています。

○牧場内に販売所を開設

商品を食べていただくだけでなく、実際に牧場にも足を運んでもらいたいという思いが強くなったので、2002 年８月、牧場の敷地内に直売所「みるくステーション」をオープンしました。牧場ですから、すぐそこに乳牛がいます。私たちには当たり前の風景でしたが、一般の消費者の人にとっては、とても新鮮だったようで、牛と直接触れ合えることを喜ぶ方が多く、新たな発見でした。

牛乳 100％のソフトクリームやアイスクリームに加えて、地元の農産物を材料に使ったジェラートの販売も始めました。本物のおいしさ、飽きのこない味をつくることに苦労しましたが、地元だけでなく県外からもわざわざ来てくださる方もいて、うれしく思います。男女を問わず、幅広い年齢層の人が、「おいしい」と笑顔になる姿を見ると、とても幸せな気持ちになりますね。

直売所を設けたことで、酪農の仕事を見てもらえ、生乳の本来のおいしさを伝えることができました。また、直接お客様の声が聞けるので、勉強にもなりますし、たくさんの人と出会うことで新しい道が開け、やりがいも出てきました。

○牛舎を改装し、「湖華舞（こかぶ）」をスタート

牧場の片隅の直売所での営業を３年ほど続けたころ、「来てくれる人に、もっとゆっくりと過ごしてもらえる場所にしたい」と、新たな目標が生まれました。そこで、牛舎だった建物を改装し、加工、販売、飲食スペースのある２階建てのお店をつくり、2005 年８月、「湖華舞（こかぶ）」と名づけて新装オープンしました。

目の前には池や緑豊かな風景が広がっていて、私はここからの眺めが大好きなんです。この風景を眺めながら、のんびりとくつろいでいただきたいと思っています。

これからは、どんな味が求められているか、消費者のニーズを察知して、商品づくりに活かし、焼菓子やプリンなど、メニューも増やしていきたいですね。「ここに来たらほっとできる。おいしいものと出会える」、そんな場所を提供し続けたいと思います。

○チャレンジすることで得た人との出会いと成長

「自分が作ったものが、売れる」ということに、やりがいを感じています。

何でも、やらなければ結果は出ません。私も最初は、乳搾りなんてしたことなかったし、トラクターにも乗ったことなかったけれど、やればできることを身をもって体験してきました。この事業もそうです。一人では無理なことも、県の農業技術振興センターや竜王町観光協会など、多くの方々の支援で実行できました。躊躇せず、やりたいと思ったことは、まずやってみましょう。チャレンジすることで、次のチャンスや人との出会いがあります。そして、人との出会いで、自分を見つめ直し、磨いていけると思います。

酪農をする一女性だった私が、一歩外に出ることで、視野が開け、いろんな人との出会いで刺激を受けたことは、とてもプラスになっています。これからも前を向いて、いろんなことに挑戦してきたいですね。（2006 年冬取材）

２.「農業って楽しい　滋賀って面白い」

三峰　教代(みたか　ゆきよ)さん(写真左)　**佐々木　由珠(ゆず)さん**(写真右)(fm　craic(エフエム　クライック))

【プロフィール】

二人は、ともに脱 OL し、農業訓練校に入学。そこで出会い意気投合、一緒に本格的に農業を始めることに。滋賀の伝統野菜である下田ナスとの出会いから、あまり作られていない作物、人に食べてもらいたい作物を育てたいと意欲を燃やす。三峰さんは湖南市、佐々木さんは草津市在住

【連絡先】

HP：http://fmcraic.blog130.fc2.com/

○農業をはじめたわけ

二人の出会いは、滋賀県主催の職業訓練コースのひとつ「アグリファーム」でした。その二期生であるわたしたちは、2009 年９月から 12 月まで草津でともに訓練を受けました。土を触ることの楽しさ、面白さ、今まで知らなかった世界に、大きな可能性を発見した４か月でした。

出会う前までは、別々に東京と大阪で OL をしていました。しかし、ともに海外留学経験があり、滋賀県を外から眺めつつ将来の自分について考えた、という共通点がありました。そして漠然と「地に足をつけた仕事＝農業」という思いから、滋賀県で「農業」を、と夢を抱いて戻ってきたのです。それまで農業にはまったく縁はありませんでした。そんな中、2010 年１月に訓練校を出るなり、早速土地を借りて色々な野菜を作り始めました。

「fm craic(エフエム　クライック)」の「fm」は、farm(農場)と、ラジオの FM 放送を掛けています。「craic」はアイルランド語で「楽しい、にぎやか」という意味です（別にアイルランドに縁はないんですが(笑)）。ラジオのように楽しいことを発信する場所でありたいという願いをこめてつけました。

○下田ナスはおいしい

「下田ナス」というナスがあるのをご存じでしょうか。湖南市下田でずっと作られて来た小ぶりのナスのことです。今では作っている農家は数えるほどになりました。でも、隠れた名品と呼べるほどおいしいナスなのです。大抵はお漬物にして食べられています

が、むしろ生でそのまま食べて欲しいほど、みずみずしくて甘味があります。幼稚園で食べてもらったところ、「初めてナスが食べられた。」と喜ぶ園児もいたほどです。

もうひとつ、力をいれている野菜に「弥平とうがらし」があります。きれいなオレンジ色のとうがらしで、食べると辛味が強いだけでなく、その後になんとも言えないうま味を持っています。加工品として、一味唐辛子や、スイートチリソースを作って、フリーマーケットなどで販売しています。頻繁に買ってくださるファンの方々ができて、味に自信が持てるようになりました。

このように、あまり作られていない野菜や知られていない野菜を掘り起こしていきたいと考えています。わたしたちは、大規模に沢山の野菜を作ることはできませんが、そのかわりに少量多品種で珍しい野菜を作っていくことで、新しい市場を開拓していきたいと考えています。また、「地産地消」もわたしたちのキーワードのひとつです。

○楽しくなくっちゃ仕事じゃない！

農業って、しんどいとか、お金にならないとか、趣味でならとか、そんなイメージを持っておられませんか。仕事として農業を選ぶ方がもっと増えてきて欲しいと願っています。そのためには、きちんと利益を出して、生活ができること、仕事として成り立たせていけること、そんな仕組み作りが必要です。わたしたちは、10 年先、20 年先も農業をやっていたい。そのためにはどうしたらいいかを走りながら考えています。

この１年は、畑を耕作しながら、あちこちのフリーマーケットで出店したり、大阪の知り合いのお店で販売したりしました。東京でカフェをやっている友人のところへ野菜を卸したりもしています。本当に沢山の出会いのあった１年でもありました。今年は、そこから見えてきたものを次の年、またその次の年へとつなげるために、更に新しい土地で一から土作りをします。　「滋賀って、ええとこやで～！」これがわたしたちの合言葉です。(2011 年１月取材)

３．「農家の「嫁」という立場で苦労した 15 年間のあと、農業の「担い手」という立場になって、自立する喜びを知りました。」

辻　喜代子さん（辻喜農園　代表）

【プロフィール】

女性初の県花き園芸協会菊部会長として、女性が発言しやすい環境を整備。また、※指導農業士、ＪＡ女性部の役員、普及活動推進協力員等として、方針決定の場に積極的に参画。生活研究グループの活動では、家族経営協定の締結や環境こだわり農産物を題材とした寸劇を行い、その経験を多くの人に啓発。地産地消の推進、食文化の伝承など、幅広い分野で活躍。直売所、イベントなどへの参加を通して安全・安心な環境こだわり農産物の推進や消費者との交流を積極的に展開している。

【DATA】

■設立：2004 年　■スタッフ：３名

【事業内容】

大規模農家（小菊、百合、水稲、野菜の栽培）

【連絡先】

〒522-0271　滋賀県犬上郡甲良町下之郷 1394

Tel：090-9613-5873　Fax：0749-38-4400

○農家の「嫁」として

22 歳の時に結婚して以来、夫は農協に勤めていたため、兼業農家の主婦として、また働き手としての重責を担い、夫の両親と共に 1.7ha の田畑で水稲や野菜を栽培するという、農作業に明け暮れる日々が続きました。３人の子どもにも恵まれましたが、ゆっくり子育てを楽しむ余裕さえ持てない日々でした。

夜明け前から深夜まで働きづめで、自由になる時間もお金もなく、子どもを背負いながら「これでいいのだろうか」と考え、悩んだ日もありました。

結婚して以来しゃべることも、笑うことさえできない生活の中で、義母の優しさが救いでした。

○農家の担い手となって

15 年の月日が流れて、両親が年老い、私に農業が任される時が来ました。それまで言われるまま働き続けてきた私が、自分の判断で我が家の農業経営をできるようになったのです。

しかし、当時の情勢は厳しく、そのままの経営を継承するのには難しい状況でしたので、農協で相談したところ、小菊の栽培を薦められました。夫らからの反対はありましたが、自分で決断し、菊部会などの勉強会にも積極的に参加し、勉強しました。２年目にはハウス４棟を建て、購入した小菊の株を植え付けることができました。

部会や研修会などで聞いたことを忘れないためにと、ポケットにいつも紙と鉛筆を入れておいてすぐメモする癖は、今でも続いています。そして、その内容を家族に報告することも大切にしています。やはり女性が自立するためには、家族の理解を得ることが必要だと思っています。

○家族経営協定の締結

夫が農協を退職して農業にもどり、私とは別に水稲栽培を始めました。2002 年、県の普及センターからの薦めもあったのですが、夫から家族経営協定を締結しないかという提案がありました。

息子は勤めを持っているので、夫と私に息子の妻を加え、３人で納得のいくまで話し合い、夫は水稲と野菜、私は小菊と野菜の一部を担当、息子の妻には家事と育児、農舎と事務所の維持や掃除と簿記記帳の手伝いをしてもらうことになりました。

農家の友人たちは「もともと分担してやっているのだから締結の必要はない」と言う人もいますが、改めて明文化し、毎月各自の口座にお給料として振り込まれると、自分の仕事に自信と誇りをもつことができ、働く意欲が持てます。

また、それぞれが自分の役割を認識することができ、お互いを家族の一員として尊重し合う意識が高まったように思います。

○環境こだわり農産物の普及

ある研修会で視察に立ち寄った先で、これが食べ物かと思うほど薬漬けの輸入作物を目の当たりにし、「子どもたちに、こんな農産物は食べさせられない」と強く思いました。それ以降、できるだけ農薬を使わない農産物生産に取り組み始めました。

発育盛りの子どもさんたちに食べてもらいたいと、町内の保育園・幼稚園、最近は甲良町役場と契約して小・中学校の給食用にも出荷するようになりました。

滋賀県は、平成 15 年から農薬・化学肥料を従来の使用量の半分以下に減らして作られた農産物を、「環境こだわり農産物」として認証する制度を施行しました。私の栽培する野菜は、全て環境こだわり農産物の認証を受けています。

小菊についても、花屋さんが余分な茎を切り落とすことから、ごみが発生するので、その抑制を図るため、茎の長さが従来の 75 ㎝のものから、短い茎のものが望まれるようになりました。また、消毒の回数も 15 回までがエコと認められるなど、生花にもエコが求められるようになっています。

○寸劇のグループの活動をとおして思いを伝えたい

地域の農家女性が集まって活動している生活研究グループに加わったことで、農業女性の自立を願い、現場の女性の思いを伝えたいということと、環境こだわり農産物への理解を広めたいという、思いを同じくするたくさんの仲間に出会うことができました。そこで、湖東地区で農業をする４名のメンバーとともに、寸劇のグループを結成しました。

今まで 20 回ほど、滋賀県内のイベント等で環境こだわり農産物や家族経営協定などをテーマにした寸劇を披露してきました。寸劇のシナリオはメンバーと県の担当者の方とで考えて作っています。しかし、皆多忙を極めているので練習などをする時間も持てませんので、シナリオを読みながらの寸劇となってしまいますが、どこでも喜んでいただいています。

また、寸劇を見たあとの即売で、それまで曲がった野菜や虫食いの野菜には見向きもしなかったお客さまが、争うように購入してくださるのを見ると、とてもやりがいを覚えますし、子育て中のお母さん世代にも理解していただきたいと願っています。

○農業女性の自立のために

小菊や百合の出荷、環境こだわり農産物を育て、消費者の皆さんにお届けするという喜びでも充実していますが、特に 2008 年は、小菊の栽培や「近畿農政局男女共同参画優良事例表彰」などで賞をいただいたりと、とても良い年でしたし、喜びも大きいものでした。

しかしながら現状は厳しく、小菊のニーズはほとんどが仏花で、現代社会においてはどんどん消費量も減っていますし、１月～４月は沖縄の安い菊に勝てなくなっています。将来に期待が持てない今、後継者を望むのは難しいことだと思っています 。

農村では未だ、女性の自立に対する根強い抵抗

が残っています。かつての私のように無言で耐えている女性たちがたくさんいると思うのです。その農業就業人口の約６割を占める女性たちが、もっとやりがいを持って、自主的に農業経営に取り組んでいくために、家族経営協定は一つの方向を示すものだと思います。

私は指導農業士という立場にもありますので、女性農業者の自立を願って、後につづく女性育てていくという面にも尽力できればと思っています。

グループとしては、寸劇などをとおして、私たちが伝えたいテーマを、現場の私たち自身が自分たちの言葉で伝えるというやり方で、農業者や消費者、都市と農村、男性と女性などの相互理解のきっかけになれることを願っています。（2008 年 12 月取材）

※指導農業士　http://www.ryeda.or.jp/zensinou/7_index.html

４.「農業の新たな未来をめざして」

片山　恵美さん(農業)

【プロフィール】

まったく興味のなかった農業が、ふとしたきっかけで生業に。農業にも経営の考え方が必要だと気づき、家の農業を手伝いながら日々学びと実践を重ねる。多くの人々とつながりながら、農業の未来を考える。

【DATA】

東近江農場(サンテ農場)、特定非営利活動法人名神ツーリズム大学

【連絡先】

滋賀県東近江市北須田町在住

若手女性農業家の安心安全な農業のためのブログ　http://santefhs.blog.fc2.com/

〇きぬがさ山の麓で

東近江市北須田町。わたしは、古い歴史をもつきぬがさ山の麓で農業をやっています。かつて兼業農家だった実家は、11 年前に父が脱サラして専業農家になりました。今では、米、麦、大豆に野菜を家族で手分けをして作っています。

父が脱サラをした当時、わたしは会社勤めをしていました。たいへんやなあと思いつつも、農業にはまったく興味がありませんでした。年中忙しい農家の仕事ですが、特に夏の作業量は半端ではありません。そこで、ちょっと手伝いのつもりで、草引きをはじめてしてみたのです。これが、意外に爽快でした。スポーツ後とも違う、なんとも気持ちのよい達成感。それから休みのたびに農作業を手伝いました。そして、自分も農業をやる、と決めるまでにはそう時間はかかりませんでした。４年前のことです。

農業については、まったくの素人でした。周りの人に教えてもらいながら手さぐりでスタート。おばあちゃんには、昔ながらのやり方、季節や文化について教わりました。ただ、「大根はお彼岸までには植える」といわれると、どうしてそうするんだろうという疑問がわいてくるんです。その時は、安土にある農業大学校の普及センターで理屈を教わりました。それがとても面白かった。メインで作っている野菜はかぼちゃですが、多品種を植えています。何がおいしいか、売れるのかを考え、試行錯誤を繰り返しています。2012 年には、青年農業者クラブ主催のプロジェクト発表大会で、東近江の代表

の１人として県大会に出場した経験もあります。農業は、好奇心旺盛の人に向いていると思いますよ。

○わたしの農業スタイル

農業を始めたころ、バイトでお金を稼ぎながら農業をやっていました。産直場で生産物を売り、自家製野菜パウダーを使って自分でシフォンを焼いて売ったりしていました。そのパウダーづくりで出会ったのが「特定非営利活動法人　名神ツーリズム大学」です。そこは、いろいろな学びや体験、イベントを通じて「忘れかけていた田舎の良さや、自給率を含めて食の安全性や信頼性が問題視される状況の中、本当に大事なことは何なのか・・・」を考え直す場所でした。この出会いが、わたしにとって本当に大きな気づきとなりました。農業者としてプロの仕事をしたい、と考えるようになったのです。多くの人との出会いや学びによって、ようやく自分の農業のスタイル、方向性が見えてきたように思いました。

たとえば、わたしの作った野菜を使って、プロのパティシエに本当においしいケーキを作ってもらうほうが、より付加価値のついたものになるのではないか。プロがプロと組んでよりよいものを提供することに、ひとつの方向性があると感じました。

そして、自分で作った野菜は直接お客さんに手渡したい。どのように作った野菜か、きちんと伝えることが大切だと思います。お客さんと話をし、野菜の見分け方、食べ方を伝え、おいしく食べてもらいたいですね。マルシェへの出店、若い農業者と一緒にイベント企画・・楽しいことをいろいろ考えています。

○これからの農業へ

最近は、農業に興味を持ってくださる方も増えてきました。わたしの農場でも、体験や見学を受け入れることがあります。参加者の中には、わたしが話をすることで、より身近に農業を感じてくださる方があるようです。農業の魅力を、もっと発信していきたいですね。

農家は自分が生産者であり、経営者です。ただ野菜を育てていればいいというわけにはいきません。日々の決断力、判断力をつけ、マネジメント力も必要です。多方面の学びが必要で

す。人との出会いの大切さも実感しました。そのためには実際に会って、まずは関係性を築いていく必要があります。ただ、外に出ていくばかりでは、肝心の農業がおろそかになるので、バランスを考えないといけませんけど。

農業人口がもっと増えてほしいです。農業に未来はあると思います。生産だけでなく、異業種とのコラボ、経営力、人とのつながりと新たな農業のかたちが見えてきています。いままでのやり方にしばられない、柔軟性を持ちたいし、面白さ楽しさを伝えるだけではいけないと思っています。稼げる農業でなければ、誰もあとに続いていきませんから。

（2014 年２月取材）

1.「育児サポーターの受講生でNPO法人を立ち上げ、育児・介護サービスの場を創出。」

伊藤　幸枝さん（NPO法人「子育てサポートおうみはちまんすくすく」　代表理事）

【プロフィール】

1999年に市の保育サポーター養成講座を受講し、個人的に支援活動を行う中で仲間を得てグループを設立。2001年にNPO法人を立ち上げ、育児支援、家事支援、世代間交流事業、障害児サポートなど、幅広い活動を展開。

【DATA】

■設立：2001年6月　■スタッフ：226名

【事業内容】

近江八幡市ファミリーサポートセンター事業（市より受託）、あったかほーむづくり事業（滋賀モデル事業補助事業）、障害児地域サポートセンター事業（滋賀モデル事業補助事業）、その他（子ども文庫、リサイクルショップ、子育て相談）

【連絡先】

〒523-0887　近江八幡市西元町59

Tel：0748-31-3320　Fax：0748-31-3335　HP：http://www.zc.ztv.ne.jp/sukusuku/

○市と県からの委託を受け、幅広いサポート活動を展開

NPO法人設立のきっかけは、すぐそばに子育ての手助けを必要としている親子がいたからです。1999年7月に市主催の保育サポーター養成講座を受講し、そこで出会った受講メンバー有志で、「子育てサポートおうみはちまんすくすく」を結成し、保育サポート活動を開始しました。育児支援を求める人が多い現状を市民の声として行政に届けるために、あらゆる場所で発言し続けたことがやっと認められ、2001年にNPO法人となり、近江八幡市におけるNPO法人への事業委託第1号になることができました。

子育ての一時的、緊急的支援を行う「近江八幡市ファミリーサポートセンター事業」の受託を機に、2004年には、子どもも高齢者も、心身にハンディを持つ人も気軽に立ち寄り、交流できる場所をつくる「あったかほーむづくり事業」と「障害児地域サポートセンター事業」の、２つの滋賀モデル事業受託を開始しました。

○できる人が、できるときに、できることをして支え合う活動

子育ての一時的支援からスタートした私たちの事業は、地域の住民からの暮らしの課題に応えていきたいという思いからのものでした。そして、この２つの事業は、子どもだけでなく、障害をもった人も、高齢者も、住み慣れた場所で安心して生活していけることを可能にする取り組みです。女性も男性も、できる人が、できるときに、できることをして、共に支え合う活動なんです。活動を通じて、地域密着の生活支援サービスを行う、市民社会を目指しています。

2006 年からは、介護事業も始めます。運営を続けていくためには、収益を上げなければならないので、成果を確認しながら、次のステップを考えています。これからも可能な範囲で事業の幅を広げて、基盤強化を図りたいと思います。

○女性の経験が社会の資源となり、就労のチャンスを運ぶ

一般的に家事や子育てをする女性たちは、ほめてもらったり、評価してもらう機会が少ないものです。サポーターになることで、自分のステージを持つことができ、人間関係も広がり、仲間もできます。「ありがとう」と言ってもらえることで、自分の存在価値、役割を認識し、元気に輝いていく女性の姿を見ていると、こちらまで元気になりますね。活動をすることで、一人ひとりが持っている能力が活かされ、生きがいとなっているんです。

「命を生み、育てる」という女性の生活体験を、社会の資源として再び活かすことができ、そのことが、生きがいを生み出して再就業のチャンスとなっていることは、とてもうれしいことで、続けてきて良かったと思います。

○今日から、今からスタート！

とにかく、今が大事です。プラス志向になると、結構どんなこともうまく回っていくような気がします。私は、仲間の気持ちを代弁して新しい提案をし、事業につなげていく役割を担っています。「こんなんがあったらいいな」から始まり、「そんなら、やろうか」となり、やってみて「楽しいな」となる。その繰り返しです（笑）。思いを形にして、立ち上げて、継続していくことが大事ですね。

原動力は、「好奇心」。しかし、思い込みで突っ走ってリスクを背負ったり、急ぎ過ぎて失敗したこともありました。身の丈に合ったことをしてきたから続けてこられたと思

っています。自分が責任を取れる範囲のことをやることが大切ですね。

自分でできることは出し切っていく。特に事業をする上では、外部評価が大事です。自己満足だけでは決してうまくいきませんから。

女性たちには今を大切にしてほしい、そして、自分の可能性を試してみる勇気を持ってほしい。その先にあるのは、多くの仲間と成長した自分、喜び、感動です。何かをしようとするとき、決断にはエネルギーがいるものです。でも、「It's my choice！」、自分が選んだことなら、できるはずです。恐れずにチャレンジしてください。(2006年冬取材)

２．「さまざまな介護施設での現場経験を活かし、小規模で個別ケアのできる宅老所を開設。」

林　淳子さん（NPO 法人「宅老所はな」 代表）

【プロフィール】

有料老人ホーム、特別養護老人ホームに勤務した後、ケアマネージャー、介護福祉士としての技術と知識を活かして自己資金で宅老所を開設。少人数制で、利用者の人権を考えた個別サービスの提供に努めている。

【DATA】

■設立：2001 年７月　■スタッフ：12 名

【事業内容】

通所介護、延長ケアサービス、緊急ナイトケアサービス

【連絡先】

〒520-0113　大津市坂本５丁目 26-31

Tel/Fax：077-578-6587

○現場で感じた介護の仕事の魅力と疑問

子離れのために仕事を始めようと考え、最初に勤めたのが新設の大型有料老人ホームでした。介護の経験も知識もありませんでしたが採用していただき、利用者のいちばん近くにいる人が知識をつけるべきだというオーナーの方針で、働きながら医師や看護師から専門知識や技術を学ぶことができ、「こんなに面白く、奥の深い仕事はないな」と思ったんです。そこのオーナーに、「この仕事をするのなら、いろんな人間を知らなければ、本当の人間相手の仕事はできない。技術や知識はあくまでも道具であり、それを使って、人間を相手にする仕事なんだ」と教えられました。

その後、視野を広げようと、特別養護老人ホームに職場を移したのですが、当時はまだ、「措置」という言葉が残る時代で、そこでは「サービスの自己選択」とはほど遠い現状を目の当たりにしました。

利用者も介護環境もまったく違う２種類の施設で、約 20 年間、介護の仕事に従事しましたが、「誰もが自負をもって生きてきたのに、加齢や認知症になったというだけで、すべてをあきらめなければならいのか」と次第に疑問を抱き始めました。

○一人ひとりのニーズに応える個別ケアを目指して開業

「最後は自分のやりたいことをしたい」と、定年を前に退職。2000 年６月、自己資金で無指定の介護通所施設「宅老所はな」を立ち上げました。「一人ひとりのニーズを拾い上げられるような個別ケアをしたい。そのためには、小規模で行う必要がある」と思ったんです。開設当初は、認知症や介護に対する社会的認識がまだ低く、地域の方々に理解してもらうことに苦労しました。最初は２～３名の利用でしたが、資金が続く間は続けようという気持ちでいました。そのうちに、口コミで次第に利用者も増え、介護保険を使えるようにして欲しいという要望も出てきたので、2001 年に NPO 法人格を取得しました。

大津市社会福祉協議会の「おおつげんきくらぶ」の助成を受けた際には、緊急ナイトケアサービスや地域の方々や小中高生対象に、地域介護教室を開催しました。認知症や介護の大変さ、本人の苦悩などを伝えることができ、活動を通じて少しずつ、皆さんの意識も変わってきたの。

○家庭の延長上で、尊厳のある介護を実践したい

私は、「自分が生活してきた地域の中で、障害があっても認知症になっても、自分らしい生活ができる場所やケアを提供したい」と思っています。さまざまな人が集まることで、自分も含めて、互いに学ぶことが多いと思うんです。自分が高齢になっていくことを認識することも大切ですし。

尊厳のある介護は、その場の空気、時間、会話など、あらゆるものを通じて伝わります。相手のニーズにぴったり合ったとき、利用者の方から満面の笑みが返ってくるので、その時は「やった！」と思いますね。

2005 年秋に、現在の場所に新築移転したんですが、施設とはいえ通常の民家と同じ造りです。浴室の窓からは庭が眺められ、居間やダイニングでくつろぎ、一緒にお鍋を囲んだり。ハードもソフトも家庭の延長線上でありたいと思っています。

利用者とその家族、介護者は正三角形で結ばれる対等な関係であり、サービスを受けることに遠慮や引け目を感じさせては、プロ失格だと思うんです。どこの施設の介護サービスにもなじめなかった方が自然に溶け込めたり、一人暮らしの方が、自宅での入浴に不安を感じてお風呂だけ利用されることもあります。こうした一人ひとりの小さなニーズに応えられ、地域の方々に認めてもらえているということは、うれしいことですね。

○「はな」らしさを保ちながら、できる範囲でニーズに応えたい

この仕事をする誰もが、人間相手の仕事であり、やさしい気持ちで接したいと思っているはずです。でも、忙しさや業務に流されて、ストレスを溜め込み、自問自答することもたくさんあるんです。

私は、悩んだ時、壁にぶち当たった時は、「自分が好きでやったことなんだ」と原点に返って考えます。自分の思いと現実とのギャップをいつも頭に入れて、そのギャップを埋める具体的な方法を考えていけばいいと思います。

最初は、何もないところからのスタートでしたが、目的に向かって一生懸命にやっていれば、人もお金もついてきてくれると思います。人を信じ、自分を信じてやることが大切ですね。将来は、乳幼児の一時預かりや学童保育ができればと考えています。核家族化も進んでいますので、地域の中で、誰もが安心して生活できる環境がつくれたらいいなと思います。（2006 年冬取材）

３.「保育講習で出会ったメンバーと立ち上げて 10 数年。自分たちの目線から様々なニーズに対応していきたい。」

田島　麻佐子さん(特定非営利活動法人　保育サービスドリーム　代表)

【プロフィール】

保育サービス講習会終了後のメンバーと共に保育サービスドリームを設立。同じ子育て中の母という目線から様々なサービスを展開。2003 年にファミリー・サポート・センター事業開始に伴い法人化。各事業に携わるメンバーをまとめ、対外的な活動で忙しい毎日。高校生と中学生の母親。

【DATA】

■設立：1998 年９月　■法人化：2003 年９月　■スタッフ：28 名

【事業内容】

託児事業（個人・集団)、子育て支援事業、彦根市ファミリー・サポート・センター運営、その他、放課後児童クラブ指導補助・児童相談センターボランティア保育など

【連絡先】

〒522-0063　彦根市中央町４-32

Tel：090-3844-3856　Fax：0749-22-8014　Mail：chakot113@yahoo.co.jp

○保育サービス講習の受講が始まり

結婚して東京から滋賀に移り住むようになり、出産後夫の母から勧められて、当時『働く婦人の家』(現在：彦根市男女共同参画センター・ウィズ) で行われた保育サービス講習会に受講生として参加しました。講座修了後 30 名の参加者のうち 20 名が残り、新たに子育てサークルを発足することになって、私が代表を務めることになりました。

半年ほど経って、滋賀県彦根子ども家庭相談センター設立に伴い、おもちゃ図書館を管理しないかというお話があり、活動の拠点を探していたのでお受けしました。託児ルームとして利用し、子育て相談にみえたお母さんの相談中や一時保育のお子さんの託児をしています。

○「こんなんあったら良いよね」という発想から

子育て期間中のお母さんの悩み、社会参加したいけれどどうしたらいいか分からない、核家族で困っているなど、様々な方がいらっしゃいます。ほんのちょっとの息抜きをさせてあげたいという思いから、知り合いの美容院での託児、スポーツクラブでの託児な

どを展開していきました。企業や行政などからの依頼で、イベント中などの集団託児もニーズが多いです。

子育て中の母親という同じ目線から、「こんなんあったら良いよね」という発想で様々なニーズに対応していきたいと思っています。

2003 年にファミリー・サポート・センター事業を受託運営することになり、法人格を取得しました。現在５名のメンバーが運営にあたっています。登録スタッフは育児に 151 名、介護に 139 名、依頼会員は育児 334 名、介護 369 名となっています。保育サービスドリームとしての託児サービスも平行して運営していますが、こちらは集団での託児が多くなっています。

託児付きの講座を開催する「わくわくくらぶ」、親子で楽しめる「わくわくらんど・わくわく講座」、手作りの小物を提供する「ぬいっこ倶楽部」なども展開しています。

また、放課後児童クラブも来年度は新たに一カ所増える予定ですが、動けるスタッフが足りないのが悩みです。プレ幼稚園事業なども構想にあるのですが、スタッフ不足で実現に至っていない状態なのです。

○社会参加できて良かった

公共機関の講座などに参加すると、環境問題などの色々なお話が聞けて、人との出会いもあります。自分だけで終わってしまうのはもったいないと思うのです。「こんなん聞いてきたよ」と伝える機会が持てたら良いな、またそういう機会を増やしてあげたいと思っています。

外へ出ると、人と出会って色々な話を聞けるし、自分の子育てを見つめ直す機会も持てると思います。この活動を通して自分が社会参加できて良かったなと、感じています。（2007 年 12 月取材）

追記

2010 年４月からは、彦根市中央町の新しい託児ルームでの再スタートになります。今まで通りの託児サービスのほか月極保育も行うなど、待機児童も受け入れます。託児付きの講座や、親子で楽しめる「わくわくらんど」として気軽に立ち寄れるサロンも企画していきます。

４.「お母さんたちの思いを、行政や社会に届けたい」

他谷　恵津子さん（NPO 法人子育てネットワーク志賀「うりぼう」　代表 ）

【プロフィール】

2006 年大津市と旧志賀町の合併に伴い、幼稚園の３年保育が２年保育に変わることを知り、行政にお母さんたちの声を届けようと活動を始めたのがきっかけで、子育て支援のネットワークを結成。子育て支援センターの運営委託のための NPO 化と活動が広がり、より質の高いサービスを提供したいと、日々活動に励んでいる。

夫と中学１年・小学４年・２年の男の子３人、そして夫の父母との７人家族。

【DATA】

■発足：2008 年１月設立

■スタッフ：正会員 24 名　・サポート会員 35 名・賛助会員２名・にじっこスタッフ 23 名・保育サポーター９名

【事業内容】

つどいの広場「にじっこ」（大津市より運営委託）

開館日：月曜日～金曜日と、第１・第３日曜日

休館日：毎週土曜日と、上記以外の日曜日、祝日、年末年始

開館時間：９:00～16:30

【連絡先】

〒520-0514　滋賀県大津市木戸 58 番地

Tel＆Fax：077-592-2070　HP：http://uribou.kids.coocan.jp/

○一人の声から皆の声をまとめるまでに

大津市との合併のために、旧志賀町の公立幼稚園の３年保育がなくなるということを聞いて愕然としました。私の子どもたちはすでに３年保育の恩恵を受けていたのですが、これから入園する子どもさん、そのお母さんたちのことを考えるとたまらなくなり、お母さんたちの思いを行政に届けて、できれば３年保育を続けて欲しいと、数名の友人と旧の志賀町役場に出向きました。

そこでは、ひとりの意見としては聞いていただきましたが、「多くの声の代弁者」というためのデータも持っていなかったので、一部の者のわがままのようにとらえられてしまいました。

そこには、「３歳児までは家庭で母親が見るべき」「親や祖父母が見ればよい」という根強い社会通念のようなものもあると感じました。

そこで、多くの声を代弁するということをより具体的にするために、ネットワークを作ろうということで、仲間とともに、地元の子育てサークルの代表者に声をかけたところ、一緒にやろうという団体が 10 団体集まりました。それが、子育てネットワーク志賀の始まりでした。

○声を届けるためにネットワークを立ち上げ

３年保育継続のための要望書を出そうということになりましたが、メンバーの中でも意見が分かれて悩みました。個人的にも名前を出すのは怖いし、家族や地元に長く住む義父母には申し訳ないという思いもあって、葛藤もありましたが、やはり行動を起こそうと決心しました。

色々と協議した結果、一歩引いて、３歳児保育が無くなるのなら親子が行ける場所、集まれる場所が欲しいということを訴えることにして、合併前の 2006 年の２月頃に、旧の志賀町と大津市に要望書を提出しました。

初めてのことなので、「陳情書」と書かなければ議員さんの手元まで届かないことも知らず、提出窓口で表紙の文字を訂正するなど、冷や汗ものの経験もしましたが、とにかく議員さんたちに私たちの意見を見てもらおうという活動を開始したのでした。

後になって大津市の市会議員さんと話す機会があり、私たちの活動に関心をもってもらうことができました。旧志賀庁舎をどう使うかという委員会の中で、「志賀町の子育てネットワークが、こういう目的で広場を要望している」ということを伝えてくださいました。行政の側としても、志賀町のお母さんが子育て活動をしているいう事実があったので動きやすかったのではと思います。

大津市から「やる気があるのならつどいの広場の運営委託を考えてみないか」というお話をいただき、受けるためには NPO 法人にしなくてはならないことも知りました。運営委託のことなど誰も知らないし、悩みましたが、やっぱり「やってみよう」と NPO 法人化を決意し、2008 年１月に NPO 法人子育てネットワーク志賀「うりぼう」を設立しました。この時、NPO を立ち上げるために色々と動いたことは想像以上に大変でしたが、今になってみると、とても良い経験だったと思えます。

○活動を続けるには家族の理解も不可欠

つどいの広場「にじっこ」は、2008 年４月にオープンしました。会員がスタッフになりシフト制で運営しています。スタッフだけではカバーできないところは先輩のお母

さんたちにも応援していただいています。大津市としてもNPO法人に施設の運営を委託するのは初めてということで、不安もありますが、みんなで一つずつ努力して運営していきたいと思っています。

施設の内容としては、大津市内にお住まいのお子さんとその家族の方なら開館時間内無料で「遊び広場」をお使いいただけるほか、赤ちゃんと家族のための「赤ちゃん広場」、開館日の12時から14時まで持参された昼食を自由に飲食していただける「美味しい広場」、地元に住むスペシャリストの講師などによるリフレッシュ講座、親子講座など、各種講座を開講している「学び愛広場」（サークル等の活動も使用可能）を運営しています。

メンバーの子どもたちも小学校に入るようになり、「にじっこ」を利用する対象ではなくなっています。そういう意味で活動開始当時と少し心構えも違って来るので、今までとは視点を変えてみよう、ここの運営を「仕事」としてとらえようと考えています。

２年間ボランティア活動をしてきて個人負担の支出が多すぎて大変、ということもありましたし、家族にも理解して欲しいという思いも強く、多少でも報酬を得ることができたら、また活動への意欲も倍増するのではと思っています。

子育てネットワーク志賀としては、２ヶ月に１度サークル代表者会議を持ち、お母さんたちの声を届けるための活動などについて、話し合いを持っています。

○お母さんたちの思いを届け、自分自身も成長していきたい

「うりぼう」の代表を務めることになって、様々な行政やマスコミの方々からお話をいただくようになりました。私一人が代表してお話するようなことで良いのかという迷いもありますが、お母さんたちの声を社会に届けたいという思いからお受けしています。私自身、様々な場所に出掛けることにより世界がひろがり、素晴らしい方たちとの出会いもあるので、プラスになる部分も多々あります。

以前から子育て中のお母さんが「一人前の人間」として社会に認められないと感じるのがとてもイヤだったので、当事者の声を届けたいと思っていたのですが、当事者は子どもがいるので動けず、子育てが終わったお母さんが代弁すると真意が微妙にずれてしまったりすることになります。当事者が子連れでも動けるようにサポートするしかないと思うので、託児サービスをつけるとかして実現していけたらいいですね。

「にじっこ」の活動としては、サービスの質の向上を心がけています。講座の充実などにより、働く人たちの収入を上げて、意識の向上も目指していければと考えています。実現にはかなり厳しい面もありますけれど。

また、お子さんへの環境づくりはもとより、「親もさらに成長できる」施設にもなれたらと感じています。そうでないと子どもが豊かに育たないと思うからです。また、本当に困った時に相談できる人がいることを知ってもらい、親にもメリットがある施設にできたら素晴らしいですね。それとともに、自分もここで成長したいと思います。

さらに先のことを考えると、学区を越えた親の繋がりはとても重要だと感じています。親自身が孤立する傾向にある現在、親同士の繋がりがあれば子育て環境も違ってくるのではと感じていますので、親同士のコミュニケーションづくりへの環境も作っていけたらいいなと思います。

このようにたくさんの思いを持って日々活動を続けていますが、少しずつでも社会に伝えることができたら、また、実現できたら素晴らしいと思います。（2008 年 11 月取材）

５．「大切な家族を安心して預けてもらうため“小規模民家型”介護施設をオープン」

高橋　美栄(みえ)さん(株式会社ほっとはーと　ほっとはーとデイサービス管理者)

【プロフィール】

2000 年、ヘルパー2 級の資格を取得して介護職に就く。その後介護福祉士、介護支援専門員（ケアマネージャー）の資格も取得し、2011 年 10 月、介護施設「ほっとはーと」を開所。長浜市在住。

【DATA】

設立：2011 年 10 月

【事業内容】

小規模民家型デイサービス

【連絡先】

滋賀県長浜市高月町柳野中 91 番地

Tel：0749-85-2226

○介護の事業所を持ちたい！

わたしが介護の仕事を始めたのは、今から 12 年前。資格取得と仕事を提供してくれる民間企業で、ヘルパーの職に就きました。その後介護福祉士と介護支援専門員の資格も取得しました。６年ほど前には手術のため３か月休養したこともありましたが、手術後認知症の方の介護に４年間関わりました。次第に、現場での経験を生かして、介護のための事業所を自分で持ちたいと考えるようになりました。

わたしがやりたかったのは、少人数対応で、家庭的な雰囲気を持ち、家族の方にも「ここなら安心して家族を預けられる」と思っていただける介護施設を開くことでした。そのために、使用する建物が“民家”であることにこだわりました。さらに、ここで働くことになるわたしたち夫婦が施設にすぐに駆けつけられるよう、住居スペースと施設となるメインの建物が同敷地内に併設されていることも大切でした。2010 年６月、ちょうどそんな物件を提供してくださる方とお会いすることができました。「母屋」に隣接して「隠居」があり、まさにわたしたちが求めていた物件でした。以前は知的しょうがい者のグループホームだったのですが、当時は空き家になっていたのです。わたしたちの借り入れの申し出に対し、所有者さんも「この家が生き返る」と喜んでいただきました。

○チャレンジ相談を受ける

建物を借り受けたり、お風呂など建物内部を改装するのに先立つものはお金です。福祉系の事業とはいえ、いろいろ探してみても優遇的な貸付や助成制度が全くありません。最終的に、地元の商工会に紹介していただいた日本政策金融公庫から融資を受けることになりました。

商工会にはこうした金銭面など実務的なことでお世話になりましたが、心理的な不安を取り除いてもらえたのは、滋賀県立男女共同参画センターで受けた「チャレンジ相談」です。相談にはトータル３回伺いましたが、相談員さんはわたしのおぼろげな構想や想いを、毎回肯定的に聞いてくださいました。具体的な相談をするというよりも、わたしの計画の進捗報告を同じ女性として親身になって聞いてもらい、やるべきことのひとつひとつを一緒に確認していった感じです。ここでの相談は、わたしにとってとても大きな励みとなりました。

○起業、そして体制づくり

2011 年 10 月の開業から約半年。今は体制づくりが当面の目標です。現在わたしたち夫婦以外に５名の職員さんを雇用しています。７名のうち５名は有資格者、２名は地元の方で利用者さんの話し相手や食事作りのお手伝いなどをやってもらっています。地元の方に働いてもらうことで、わずかですが雇用の機会を提供し、周辺の方にも理解してもらえる施設になればと思っています。今後も職員さんを増員していく予定です。とくに４月からは、医療ニーズにも対応できるようにと、看護師さんに来てもらうことになっています。

施設の利用状況は現在平均７名で、収支は「とんとん」といったところです。体制が安定してきたら、少し余裕ができる 10 名くらいに増やし、その余裕を利用者さんにお返ししていきたいです。具体的には利用者さんのリクエストにできる限り応じるようにする、利用者さんのお誕生日に心のこもったお祝いをするなど、利用者さん一人ひとりにスポットをあてて、小規模ならではのきめ細やかなサービス提供を継続していきたいと思っています。

残念ながら介護の仕事は続かない人が多いです。わたしが起業したことで、ここを、仕事で悩む同業の後輩が立ち寄って、悩みを打ち明けられる場にできればという思いもあります。幸いわたしは、市内でちょうど同じ時期に介護施設を立ち上げた女性と知り合うことができ、時々情報交換をしています。施設経営は始めたばかりですが、長年の

現場での経験や今回の起業の経験がいろんな意味で生かせていければというのが今の思いです。（2012 年２月取材）